

シ ラ バ ス

2018 年度（平成 30 年度）

岐阜保健短期大学

建学の精神

「命と向き合う心、知識、技を持った地域医療に貢献できる医療人の養成」

「保健医療に関する理論および技術を教授研究し、並びに豊かな人間性および高潔な人格を兼ね備えた資質の高い人材を養成することにより、保健医療の向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。」

看護学科教育理念

少子・高齢社会を迎えた今日、保健医療・福祉に対する社会の人々の期待は増大・多様化している。特に病院においては医療の高度化・過密化が進む中で、全ての医療職者に高い専門性と倫理性が厳しく求められている。さらに、平成12年4月に介護保険制度が発足し、看護職の活動の場は病院等の施設内にとどまらず、在宅・地域・職域及び福祉分野へと拡大している。このような背景の中で看護職者の養成においては、より深い専門知識、技術・技能を身に付け、常に自己の向上を図りながら看護の対象者及び家族に信頼と安心を与えられる、幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成が要請されている。

このような状況に鑑みて、本学看護学科は生命の尊厳と人間尊重の視点に立った、豊かな人間性と幅広い教養を基盤とし、深い専門知識・技術を身につけた総合的な判断力と、常に自己研鑽をし続ける意欲を持った看護師の育成を目指すものである。併せて、地域に根ざした実践者として地域の保健・医療・福祉の向上に貢献する。

教 育 目 標

- 1) 生命の尊厳について深く理解し、人間の痛みや苦しみ、喜びを共感できる心を持ち人としての権利を尊重して行動できる豊かな人間性を養う。
- 2) 人間、健康、環境、看護実践に関する専門的知識・技術を習得し、科学的な根拠に基づいた判断と問題解決行動がとれる基盤的能力を養う。
- 3) ライフサイクルの各期、健康のあらゆる段階の対象に応じた看護を実践するため、患者・家族との良好な人間関係を確立する能力を養う。
- 4) 保健・医療・福祉にかかわる人々と連携・協力して、看護の責任ある実施と共にチームの調整的役割を果たす能力を養う。
- 5) 社会の変化や医療・看護の進歩に対応して積極的に自己学習する能力を養う。

リハビリテーション学科教育理念

豊かな人間性と創造力を備えた資質の高い保健医療技術者を育成するとともに、地域に開かれた大学として生涯学習の機会を提供することにより、地域の人々の健康、福祉の向上に寄与する。

理学療法士、作業療法士が関与する様々な分野での高度な知識や技術に精通した専門職を養成するとともに、人間性豊かな自己実現に向けて前向きな努力を示す「人」の育成を目的とする。そのためには、「人の理解」、「人との協力」、「人の科学的分析」の視点で教育を進めることにより、高齢化、国際化、情報化と社会情勢の変化に的確に対応できる知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた保健医療技術者を育成することをめざす。

教 育 目 標

- 1) 人間と社会に対する深い理解と生命の尊厳の認識を深め、人としての権利を尊重できる保健医療技術者の育成。
- 2) 高度・専門医療に対応し得る幅広い知識・技術を備えた保健医療技術者の育成。
- 3) 進んで自ら学ぶ精神と態度を身につけ、高齢化、国際化、情報化等時代の変化に的確に対応できる保健医療技術者の育成。
- 4) 保健医療チームの一員として他職種と協調し、自ら考え積極的に保健医療活動を実践できる保健医療技術者の育成。

三つのポリシー

入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

岐阜保健短期大学では「医療に関する高度な知識と技術および豊かな人間性を持つ人材を育成する」ことを教育理念としています。この理念を達成するために本学では以下のような人材を求めています。

1. 人間と社会に対する深い理解と生命の尊厳に関する知識を持った、人としての権利を尊重できる人を受入れます。
2. 高度・専門医療に対応しうる幅広い知識・技術を習得し、自ら進んで学ぶ精神と医療人としての態度を身につけ、高齢化、国際化、情報化等の時代の変化に的確に対応できる能力を習得するための学習を継続できる人を受入れます。
3. 保健医療チームの一員として他職種と強調でき、自ら積極的に考え、保健医療活動を実践する努力を身につけられる人を受入れます。

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 各学科の教育理念および教育目標に示された人材を育成するため、看護学科では「総合科学科目」と「専門科目」の二つの学習区分を設定し、さらに専門科目は「専門支持科目」、「基幹科目」、「展開科目」に細分化したカリキュラムを用意します。

リハビリテーション学科では、「総合科学科目」と「専門科目」の二つの学習区分を設定し、専門科目を「専門基礎科目」と「専門展開科目」に細分化したカリキュラムを用意します。両学科ともこれらの学習区分がバランス良くかつ体系的に編成されたカリキュラムです。

2. このカリキュラムは、所定の科目を3年間で履修することにより各学科の専門知識や技能の修得に加えて、考える力、表現する力、実行する力、コミュニケーションなど高い人間性を身につけることができるように配慮されています。
3. このカリキュラムに基づく授業が一人ひとりの学生にとって、よりよい学習効果が向上するものになるよう丁寧な指導によって成長を支援します。

また、本学では授業に加えて課外活動も「人間力」養成の場であるとの認識から、学生の課外活動への積極的参加を奨励し、課外活動においても学生の成長を支援します。

学位授与方針（ディプロマポリシー）

本学では、建学の精神のもと、以下の能力を期待し、カリキュラムポリシーに基づく教育目標・学則に定める所定の授業を履修し、所定の単位を修得した学生に短期大学士（看護学・理学療法学・作業療法学）の学位を授与します。

1. 生命の尊厳と人間としての思いやり・人との絆を構築できる能力
2. 人間社会に対する幅広い知識と医療に関する専門知識と技術をもって根拠のある看護・リハビリテーションを実施できる能力
3. 対象となる人々や他職種と連携・協働できるコミュニケーション能力
4. 生涯を通じて自己学習し、自己研鑽できる能力
5. 地域医療に貢献し、国際化・情報化に対応できる幅広い視野と社会の要請に応えられる能力

履修要領

1. 履修方法等

1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、次の学期に分かれています。

前学期： 4月1日から9月30日まで

後学期： 10月1日から3月31日まで

2) 授業

(1) 授業時間割

授業は、前期・後期ごとに週単位で編成された授業時間割表により実施します。

授業時間割表は、毎学期の授業開始1週間前に掲示するとともに配布します。

なお、授業、講義室の変更及び休講は掲示・メール配信によって行います。また、教員の急病等については、当日掲示やメール配信される場合がありますので、必ず掲示等で確認してください。

(2) 授業時間と授業時間帯

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(3) 休講

授業担当者が、公務や急病等により授業が行えなくなる場合は、休講となります。

休講は、原則として1週間前から掲示・メール配信しますが、当日掲示による連絡になることがあります。必ず、登下校時に掲示で確認してください。また、休講の掲示・メール配信がなく、始業時刻から30分を経過しても担当教員が教室に来られない場合は、学事課に 連絡し指示を受けてください。

(4) 補講

休講等を補うための補講は、掲示・メール配信によりお知らせしますので、日時・教室等をよく確かめて受講してください。

(5) 集中講義

ある一定期間内に集中して講義を（集中講義）を行う科目があります。詳細は掲示・メール配信でお知らせします。

3) 履修方法

教育課程表及び授業時間割表にしたがい、各自が履修計画を検討し卒業までに計画的に卒業要件単位数を修得しなければなりません。履修上の注意事項は次のとおりです。

(1) 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。

- (2) 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。
- (3) 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

4) 履修登録

前期の始めに履修登録期間があります。この期間に前期・後期の履修登録の手続きを行ってください。履修登録表は、P3～P8に示してあります。

履修登録をしなければ、授業科目を受講し成績評価を受けることができません。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、または届け出た科目の履修を放棄することはできません。

5) 授業の出・欠席の取扱い

- (1) 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。
- (2) 事項が生じた場合は、本学所定の用紙により「遅刻・早退・欠席届・公欠・忌引き届」を提出しなければなりません。
 - ① 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいう。
 - ② 遅刻は、授業開始時刻の20分以内の遅れをいう。
 - ③ 早退は、授業終了前20分以内に退出した場合をいう。
- (3) 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に学事課へ提出し、学科長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも3日以内（土・日・祝等含まず）に学事課へ提出しなければなりません。

2. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、履修規程に定めるとおりの履修前提条件を満たしている必要があります。履修前提条件を満たしていない人は、実習科目を履修できませんので注意してください。

履修登録表 看護学科		学籍番号	氏名		No1			認定単 位数
	授業科目	単位数		配当 年次	登録科目に○を入れる			
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	
総合科学科目	外国語	英語Ⅰ（英会話・基礎）	1		1	前		
		英語Ⅱ（英会話・看護）	1		2	後		
		英語Ⅲ（英文読解）		1	1	後		
		中国語会話		1	2	前		
	科学情報	情報処理論	1		1	前		
		情報処理演習		1	2	後		
	人間と文化	人間関係論	2		1	後		
		人間と文学		2	1	前		
		人間と芸術		2	1	後		
		人間と哲学		2	1	前		
		岐阜の風土と生活		2	1	前		
	現代社会と人間	現代社会と人間		2	1	後		
		教育と人間		2	2	前		
		法律と人間		2	1	前		
		国際関係論		2	2	後		
	科学環境と	生命の科学		2	1	前		
		科学技術と環境		2	1	後		
小計（17科目）		5	23					
専門支持科目	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2		1	通		
		解剖生理学Ⅱ	1		1	前		
		免疫と感染	1		1	後		
		代謝と栄養	1		2	後		
		人間工学		1	1	後		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1		1	後		
		成人高齢者疾病治療論Ⅰ	1		2	後		
		成人高齢者疾病治療論Ⅱ	2		2	前		
		母性小児疾病治療論	1		2	通		
		精神疾病治療論	1		2	前		
		放射線治療論	1		2	後		
		薬剤治療論	1		1	後		
		感染防止論	1		1	後		
		東洋医学概論		1	1	後		
		リハビリテーション論		1	2	前		
		カウンセリング論		1	2	前		
	健康支援と社会保障制度	生涯人間発達学	1		1	前		
		公衆衛生学	1		1	前		
		健康と法律	1		1	前		
		社会福祉概論	1		1	前		
		保健医療福祉統計概説	1		3	後		
		国際医療活動論		1	2	前		
		医療経済論		1	2	後		
	小計（23科目）		19	6				
基幹科目	看護の基本	看護学概論	2		1	前		
		生命と倫理	1		2	後		
		看護技術論	2		1	前		
		看護過程論	1		1	後		
		生活行動援助技術論	2		1	前		
		回復促進援助技術論	2		1	後		
		発達看護概論	1		1	後		

履修登録表 看護学科		学籍番号	氏名		No2			認定単 位数	
	授業科目	単位数		配 当 年 次	登録科目に○を入れる				
		必修	選択		1年次	2年次	3年次		
基 幹 科 目	看護の 基本	家族看護概論	1		1	前			
		臨床看護概論	1		1	後			
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1	前			
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2	前			
		看護研究	1		2	前			
	ライフサイクル・健康レベル・健康障害に対応した看護				3	前			
		成人看護学概論	1		1	後			
		成人看護学援助論Ⅰ	2		2	前			
		成人看護学援助論Ⅱ	2		2	前			
		緩和ケア論	1		2	後			
		高齢者看護学概論	1		1	後			
		高齢者看護学援助論	2		2	前			
		小児看護学概論	1		1	後			
		小児看護学援助論	2		2	前			
		母性看護学概論	1		2	前			
		母性看護学援助論	2		2	後			
		精神看護学概論	1		2	前			
		精神看護学援助論	2		2	後			
		成人看護学実習Ⅰ	3		3	通			
		成人看護学実習Ⅱ	3		3	通			
		高齢者看護学実習Ⅰ	2		1	後			
		高齢者看護学実習Ⅱ	2		3	通			
		小児看護学実習Ⅰ	1		1	後			
		小児看護学実習Ⅱ	1		3	通			
		母性看護学実習	2		3	通			
	精神看護学実習	2		3	通				
	看護の統合と実践	地域看護学概論	1		2	前			
		地域看護学援助論Ⅰ	2		2	後			
		地域看護学援助論Ⅱ	1		2	後			
		看護管理論	1		2	前			
		災害看護論	1		2	前			
		臨床看護実践の実際	1		3	前			
		安全管理論（演習）	1		3	前			
		在宅看護論実習	2		3	通			
		統合実習	2		3	後			
	小計（41科目）		63	0					
展 開 科 目	ヘルスアセスメント論演習		1	3	前				
	ケアマネジメント論		1	2	後				
	認知症老人ケア論		1	3	前				
	救急医療看護論		1	3	前				
	代替医療論		1	3	前				
	小計（5科目）	0	5						
合計（86科目）		87	34						
卒業要件及び履修方法									
総合科学科目 必修5単位、選択8単位以上、合計13単位以上履修									
専門支持科目 必修19単位、選択2単位以上、合計21単位以上									
基幹科目 必修63単位履修									
展開科目 選択2単位以上									
卒業要件：99 単位以上									

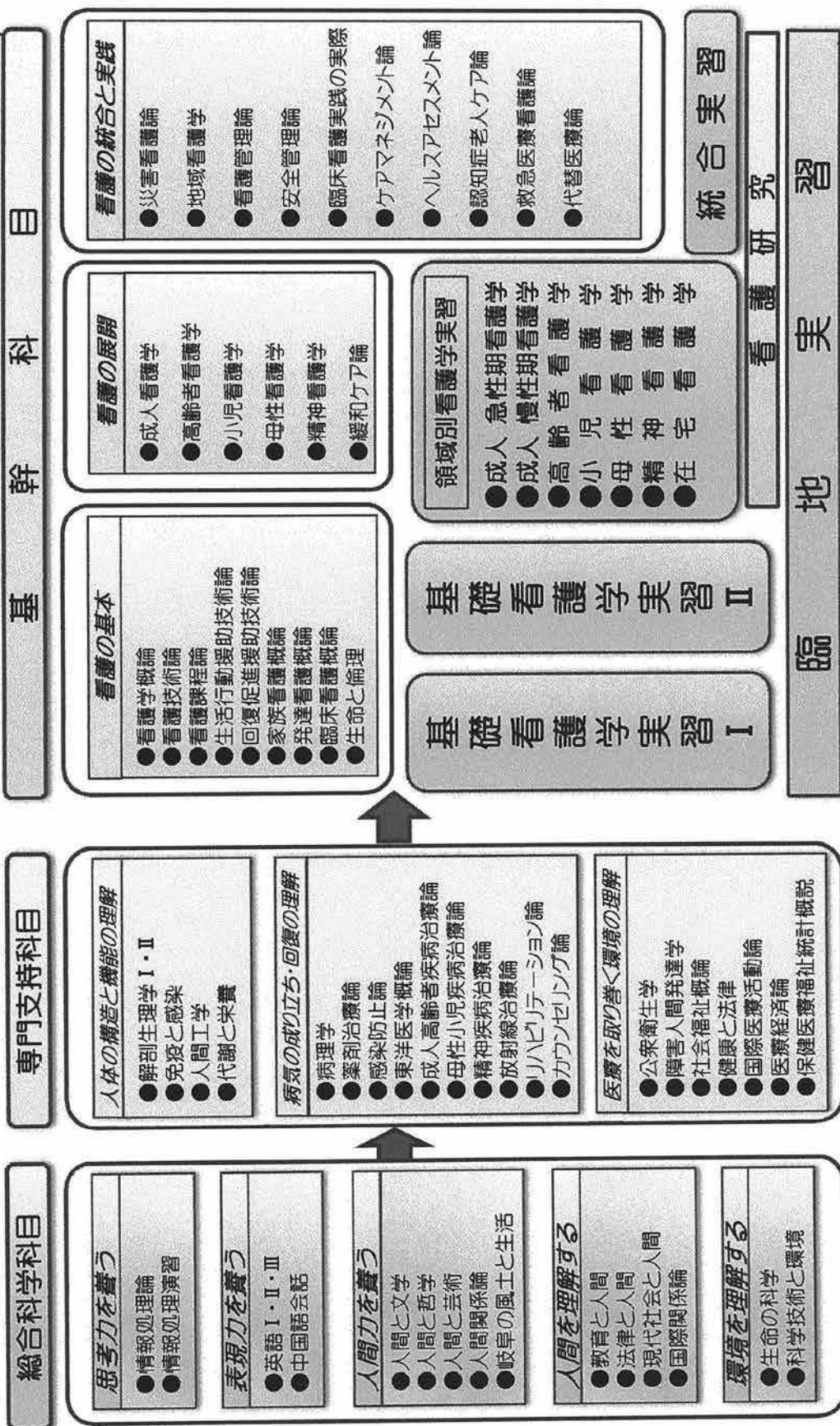
カリキュラムマップく看護学科へ

目 標	1 年		2 年		3 年		必要 単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎・応用を 可能にする 複雑性と協 同性・コミュニ ケーション 能力の修得 (総合科学科目)	外国語 英語Ⅰ(英会話・基礎)	(1) 英語Ⅲ(英文読解)	(1) 英語Ⅱ(英会話・看護)	(1)			(13) 必修 単位 以上
	情報科学 情報処理論	(1)	情報処理演習	(1)			
	人間と文化 人間と文学 人間と哲学 人間と芸術 岐阜の風土と生活	(2) (1) (1) (2)	人間関係論 人間と芸術 岐阜の風土と生活	(2) (2) (2)			
	現代社会と 人間 現代社会と人間 法律と人間	(2) (2)	現代社会と人間 法律と人間	(2) (2)			
看護の基礎 知識・能力 の修得 (専門支持科目)	環境と科学 生命科学 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ	(2) (1) (1) (1)	生命科学 解剖生理学Ⅰ 免疫と感染 人間工学	(2) (1) (1) (1)	代謝と栄養	(1)	
	疾病の成り 立ちと回復 の促進 薬理学 薬剤治療論 感染症論 放射線治療論 リハビリテーション論 カウンセリング論	(1) (1) (1) (1) (1)	成人高齢者疾病治療Ⅱ 精神疾病治療論 母性小児疾病治療論 放射線治療論 リハビリテーション論 カウンセリング論	(1) (1) (1) (1) (1)	成人高齢者疾病治療Ⅰ 精神疾病治療論 母性小児疾病治療論 放射線治療論 リハビリテーション論 カウンセリング論	(1) (1) (1) (1) (1)	(21) 必修 単位 以上
	健康支援と 社会保険制 度 公衆衛生学 健康と法律 社会福祉概論 生涯人間発達学	(1) (1) (1) (1)	公衆衛生学 健康と法律 社会福祉概論 生涯人間発達学	(1) (1) (1) (1)	医療経済論 医療経営概論 医療法 医療倫理	(1) (1) (1) (1)	
	看護の基本 看護過程論 看護技術論 回復促進援助技術論 発達看護概論 生活行動援助技術論 家族看護概論	(1) (2) (2) (2) (2) (1)	看護過程論 看護技術論 回復促進援助技術論 発達看護概論 生活行動援助技術論 家族看護概論	(1) (2) (2) (2) (2) (1)	看護研究 生命と倫理	(1) (1)	
看護の専門 知識・技術 の修得 (専門科目)	ライフサイ クル・健康 レベル・健 康障害に対 応した看護	(1) (1) (1) (1)	成人看護学概論 高齢者看護学概論 小児看護学概論	(1) (1) (1)	緩和ケア論 母性看護学援助論 母性看護学援助論 母性看護学概論 精神看護学概論 小児看護学援助論	(1) (2) (2) (1) (1) (1)	(42)
	看護の統合 と実践 臨床看護実践の実際 安全管理論演習	(1) (1)	臨床看護実践の実際 安全管理論演習	(1) (1)	臨床看護実践の実際 安全管理論演習	(1) (1)	
	看護の専門 知識・技術 の修得 (専門科目)	(1) (1) (1) (1)	ヘルスケアマネジメント論演習 認知症とケア論 緊急医療看護概論 代位医療概論	(1) (1) (1) (1)	ヘルスケアマネジメント論演習 認知症とケア論 緊急医療看護概論 代位医療概論	(1) (1) (1) (1)	(2) 必修 単位 以上
	看護の専門 知識・技術 の修得 (専門科目)	(1) (1) (1) (1)	成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 高齢者看護学援助論 母性看護学概論 精神看護学概論 小児看護学援助論	(1) (2) (2) (1) (1) (1)	成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 高齢者看護学援助論 母性看護学概論 精神看護学概論 小児看護学援助論	(1) (2) (2) (1) (1) (1)	(21)
実践的に処 理できる能 力の修得 (基幹科目)	基礎看護学実習Ⅰ 小児看護学実習Ⅰ	(1) (1)	基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習Ⅱ	(2) (1)	基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学実習Ⅲ	(2) (1)	(2) (2) (2) (2) (2) (2)
	基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習Ⅱ	(1) (1)	基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学実習Ⅲ	(1) (1)	基礎看護学実習Ⅳ 小児看護学実習Ⅳ	(1) (1)	(2) (2) (2) (2) (2) (2)
合計単位数	(25)内選択9	(27)内選択9	(25)内選択7	(17)内選択3	(6)内選択4	(16)	(99)

3年間の学びの流れ

(科目関連図:各科目がどのように関連しているかを理解して学習を進める)

教育理念「生活環境を整え、人々の健康に寄り添う看護者の育成」



看護実践力を身に付け、将来にわたり自立して活動できる基礎力の養成

豊かな人間性と幅広い視野・優れた知識技術を兼ね備えた
地域に貢献できる看護師

3. 試験、成績評価及び単位の認定

1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時試験を行うことがあります。

試験を受けることができる者は、当該科目時間数の3分の2以上出席した者です。

尚、学生納付金を延納・滞納し分納を認められていない者は、受験を認めません。

(1) 定期試験

定期試験は、前期・後期の毎期に1回実施されます。

(2) レポート試験

上記の試験に代わり、レポートの提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

(3) 追試験

「病気その他やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者」のみです。

正当な理由を裏付ける第三者の証明書（日付けが入ったもの）を添え、学事課に提出し許可を受けてください。

(4) 再試験

試験及び追試験に不合格となった者は、願い出により再試験を実施します。

2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から1週間以内に追試験願を学事課に提出しなければなりません。なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引や事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することになります。

3) 追実習の手続き

病気その他やむを得ない理由により実習を欠席し、規定の実習時間数に満たなかった場合、願い出が認められた者に対し追実習を行うことがあります。

4) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

5) 再実習の手続き

実習単位が認定されなかった場合は、本人の願い出により実習科目責任者が認めた場合に再実習を受けることができます。

定められた期日までに再実習願に再実習登録料4,000円と実習指導料の実費を添え

て申請し、学長の承認を得なければなりません。

6) 学内における再実習費について

看護学科及びリハビリテーション学科の学生で実習単位が認定されなかった場合、学内であっても再実習登録料 4,000 円と実習指導料 1,400 円（1 日分）を支払わなければなりません。

7) 試験上の注意

(1) 試験会場について

- ・試験はすべて、定められた講義室で行います。
- ・座席は学籍番号順になります。（別途掲示します）

(2) 試験開始にあたっての注意

- ・試験の際、机上には学生証、筆記用具のみを置いてください。
- ・その他、科目によって指示された物品は机上においても構いません。

※学生証を忘れた場合は、事務局にて仮学生証の発行を受けてください。

（仮学生証の発行手数料は、1,000 円で、当日限り有効です。）

- ・かばんは口を閉め、足元においてください。
- ・携帯電話は電源を切り、時計代わりに使用しないでください。

(3) 試験中の注意

- ・試験開始時間の 5 分前までに着席してください。
- ・開始時間から 20 分経過までは、遅刻扱いとなり、試験を受けることができます。
- ・それ以降は入室できません。当該科目の試験は欠席扱いとなります。
- ・やむを得ない事情（交通事情等）により、20 分以内に入室できないと思われる場合は、必ず電話連絡をしてください。
- ・試験開始 30 分後から退室することができますが、再入室は認めません。
- ・不正行為を行なった場合、直ちに退室となり、当該科目は失格となります。
さらに学則第 28 条（懲戒）の適用対象となります。
- ・質問がある場合、物を落とした場合、トイレに行きたい場合等は、手をあげて監督教員に申し出てください。

(4) その他の注意

- ・病気、その他やむを得ない理由により試験を受けることができない具体的事項（学則第 23 条第 2 項（3））

本人の病気又は負傷の場合	医師の診断書等
二親等以内の親族の死亡の場合	会葬葉書等
試験当日の交通機関等の事故	公共交通機関の証明書
就職、進学試験の場合	証明書

※ 追試験および再試験については本学履修規程に従います。

7) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第23条第2項)

成績は、本人に優、良、可、不可の評語をもって通知します。

評語	定期試験、レポート試験	追 試 験	再 試 験
優	100点～80点	なし	なし
良	79点～70点	79点～70点	なし
可	69点～60点	69点～60点	60点

8) 成績発表 試験の可否結果は、掲示によりお知らせします。

4. 卒業要件、学位の授与及び国家試験受験資格

1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に3年以上在学し、学則に定める教育課程表に従って次の表に示す単位数を修得しなければなりません。

<看護学科の卒業要件単位数>

区 分		必修科目	選択科目	合計
総 合 科 学 科 目		5単位	8単位以上	13単位以上
専 門 基 礎 分 野	専 門 支 持 科 目	19単位	2単位以上	21単位以上
	基 幹 科 目	63単位		63単位
	展 開 科 目		2単位以上	2単位以上
卒 業 要 件 単 位 数		87単位	12単位以上	99単位以上

<理学療法学専攻、作業療法学専攻>

区 分		必修科目	選択科目	合計
総合科学科目		10単位	4単位以上	14単位以上
専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	26単位	1単位以上	27単位以上
	専 門 展 開 科 目	57単位	—	57単位
卒 業 要 件 単 位 数		93単位	5単位以上	98単位以上

2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、看護学科は、「短期大学士（看護学）」の学位を、リハビリテーション学科理学療法学専攻は「短期大学士（理学療法学）」の学位を、作業療法学専攻は「短期大学士（作業療法学）」の学位が授与され、看護師、理学療法士、作業療法士の国家試験受験資格が得られます。

国家試験は、厚生労働省により年1回（2月または3月）実施されます。

岐阜保健短期大学履修規程

(総則)

第1条 本学における授業科目（以下「科目」という。）の履修方法及び修了認定は、学則によるもののほか、この規程による。

(履修方法)

第2条 学生は、教育課程表（その1）～（その6）に定める必修科目のほか、卒業に必要な単位数以上の選択科目を履修しなければならない。ただし、別表1-1、1-2、1-3に掲げる実習科目を履修するためには、別表に掲げる履修要件を満たさなければならない。

(履修届)

第3条 学生は各年度に履修する選択科目について、所定の期日までに履修届を学事課へ提出しなければならない。

- 2 学生は、前項の届出をしたのちにおいては、任意に履修科目を変更し、又は、届け出た科目の履修を放棄することはできない。
- 3 単位を修得した科目は、再び履修することはできない。

(単位の認定)

第4条 履修の終了者に対し、試験、その他総合的評価を行い、合格者に所定の単位を認定するものとする。

(試験の方法)

第5条 試験は、科目別にその科目の担当教員がこれを行なう。ただし、担当教員に事故のある場合は、他の教員が代わってこれを行なうことができる。

(受験資格)

第6条 定期試験は、原則として当該科目時間数の3分の2（臨地実習・臨床実習については5分の4）以上出席しなければ、受験することができない。

- 2 前項時間に達しないものは、次年度以降において履修し終了しなければならない。
- 3 実習において、病気その他やむを得ない理由により履修要件に満たない場合は、当該年度に追実習を行うことがある。

(定期試験)

第7条 定期試験は終了した授業科目について、原則学期末に行うものとする。

- 2 学期の中途に終了した科目の定期試験及び追・再試験は、学期末以外の必要と認めた時に行うことができる。
- 3 学生が試験を欠席した場合には、当該科目の試験を放棄したものとみなし、受験資格を失い次年度以降第3条（履修届）の提出から再度履修しなくてはならない。

(追試験及び追実習)

第8条 病気その他やむを得ない理由により試験を受けなかった者は、願い出により追試験を受けることができる。

- 2 前項の願い出は、医師の診断書又はその理由を証する書面を添えて提出しなければならない。
- 3 前項の規程にかかわらず、実習において病気その他やむを得ない理由で欠席し、規定の時間数に満たなかった場合、願い出により追実習を行うことができる。
- 4 追試験及び追実習の成績は、79点以上の場合でも79点と評価する。
(再試験及び再実習)

第9条 定期試験、臨地実習及び臨床実習に不合格となった者は、願い出により再試験及び再実習を受けることができる。

- 2 再試験を受けようとする者は、再試験願に再試験料3,000円を添えて試験の前日17時までに学事課へ提出しなければならない。
- 3 前項の規程にかかわらず実習単位が認定されなかった場合には再実習を受けることができる。
- 4 再試験及び再実習の成績は、60点以上の場合でも60点と評価する。
- 5 再実習の場所が、学内であっても同様に再実習登録料4,000円と実習指導料1,400円(1日分)を支払うものである。

(成績の評価)

第10条 試験等の成績の評価点は、百点満点とし、60点以上合格とする。

- 2 2人以上の教員により授業が分担される科目については、当該教員の合議により、成績の評価を行なう。
- 3 試験を受けなかった者及び履修を全講義の2/3未満で放棄した者は第6条(受験資格)第7条(定期試験)により失格とし当該年度の単位修得にかかわる試験は受験できない。
- 4 入学前の既修得単位認定された科目については、「認定」と表記する。

評価

評語	定期試験評価点
優	100点～80点
良	79点～70点
可	69点～60点

追試験評価点	再試験評価点
なし	なし
79点～70点	なし
69点～60点	60点

(筆記試験時の入退出)

第11条 筆記試験時の入退出については、次の各号に定めるところによる。

- 一 試験開始時刻より20分以上遅れた者は、試験室に入室することができない。

二 試験開始後30分を経過するまでは、試験室から退出することができない。

(試験における不正行為)

第12条 試験において不正行為があったときは、当該科目を失格とし、学則第28条、学生の懲戒等に関する規則第7条別表を適用する。また、失格となった科目については、次年度に再度、履修しなければならない。

2 不正行為とみなされた学生は、審議結果が出るまで受験することはできるが、当該期間に実施される全受験結果は「保留」とする。

(進級の制限)

第13条 学長は、教授会の議を経て、各学年においてその学年末で終了する全ての必修科目の単位を修得できなかった者を、次学年へ進級させないものとする。

(再履修)

第14条 再試験に不合格となった者は、次年度以降において当該科目を再履修し、終了しなければならない。ただし、教務委員会で特別な事情があると認められた場合は、再度試験を行うことができる。

(卒業延期その他の措置)

第15条 学長は、必要な単位が認定されなかった者に対しては、教授会にはかり卒業延期その他の措置を決定する。

(補 則)

第16条 この規程の施行に関し必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

別表 1-1

実習科目の履修要件

看護学科

実習科目の履修に際して、各年次において以下の要件を満たさなければなりません。

実習科目	配当年次	履 修 要 件
基礎看護学実習Ⅰ	1 学年次前期	・実習開始までに、1 学年次前期配当の必修科目すべてを履修していること
小児看護学実習Ⅰ 高齢者看護学実習Ⅰ	1 学年次後期	・実習開始までに、1 学年次配当の必修科目すべてを履修していること
基礎看護学実習Ⅱ	2 学年次前期	・1 学年次終了時、1 学年次配当の必修科目すべてを修得していること ・実習開始までに、2 学年次前期配当の必修科目すべてを履修していること
母性看護学実習 小児看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 在宅看護学実習 成人看護学実習 高齢者看護学実習Ⅱ 統合実習	3 学年次前期 ・後期	・2 学年次終了時、1・2 学年次配当の必修科目すべてを修得していること ・実習開始までに、3 学年次前期配当の必修科目すべてを履修していること

※ 上記履修要件にかかわらず、学修は系統立てた積み重ねです。定められた年次配当ごとに着実に単位を修得していくよう心がけましょう。

看護学科

目次

看護学科

科目区分		科目名	必修	選択	配当年次	教員名	ページ
総合 科学 科目	外国語	英語Ⅰ（英会話・基礎）	1		1 前	平野 弘	27
		英語Ⅱ（英会話・看護）	1		2 後	平野 弘	28
		英語Ⅲ（英文読解）		1	1 後	平野 弘	29
		中国語会話		1	2 前	于海	30
	情報科学	情報処理論	1		1 前	則竹翔、岩田しずか、 足立美代子	31
		情報処理演習		1	2 後	則竹翔、岩田しずか、 足立美代子	32
	人間と文化	人間関係論	2		1 後	小島誠	33
		人間と文学		2	1 前	稲葉政徳	34
		人間と芸術		2	1 後	安藤理佳	35
		人間と哲学		2	1 前	鷺見コト江	36
		岐阜の風土と生活		2	1 前	山本澄子、則竹翔	37
	現代社会と人間	現代社会と人間		2	1 後	鷺見コト江	38
		教育と人間		2	2 前	堀学	39
		法律と人間		2	1 前	山中雅子	40
		国際関係論		2	2 後	山本澄子、野田みや子	41
	環境と 科学	生命の科学		2	1 前	永井博式	42
		科学技術と環境		2	1 後	佐藤和良	43
専門 支 持 科 目	人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ	2		1 通	岩久文彦	44
		解剖生理学Ⅱ	1		1 前	永井博式	45
		免疫と感染	1		1 後	永井博式	46
		代謝と栄養	1		2 後	熊崎貴仁	47
		人間工学		1	1 後	浅井佳士	48
	疾病の成り立ち と回復の促進	病理学	1		1 後	川田憲司	49
		成人高齢者疾病治療論Ⅰ	1		2 後	河田美紀、智原栄一、 河田好泰	50
		成人高齢者疾病治療論Ⅱ	2		2 前	河田美紀、豊田雅孝	51
		母性小児疾病治療論	1		2 通	尾藤長雄、磯貝光治	52
		精神疾病治療論	1		2 前	井上真人	53
		放射線治療論	1		2 後	河田美紀	54
		薬剤治療論	1		1 後	永井博式	55
		感染防止論	1		1 後	野田みや子	56
		東洋医学概論		1	1 後	星慎一郎	57
		リハビリテーション論		1	2 前	小島誠	58
		カウンセリング論		1	2 前	林知義	59
	健康支援と社会 保障制度	生涯人間発達学	1		1 前	稲葉 政徳	60
		公衆衛生学	1		1 前	田中耕	61
		健康と法律	1		1 前	浅井佳士	62
		社会福祉概論	1		1 前	水木幸子	63
		保健医療福祉統計概説	1		3 後	野田みや子、他担当教員	64
		国際医療活動論		1	2 前	山本澄子	65
		医療経済論		1	2 後	野田みや子	66

科目区分		科目名	必修	選択	配当年次	教員名	ページ
基 幹 科 目	看護の基本	看護学概論	2		1 前	野田みや子	67
		生命と倫理	1		2 後	石田美知	68
		看護技術論	2		1 前	山本澄子	69
		看護過程論	1		1 後	山本澄子	70
		生活行動援助技術論	2		1 前	山本澄子、水木幸子	71
		回復促進援助技術論	2		1 後	山本澄子、水木幸子	72
		発達看護概論	1		1 後	森口信子	73
		家族看護概論	1		1 前	則竹翔	74
		臨床看護概論	1		1 後	椎名祐樹	75
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1 前	山本澄子他、全教員	76
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2 前	山本澄子他、全教員	77
		看護研究	1		2 3 後～	野田みや子、山本澄子 他全教員	78
	ライフサイク ル・健康レベ ル・健康障害に 対応した看護	成人看護学概論	1		1 後	高木繁子、加藤睦美	79
		成人看護学援助論Ⅰ	2		2 前	高木繁子、加藤睦美	80
		成人看護学援助論Ⅱ	2		2 前	高木繁子、加藤睦美	81
		緩和ケア論	1		2 後	高木繁子、水木幸子	82
		高齢者看護学概論	1		1 後	野田みや子	83
		高齢者看護学援助論	2		2 前	野田みや子	84
		小児看護学概論	1		1 後	浅井佳士	85
		小児看護学援助論	2		2 前	浅井佳士	86
		母性看護学概論	1		2 前	石田美知	87
		母性看護学援助論	2		2 後	石田美知	88
		精神看護学概論	1		2 前	清水きよ子	89
		精神看護学援助論	2		2 後	清水きよ子	90
		成人看護学実習Ⅰ	3		3 通	高木 繁子他全教員	91
		成人看護学実習Ⅱ	3		3 通	高木 繁子他全教員	92
		高齢者看護学実習Ⅰ	2		1 後	野田みや子、久保田里奈	93
		高齢者看護学実習Ⅱ	2		3 通	野田みや子、久保田里奈	94
		小児看護学実習Ⅰ	1		1 後	浅井佳士、則竹翔	95
		小児看護学実習Ⅱ	1		3 通	浅井佳士、則竹翔	96
		母性看護学実習	2		3 通	石田美知、森ゆか子	97
		精神看護学実習	2		3 通	安田仁代	98
	看護の統合と 実践	地域看護学概論	1		2 前	椎名祐樹	99
		地域看護学援助論Ⅰ	2		2 後	椎名祐樹、則竹翔	100
		地域看護学援助論Ⅱ	1		2 後	椎名祐樹、則竹翔	101
		看護管理論	1		2 前	加藤睦美	102
災害看護論		1		2 前	森口信子	103	
臨床看護実践の実際		1		3 前	野田みや子他、全教員	104	
安全管理論（演習）		1		3 前	高木繁子、岩田しずか	105	
在宅看護論実習		2		3 通	則竹翔、五島敬子	106	
統合実習		2		3 後	高木繁子他全教員	107	
展 開 科 目	ヘルスアセスメント論演習		1	3 前	森口信子	108	
	ケアマネジメント論		1	2 後	森口信子	109	
	認知症老人ケア論		1	3 前	野田みや子、水木幸子	110	
	救急医療看護論		1	3 前	森口信子、浅井佳士、 則竹翔	111	
	代替医療論		1	3 前	野田みや子、石田美知	112	

授業科目名	英語I（英会話・基礎）	担当教員名	平野 弘
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修／選択	必修
授業の概要	イギリスに関連するミステリーを材料に、色、動物、植物、昆虫、祝日、身体等を使った慣用表現を学ぶことによって会話力を涵養する。また、掲示板や看板に使われる英語表現を学ぶことによって、表現力を身につける。 学生発信型の授業形態もとっていく。		
到達目標	読む、話す、書く、聞くの4技能の向上と、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	①:The Tower of London	ロンドン塔	旅行に関する慣用表現
第2回	②:Wizards	魔法使い	動物を使った英語表現 1
第3回	③:Witches	魔女	動物を使った英語表現 2
第4回	④:Animal Superstitions(I)	動物にまつわる迷信 I	動物を使った英語表現 3
第5回	⑤:Animal Superstitions(II)	動物にまつわる迷信 II	鳥を使った英語表現
第6回	⑥:Ghosts	幽霊	身体の部位を使った英語表現
第7回	⑦:Mermaids and Mermen	人魚	魚類を使った英語表現
第8回	⑧:Dragons	ドラゴン	爬虫類を使った英語表現
第9回	⑨:Nessie	ネッシー	自然現象を使った英語表現
第10回	⑩:Crop Circle	ミステリーサークル	気象を使った英語表現
第11回	⑪:Stonehenge	ストーンヘンジ	金属名を使った英語表現
第12回	⑫:Fairlies	妖精	野菜を使った英語表現
第13回	⑬:Halloween	ハロウィーン	記念日や祝日を使った英語表現
第14回	⑭:Christmas	クリスマス	植物を使った英語表現
第15回	⑮:First-Footing	ファースト・フーティング	
テキスト	『Magical Mystery Tour』 弓プレス 船田秀佳		
参考書	ハンドアウトを必要に応じて配付		
評価方法	定期試験50％ レポート・小テストなど平常点50％		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜日 12：10～12：50 研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> Warm Up ListeningはCDを何度も聞いて音読の練習をする。Exercise Aは辞書を引いて調べておくこと。Exercise CとEは自分なりに問題を解いておくこと。 <復習> Warm Up Listeningを正しい発音ですらすら読めるまで音読練習する。授業で扱った問題を再度やってみて理解度をチェックするとともに習った表現や新しい単語を覚える。		

授業科目名	英語Ⅱ (英会話)	担当教員名	平野 弘
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修／選択	必修
授業の概要	医療現場や医療専門分野では、英語でのコミュニケーション能力が求められている。看護・リハビリなど、医療現場を想定したテキストを用いて、医療従事者としてのマナーとホスピタリティを習得する。学生発信型の授業形態もとっていく。		
到達目標	医療の現場で頻繁に使われる表現はできるだけ暗記し、実際の場面に遭遇したとき、とっさに言えるくらい練習することが望ましい。命に関わる英語を学ぶという気概を持って取り組もう。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	①:基本コミュニケーション	励ましの表現	
第2回	②:あいさつと自己紹介	I'm pleased to meet you.	
第3回	③:訪問予約	Let me check my schedule.	
第4回	④:道順	I'd like to know～.	
第5回	⑤:入浴	Would you like ～？	
第6回	⑥:打ち合わせ・連絡	How can I do that？	
第7回	⑦:チームワーク	How's everything？	
第8回	⑧:基本動作	動作表現Can you～？	
第9回	⑨:看護・介護の方針の説明	We can offer you～.	
第10回	⑩:予防リハビリ	Regular exercise	
第11回	⑪:介護のいろいろ	Home care service	
第12回	⑫:リラクゼーション	Elements of relaxation	
第13回	⑬:カウンセリング	Good relationship	
第14回	⑭:患者や家族への思いやり	Hospitality for patients	
第15回	⑮:役立つ特技の紹介	I have some talents.	
テキスト	English for Manners and HospitalityⅢ『マナーとホスピタリティの英語Ⅲ』弓プレス 古関博美 他		
参考書	ハンドアウトを必要に応じて配付		
評価方法	定期試験50％ 小テスト・平常点など50％		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜日 12：10～12：50 研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> CDを何度も聞いて文を大きな声でつまらずに読めるように練習をする。Exerciseを自分の力で解いておく。		<復習> 出てきた文をすらすら読めるまで音読練習する。授業で扱った問題を再度やってみて理解度をチェックするとともに習った表現や新しい単語を覚える。

授業科目名	英語Ⅲ（英文読解）	担当教員名	平野 弘
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修／選択	選択
授業の概要	英文の基本的な構造を学びなおすためのテキストを使い、そこで得た知識を読解に応用する練習を繰り返す。基本項目の習得と共に「タイタニック号の遭難」についての読み物にも取り組む。		
到達目標	英文の基本的な構造を理解することによって、2年生で学ぶ医療英語の理解につながる力を身につける。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	動詞の種類	英語の動詞について	
第2回	否定文 It's the Titanic.	否定文の種類	
第3回	疑問文 A Floating Palace.	様々な疑問文	
第4回	助動詞 Departure	助動詞の種類	
第5回	第1・第2文型 Iceburg①	文型 SV SVC 主格補語について	
第6回	第3・第4文型 Iceburg②	文型 SVO SV00 目的語について	
第7回	進行形 Iceburg③	進行形の種類	
第8回	受動態 Lifeboats	様々な受動態	
第9回	第5文型 The Miracle ①	SVOC（知覚・認識） 目的格補語について（1）	
第10回	第5文型 The Miracle ②	SVOC（使役・許可・願望） 目的格補語について（2）	
第11回	完了形 The Miracle ③	様々な完了形	
第12回	動名詞 White Lie	動名詞の働き	
第13回	不定詞① End of their lives	不定詞（名詞用法）	
第14回	不定詞② End of their lives	不定詞（形容詞、副詞用法）	
第15回	分詞 The Californian	分詞について（現在分詞、過去分詞の整理）	
テキスト	「大学基本英文法とリーディングFirst Voyage」（南雲堂）		
参考書	ハンドアウトを必要に応じて配付		
評価方法	定期試験50％ 小テスト・平常点など50％		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜日 12：10～12：50 研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ Exerciseを自分の力でやっておく。わからないところは授業で理解する。Reading Practiceの本文はCDをよく聞いて音読の練習をする。		＜復習＞ 出てきた文をすらすら読めるまで音読練習する。授業で扱った問題を再度やってみて理解度をチェックするとともに習った表現や新しい単語を覚える。

授業科目名	中国語会話	担当教員名	于 海
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように教授する。		
到達目標	わずか15回の授業回数ではあるが、学習したことが、医療の現場で応用、活用できることをめざして中国語表現の骨組みを習熟させる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	中国語学概論	中国語の特性を概説する	
第2回	中国語の表現	正書法の決めを説明する	
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する	
第4回	中国語の音声②	声母、韻母を詳説する	
第5回	中国語の語順	語順の3原則を詳説する	
第6回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点を提示する	
第7回	中国語の表現の構造	命題とモダリティーについて詳説する	
第8回	中国語の表現①	疑問、比較、使役の表現を説明する	
第9回	中国語の表現②	否定、アスペクト、'有'の表現を説明する	
第10回	中国語の表現③	既知、未知について説明する	
第11回	中国語の表現④	可能、受身、程度補語について詳説する	
第12回	中国語の表現⑤	前置詞フレーズについて詳説する	
第13回	中国語の表現⑥	'一点'、'論'について詳説する	
第14回	中国語の表現⑦	補語、接続語について詳説する	
第15回	中国語の表現⑧	まとめ	
テキスト	プリント配布		
参考書	随時紹介する		
評価方法	平常点30%、ペーパーテスト70%		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 配布されたプリントを読んでおきましょう。		<復習> プリントを基に振り返りとまとめをしておきましょう。

授業科目名	情報処理論	担当教員名	則竹 翔、岩田 しずか、足立 美代子
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必須
授業の概要	情報化の進んだ現代においては、医療・保健分野においてもパソコンの使用は必要不可欠である。個人情報や守秘義務についても理解をする必要がある。コンピュータリテラシーとして、パソコンの基本的な使い方、Word、Excelなど基本的な操作を学習する。		
到達目標	個人情報保護や守秘義務について説明できる。 Word、Excel等を用いて、文章作成能力や表計算能力を身につけ、教科書等を用いなくても文章の作成や表計算ができる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	情報セキュリティ①	守秘義務について理解する	
第2回	情報セキュリティ②	個人情報保護法について理解する	
第3回	情報セキュリティ③	情報セキュリティ・情報漏洩対策について理解する	
第4回	情報セキュリティ④	インターネットに潜む悪意について理解する	
第5回	情報セキュリティ⑤	クラウドサービスについて理解する	
第6回	Wordの基礎①	表紙、テーマの選択について理解する	
第7回	Wordの基礎②	ヘッダーとフッター、テキストボックスを理解する	
第8回	Wordの活用①	文章の編集機能について理解する	
第9回	Wordの活用②	クリップアート、ワードアートについて理解する	
第10回	Wordの活用③	表を作成し、デザイン・レイアウトを理解する	
第11回	Excelの基礎①	Excelの操作方法、表の作成を行い、理解する	
第12回	Excelの基礎②	量的データよりグラフの作成を行い、理解する	
第13回	Excelの基礎③	各グラフ特徴とグラフの選択について理解する	
第14回	Excelの基礎④	グラフの種類と変更について理解する	
第15回	Excelの基礎⑤	オブジェクト機能について理解する	
テキスト	実践ドリルで学ぶOffice活用術 noa		
参考書	情報利活用 文書作成 Word 2016対応 日経BP社 情報利活用 表計算 Excel 2016対応 日経BP社		
評価方法	レポート課題（90％） 授業態度（10％）		
オフィスアワー	金曜日 16：10～17：50		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ テキストを前もって読んでおくこと		＜復習＞ その日に行った講義内容を再度実施してみること

授業科目名	情報処理演習	担当教員名	則竹 翔、岩田 しずか、足立 美代子
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	電子カルテの導入や発表におけるプレゼンテーション能力が医療の現場でも必要不可欠となっている。また、簡単な統計処理など研究においても必要になる。WordやExcelなどを使用し、文章作成や表計算等の知識を身につける。		
到達目標	①関数を用いてデータの分析ができる。 ②データを用いて統計処理ができる。 ③レポート作成の基本ルールを理解する。 ④プレゼンテーションを行うことができる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	Word文章の作成①	罫線の設定や箇条書きの設定を理解する	
第2回	Word文章の作成②	オブジェクト機能を理解する	
第3回	Word文章の作成③	段組み、ドローキャップについて理解する	
第4回	Word文章の作成④	表のデザイン、表中での四則演算を理解する	
第5回	Word文章の作成⑤	Smart Art、グラフの設定を理解する	
第6回	Excelの活用①	オートサムボタン（MAX、MIN等）を理解する	
第7回	Excelの活用②	ROUND関数、IF関数を理解する	
第8回	Excelの活用③	COUNTIF関数、VLOOKUP関数を理解する	
第9回	Excelの活用④	条件付き書式等を理解する	
第10回	Excelの活用⑤	HLOOKUP関数、SUMIF関数を理解する	
第11回	PowerPointの作成①	プレゼンテーションの基本を理解する	
第12回	PowerPointの作成②	わかりやすいストーリー構成を作成する	
第13回	PowerPointの作成③	センスアップするレイアウトデザインを作成する	
第14回	PowerPointの作成④	数値をアピールする表やグラフ活用を作成する	
第15回	PowerPointの作成⑤	アニメーション効果を理解する	
テキスト	学生のための Office2016&情報モラル noa		
参考書	随時紹介		
評価方法	レポート課題（90％） 授業態度（10％）		
オフィスアワー	金曜日 16：10～17：50		
準備学習 （予習、復習）	<予習> テキストを前もって読んでおくこと		<復習> その日に行った講義内容を再度実施すること

授業科目名	人間関係論	担当教員名	小島誠
学年	1	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	人と人との関係の上りハビリテーションは成り立っています。その仕組みと形成過程を学習します。		
到達目標	人との関わりの重要性和そのソーシャルスキルを演習を交えて理解する。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	オリエンテーション(体験学習の紹介)	第一印象の重要性	
第2回	自己紹介	自己紹介を行う上で効果的な自己紹介の方法	
第3回	自己紹介	自己紹介を行う上で効果的な自己紹介の方法	
第4回	インタビューと他者紹介	その人らしさを他者に伝える	
第5回	自分自身を理解すること	自身の特性を知り人間関係に活かす	
第6回	人間関係を知る	人間関係における自分の関わり方	
第7回	人間関係における役割	役割の重要性	
第8回	人間関係における役割	役割の重要性（グループワーク形式の演習を含みます。）	
第9回	人間関係構築方法	実際に良好な人間関係の構築手段を構築しよう	
第10回	これからの人生を体験	自分にとって納得のいく人生とは何か	
第11回	コミュニケーションにおける要素	非言語的コミュニケーション	
第12回	協調性について	協力と非協力の観点から対人関係のあり方	
第13回	説得の過程とバイアス	マスメディアから学ぶ人の心の変化	
第14回	グループワーク	KJ法を使い問題解決と課題を学習	
第15回	グループワーク	KJ法を使い問題解決と課題を学習(発表)	
テキスト	演習用ワークシートを講義中に配布します。＊講義中に官製はがきを準備していただきます。		
参考書			
評価方法	各回ごとの課題提出30%、レポート課題70%		
オフィスアワー	月曜日 水曜日 金曜日 16：10～17：30 研究室		
準備学習 (予習、復習)	＜予習＞ 次回授業内容を各回ごとに指示しますので、それに従ってください。		＜復習＞ スライド・資料を再度読み返し次の講義に備えてください。

授業科目名	人間と文学	担当教員名	稲葉政徳
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	近年は世代を問わず、人間関係の希薄化やコミュニケーション不足が問題視されている。特に医療従事者の人間性の良しあしは医療サービスの質に直接的な影響を与える。本講義では、平易かつ人間学を踏まえた文章を読みながら、自分自身を見つめなおし、心の底から他者の存在を尊敬できることを目的とする。		
到達目標	社会が自分自身と他者との相互関係で成り立っていることを再確認したうえで、他者の存在を尊び、自分自身の人間性を日々練磨することを意識していけるようにする。レポートなどで正しい文章が書けるようにする。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	4つの「じんざい」	人としての在り方を学ぶ	
第2回	「あいさつ」は自分を変える	あいさつの心を学ぶ	
第3回	「掃除」は「心」もきれいにできる	掃除の大切さを学ぶ	
第4回	「素直」は人をどこまでも成長させる	素直な心とは何かを学ぶ	
第5回	「人生の役割」を見つける	「人生の役割」を自覚することの大切さを学ぶ	
第6回	「おもてなしの心」	人をもてなす心を学ぶ	
第7回	「ツキを呼ぶ魔法の言葉」	最悪な状況であっても「ツイてる」という思考	
第8回	「与える者は与えられる」	「与える人」になるための心構えを学ぶ	
第9回	桜梅桃李　さまざまな人の存在	さまざまな特質をもつ人たちを尊重する。	
第10回	人生は最終章で決まる	自らの人生観について再考する。	
第11回	陰徳あれば陽報あり	人知れぬ奉仕や善行が福德を積むことを学ぶ。	
第12回	よからんは不思議わるからんは一定	状況に柔軟に対応するための心構えとは？	
第13回	ありのままの自分	自分を客観的に見つめ考えていく。	
第14回	生き延びる訓練	困難に立ち向かうことを学ぶ。	
第15回	これからの生き方を考える	提出課題の説明、まとめ	
テキスト	「あなたの人生が変わる　奇跡の授業」比田井和孝、比田井美恵（王様文庫）		
参考書	「一瞬であなたが輝く！　奇跡の授業」比田井和孝、比田井美恵（王様文庫）		
評価方法	小論文課題（800～1200字程度）を1題：90％　授業態度：10％		
オフィスアワー	火曜、木曜、金曜日　16時20分～17時30分　5号館1階　共同研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞テキストにて、次回の章にひととおり目を通しておくこと。シラバスに基づく。		＜復習＞毎回講義後に指定した重要箇所を復習していただく。

授業科目名	人間と芸術	担当教員名	安藤 理佳
学年	1	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	音楽療法とは何かについて、音楽療法の歴史を踏まえながら現在行われている音楽の療法的活用について学ぶ。実際の音楽活動も授業内に取り入れ、音楽が人の心と身体にどのように作用するか体験する。		
到達目標	1. 音楽療法について基礎的な知識を得ている。 2. 高齢者、児童、成人を対象とした音楽療法について、どのような活動が行われているか理解している。 3. 音楽療法の必要性を理解している。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	オリエンテーション	・音楽療法について ・音楽活動の体験	
第2回	音楽療法の定義	・音楽療法の形態と対象者・目的と効果について	
第3回	音楽療法の歴史	・原始時代、古代ギリシャ中世まで・米国と日本の音楽療法	
第4回	音楽が人に及ぼす作用 1	音楽活動と音楽療法の違い	
第5回	音楽が人に及ぼす作用 2	・音楽療法における音楽の使い方・人の生活と音楽	
第6回	音楽療法の手順	セッションの流れと方法	
第7回	音楽と脳の働き	神経学的音楽療法について	
第8回	高齢分野の音楽療法 1	認知症の中核症状とBPSD（行動・心理症状）	
第9回	高齢分野の音楽療法 2	認知症高齢者に対する音楽療法の留意点	
第10回	高齢分野の音楽療法 3	認知症高齢者に対する音楽療法の活動方法	
第11回	児童分野の音楽療法	発達障害児・入院児童に対する音楽療法	
第12回	成人分野の音楽療法	対象者の理解と音楽活動での留意点	
第13回	医療現場における音楽療法 1	終末期医療における音楽療法	
第14回	医療現場における音楽療法 2	終末期医療における音楽療法・これまでの復習	
第15回	まとめ	第1回から第14回までのまとめ	
テキスト	高橋多喜子「補完 代替医療 音楽療法」（改訂3版）金芳堂、2017年3月		
参考書	随時紹介する		
評価方法	レポート（60％）、その他提出物など（40％）		
オフィスアワー	講義後30分		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 初回は、自分の好きな音楽と、自分にとって音楽はどんな存在であるかを考えておく。その後は各時間毎に指示する。		<復習>各回のレジュメとテキストを読み直しする。

授業科目名	人間と哲学	担当教員名	鷲見　コト江
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	2500年前にギリシャで生まれた哲学は、常に変わりゆく世界の根源を問うことから始まり、「この世界とは何か」「人間とは何か」を問い続けてきました。本講義では、「哲学とは何か」「人間とは何か」という哲学の根本的な問題を考えていきます。		
到達目標	「哲学とは何か」「人間とは何か」の問いに自分なりの考えを持ち、その上で自分なりの看護観を確立する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	哲学とは	哲学の誕生	
第2回	愛智学としての哲学	プラトンを中心に	
第3回	哲学と方法	デカルトを中心に	
第4回	科学と哲学	ベルクソンを中心に	
第5回	存在と人間	ベルクソンの存在論	
第6回	知的社会的存在者としての人間	ベルクソンの人間論、2つの自我	
第7回	心的存在者としての人間	フロイトの無意識と自我	
第8回	自然と人間	生命進化と人間	
第9回	唯識論①	仏教の世界観	
第10回	唯識論②	唯識論	
第11回	心とは	ユングの心の構造	
第12回	人生とは	ユングの個性化過程	
第13回	医学と看護	澤瀉久敬の看護論	
第14回	医療とは	医師カルロ・ウルバニの生き方	
第15回	まとめ		
テキスト	プリントにて配布する		
参考書	講義中に指示します。		
評価方法	レポート30％、試験70％		
オフィスアワー	講義後　15分間　講師控室		
準備学習 (予習、復習)	＜予習＞　先回の授業のノート・プリントを読みかえすこと。		＜復習＞　授業のノート・プリントを読みかえし、自分はどうかを考えること。

授業科目名	岐阜の風土と生活	担当教員名	山本 澄子、則竹 翔
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	理学療法学・作業療法学専攻 選択
授業の概要	2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探究することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
到達目標	岐阜市の歴史・風土やそこに住む人々の生活を実際に調べ、この地域の特性、良いことや問題点などを自分の意見として述べる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	岐阜市の歴史	岐阜市中心にこの地方の歴史と風土を知る。	
第2回	岐阜市のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第3回	フィールド調査①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査①	
第4回	フィールド調査②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査②	
第5回	フィールド調査③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査③	
第6回	フィールド調査④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査④	
第7回	フィールド調査⑤	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査⑤	
第8回	岐阜県の生活	岐阜県の動植物について学び、風土について理解する。	
第9回	岐阜県博物館のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第10回	フィールド調査①	岐阜県博物館のフィールド調査①	
第11回	フィールド調査②	岐阜県博物館のフィールド調査②	
第12回	フィールド調査③	岐阜県博物館のフィールド調査③	
第13回	フィールド調査④	岐阜県博物館のフィールド調査④	
第14回	フィールド調査⑤	岐阜県博物館のフィールド調査⑤	
第15回	レポート作成	2回のフィールド調査を行い、その結果をレポートにまとめる	
テキスト	随時、プリント等を配布する		
参考書	伊藤安男：地図で読む岐阜 飛山濃水の風土 古今書院		
評価方法	レポート（90％）、授業態度（10％）を合わせて評価します。		
オフィスアワー	月曜日、水曜日 16：20～17：50 研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくとい。		＜復習＞ 調査レポートの提出が有ります。フィールド調査の後には、調査内容等をまとめてください。

授業科目名	現代社会と人間	担当教員名	鷲見　コト江
学年	1	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	ここ百年間の目覚ましい科学の進歩により、宇宙や人間をめぐる、様々なことが分ってきました。と同時に今までに経験したことがないような事が起きてきているように思われます。本講義では、現代の科学が解き明かしつつある様々な事実をもとに「この世界とは何か」を考えていきます。		
到達目標	現代という時代に人としていかに生きていくべきかを考える。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	存在とは	ベルクリンの存在論	
第2回	宇宙誕生	物質誕生	
第3回	宇宙と地球の歴史	生命誕生	
第4回	生命の歴史	生命の進化	
第5回	人間とは	ベルクリンの進化論と人間論	
第6回	知性と本能	脳の構造と発達	
第7回	心の発達①	ダニエル・スターンの幼児の心	
第8回	人間と社会	エリクソンの人間論	
第9回	心の発達②	エリクソンの心理・社会的発達	
第10回	危機と人間	キューブラ・ロスの死にゆく過程	
第11回	末期医療	キューブラ・ロスの医療観	
第12回	現代社会の問題①	社会福祉・障害者福祉について	
第13回	現代社会の問題②	被曝治療について	
第14回	現代社会の問題③	認知症について	
第15回	まとめ	まとめ	
テキスト	プリントにて配布する		
参考書	講義中に指示します		
評価方法	レポート30％、試験70％		
オフィスアワー	講義後　15分間　講師控室		
準備学習 (予習、復習)	＜予習＞　先回の授業のノート・プリントを読みかえすこと。		＜復習＞　授業のノート・プリントを読みかえし、自分はどう思うかを考えること。

授業科目名	教育と人間	担当教員名	堀 学
学年	2	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	ヒューマンケアの専門家を目指す人として、必要な教育的な見方や知見を身に付け、患者への健康保持・増進を図る関わり方や、自らの人間性と職業的力量的形成に資する学びを展開していく。		
到達目標	1. 他者と学び合いの姿勢をもって人間関係を築こうとする。 2. 生涯を通じて自己学習を進める手がかりやスタイルを見出そうとする。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	教育への気づき	日常的に見聞する中から、教育に関することを拾い出す	
第2回	人間の成長と養育・保育	乳幼児の発達とその関わり	
第3回	子どもと環境	社会的・文化的環境の変化と人間形成	
第4回	保育と幼児教育	認定こども園・保育園・幼稚園について	
第5回	教育の機能と目的	人間形成の作用と教育的意図	
第6回	学校の役割	学校の変遷と今日的な課題・展望	
第7回	教育課程と学力形成	能力－発達－学習の関係	
第8回	集団生活と人間形成	青少年の育成（青少年の人間関係と青少年問題等）	
第9回	人間形成途上の評価	他者評価と自己評価	
第10回	医療従事者への期待	医療業務の組織化と職能成長	
第11回	療育者として	病弱（児）者、障害（児）者と向き合って	
第12回	家族問題と子育て社会	家庭・学校・地域社会の連携と世代間交流	
第13回	ライフステージと生涯学習	生涯各期の課題と自己教育力の育成	
第14回	読書（文学等）と人間形成	豊かな人生（作品の中の人物像やものの見方・考え方等）	
第15回	医療人として、何より人として	「人は人によりて人となる」より	
テキスト	講義テーマに関する資料を用意		
参考書	系統看護学講座 教育学 医学書院		
評価方法	筆記試験（70％）、レポート・授業参加状況（30％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 「教育」に関わる知識・情報を収集し、ファイル化していく。		＜復習＞ 学習したことを重要語句を中心に考察しまとめていく。

授業科目名	法律と人間	担当教員名	山中 雅子
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	私たちは意識するしないに関わらず法と関わりながら生活を送っている。私たちの身の回りにあって日常生活に関わる法について学び、基礎的な法律知識を習得する。		
到達目標	私たちの日常生活に存在する法を意識し、身の回りの出来事や物事について法的視点から考えられるようになること。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	法と社会	社会生活と法、法と道徳	
第2回	法の分類	成文法と不文法、公法と私法	
第3回	統治と法	憲法、三権分立	
第4回	裁判制度	民事裁判と刑事裁判、手続法	
第5回	財産と法	民法の基本原則、物権と債権、著作権	
第6回	家族と法①	家族法とは、婚姻と離婚	
第7回	家族と法②	親子問題	
第8回	雇用と法	労働契約、労働基準法	
第9回	消費者と法①	契約、権利能力	
第10回	消費者と法②	消費者保護、被害者救済	
第11回	情報と法	情報公開制度、個人情報保護制度	
第12回	犯罪と法	刑法とは、犯罪の成立要件、犯罪の種類	
第13回	刑罰と法	刑罰の種類	
第14回	医療と法①	医療をとりまく問題	
第15回	医療と法②	生殖医療、脳死と臓器移植	
テキスト	平野武/平野鷹子著 私たちと法 法律文化社 2014年11月		
参考書	講義内にて随時紹介する		
評価方法	定期試験80％ 課題・レポート20％		
オフィスアワー	授業の前後で対応。 教室または講師控室にて。		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 先回の授業のテキストを読みかえすこと。		<復習> 授業のテキストを読みかえし、自分はどう思うかを考えること。

授業科目名	国際関係論	担当教員名	山本澄子、野田みや子
学年	2	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	近年のあらゆる分野での国際化、グローバル化の進展で医療関係分野も例外ではない。医療関係に関連性の深い医療、食、温暖化、TPPに焦点をあて、自分なりの意見をもてる能力を身につける。		
到達目標	①グローバル化と国際化について理解できる。 ②国際看護、国際保健、国際協力活動を関連づけることができる。 ③世界の保健医療に関する課題に取り組むことができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	グローバル化と国際化	授業の進め方、グローバリゼーションと国際化の違い	
第2回	国際看護と国際保健	国際看護、国際保健、国際協力活動	
第3回	グループ学習法	グループ学習について、今後の学習法について、単元の担当について	
第4回	グループ学習	医療の国際化、食の国際化、地球温暖化の国際問題、TPP	
第5回	グループ学習	医療の国際化、食の国際化、地球温暖化の国際問題、TPP	
第6回	グループ学習	医療の国際化、食の国際化、地球温暖化の国際問題、TPP	
第7回	グループ学習	医療の国際化、食の国際化、地球温暖化の国際問題、TPP	
第8回	グループ学習	医療の国際化、食の国際化、地球温暖化の国際問題、TPP	
第9回	医療の国際化について①	世界の保健医療に関する課題と取り組み	
第10回	医療の国際化について②	ODAとJICAの取り組み	
第11回	医療の国際化について③	ODAとJICAの取り組み	
第12回	グループ学習	パワーポイント作成	
第13回	グループ学習	パワーポイント作成	
第14回	グループ学習	グループ発表	
第15回	グループ学習	課題レポート作成・提出	
テキスト	インターネットからの情報		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	担当単元の内容、発表状況、課題レポート課題、受講態度を総合して評価する。		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 医療に係る国際情報に日頃から興味をもって臨む。		<復習> 新聞やテレビでのニュース、インターネット等で情報収集を深める。

授業科目名	生命の科学	担当教員名	永井 博式
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	生物学を通して生命の営みを学ぶことにより生命現象を理解する。最終的には人間の生物学を理解することが必須であるので生命現象に関わる分子と分子による連続反応について講義する。		
到達目標	生命現象に関わる分子を理解し、特にヒトの生命現象の本質に関わる分子について説明できる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	生命体のつくりと働き①	細胞の構造と機能 細胞質	
第2回	生命体のつくりと働き②	細胞膜	
第3回	生命維持とエネルギー	生体内の化学反応、A T P	
第4回	細胞の増殖とからだ	細胞分裂	
第5回	生殖と発生	受精と発生	
第6回	遺伝	染色体、遺伝子	
第7回	遺伝子	DNA、RNA、タンパク質	
第8回	個体の調整	器官、ホメオスターシス	
第9回	神経と内分泌	神経	
第10回	内分泌と免疫	内分泌	
第11回	免疫と神経	免疫	
第12回	刺激の受容	受容器、知覚神経	
第13回	効果器	筋	
第14回	行動と脳	行動・学習	
第15回	まとめ	生物学と看護学	
テキスト	看系 基礎 生物学 (医学書院)		
参考書	生物学と人間 (裳華房)		
評価方法	試験 (100%)		
オフィスアワー	月曜日 13：00～17：30 研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 教科書の図表を中心に予習しておく		<復習> 問題プリントを中心に復習する

授業科目名	科学技術と環境	担当教員名	佐藤 和良
学年	1	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	選択
授業の概要	栄養学，生理学，薬理学などを理解するために必要な化学の基礎を学ぶ。さらに，科学技術の発展が環境や生活，医療にもたらした恩恵や害を考える糸口とする。		
到達目標	1．化学の基礎的法則と関連する分野の主な専門用語の理解 2．科学技術の進歩・発展による生活や医療現場における恩恵と害について考える		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	科学の基礎知識として	原子説，分子説，原子の構造	
第2回	原子と分子	元素，周期律，化学式と物質質量	
第3回	化学結合と化学反応	化学結合と化学反応	
第4回	物質の三態と気体の性質	物質の三態と気体の性質	
第5回	溶液とコロイド	溶液とコロイド	
第6回	酸・塩基・塩	酸・塩基・塩	
第7回	酸化還元反応	酸化還元反応	
第8回	科学技術と地球環境	科学技術と地球環境	
第9回	化学物質の歴史を考える	R. カーソン著「沈黙の春」が示唆したもの	
第10回	重金属による環境汚染	イタイイタイ病，水俣病と健康障害	
第11回	医療禍・薬害の歴史	ペニシリンショック，サリドマイド，薬害エイズ事件等	
第12回	生体を取り巻く環境汚染①	公害，酸性雨，地球温暖化，ヒートアイランド現象	
第13回	生体を取り巻く環境汚染②	内分泌攪乱物質等	
第14回	科学技術と医療現場①	科学技術の発展がもたらした恩恵	
第15回	科学技術と医療現場②	放射線治療等	
テキスト	杉田良樹：系統看護学講座「基礎化学」医学書院、プリント配布		
参考書	R. カーソン「沈黙の春」等を逐次紹介する。		
評価方法	定期試験（70％）、レポート（30％）		
オフィスアワー	講義後 30分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 先回の授業のテキストを読みかえすこと。		＜復習＞ 授業のテキストを読みかえし、自分はどう思うかを考えること。

授業科目名	解剖生理学 I	担当教員名	岩久 文彦
学年	1	開講期	通年
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	運動機能、体液循環、生体防衛、内臓機能に関する器官の形態と機能の基礎を理解する。		
到達目標	人体の形態とその統合機能の役割を臨床に役立つまで熟知する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	概説（オリエンテーション）、形態と機能	解剖生理学とは何か、その意味するもの	
第2回	全身の骨とその交連並びに連結の形態	全身の骨の形態と線維性、軟骨性、滑膜性（関節）等の形態	
第3回	骨の組織と代謝	骨の形成と破壊、骨改造機構	
第4回	骨格筋 1 頭部と体幹	形態と機能、咀嚼筋、表情筋、呼吸筋、腹筋、背筋	
第5回	骨格筋 2 上肢と下肢	上肢帯、自由上肢と下肢帯、自由下肢の各筋、骨盤の骨	
第6回	筋の組織と代謝	筋細胞と収縮機構、横紋筋と平滑筋、心臓の筋	
第7回	体液循環 1 心臓、体循環と肺循環	形態と血液循環、血管の構造と諸形、血液と血液組織（有形成分）	
第8回	体液循環 2 動・静脈の分布と走行	体幹と四肢並びに内臓での分布と走行	
第9回	体液循環 3 リンパと組織液、リンパ節	リンパ液と体液、リンパ節、リンパ管とリンパ本幹、胸管	
第10回	生体防衛系、血球と免疫機構	赤血球、白血球と単球、免疫応答機能	
第11回	内臓機能系 1 消化器系、口から肛門まで	構造形態と食物消化に関する組織・細胞機能	
第12回	内臓機能系 2 消化器系の付属腺	構造形態と機能、唾液腺、肝臓、膵臓、消化管ホルモンとその機能	
第13回	内臓機能系 3 呼吸器系 鼻から肺まで	構造形態と機能、粘膜上皮とガス交換機能（肺胞）	
第14回	内臓機能系 4 泌尿・生殖器系、腎臓と性器	腎臓・糸球体と体液の恒常性、子孫再生産（男性器・女性器）	
第15回	14回までの講義の締めと問題となる課題の解説		
第16回	内分泌 1 下垂体、甲状腺、上皮小体	形態と機能、腺を構成する分泌細胞と分泌ホルモンの生理機能	
第17回	内分泌 2 膵臓、副腎、松小体と性腺	形態と機能、腺を構成する分泌細胞と分泌ホルモンの生理機能	
第18回	神経系 1 組織構成とシナプス	神経・神経膠細胞、神経単位、伝達物質とシナプス、神経鞘	
第19回	神経系 2 中枢神経、大脳、間脳	形態と機能、細胞構築、機能領野、視床、線維構築、視床下部	
第20回	神経系 3 中枢神経、中脳、橋、延髄	伝導路の中継場所としての脳、脳神経核と脳神経、脳室系	
第21回	神経系 4 中枢神経 小脳、脊髄	運動調節機能としての小脳、上行性・下行性神経路としての脊髄	
第22回	脳神経の初めの6神経の走行と機能	嗅・視・動眼・滑車・三叉・外転の各神経	
第23回	脳神経の後の6神経の走行と機能	顔面・内耳・舌咽・迷走・副・舌下の各神経	
第24回	脊髄神経 頸・胸神経と頭神経叢・腕神経叢	形態と頸神経8対、胸神経12対の走行、神経叢の枝の分布領域	
第25回	脊髄神経 腰・仙骨神経と腰・仙骨神経叢	形態と腰神経5対、仙骨神経5対の走行、神経叢の枝の分布領域	
第26回	自律神経 交感神経 形態・機能・枝の走行	幹神経節、節前・節後線維、上・中・下頸神経節の形態と機能	
第27回	自律神経 副交感神経 頭・仙・腰の脊髄系と機能	脳神経に付属する神経節、仙髄及び脊髄からの神経枝の走行と神経叢	
第28回	感覚器 1 嗅覚・味覚・視覚の3神経	感覚受容体の細胞形態と機能	
第29回	感覚器 2 聴・体平衡覚の2神経と皮膚	感覚受容体の細胞形態と機能	
第30回	29回までの締めと問題となる課題の解説		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 1 人体の構造と機能 解剖生理学 I 医学書院		
参考書	特に指定しない		
評価方法	定期試験（80％）、課題レポート並びに小テスト（20％）		
オフィスアワー	研究室 月曜日 16：30－17：30		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 特別に必要と認めた内容については次の学習準備として指示する。		<復習> 資料プリント等配布して学習させる。

授業科目名	解剖生理学Ⅱ	担当教員名	永井 博式
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	生体の構成成分である、細胞、組織、器官および各種器官系の機能を知り、さらにそれらの相互作用と恒常性維持の仕組みについて講義する。		
到達目標	細胞、筋肉系、神経系、内分泌系および各種器官系（呼吸、心・循環、消化器、泌尿器、生殖器、感覚器など）の生理学的役割について熟知する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	生理学概論、細胞機能	生理学とは	
第2回	細胞膜	細胞膜の物質輸送、興奮	
第3回	筋	筋の種類、筋収縮	
第4回	神経系	神経細胞、神経系の分類	
第5回	末梢神経系	自律神経と体性神経の機能	
第6回	中枢神経系①	脳と脊髄の機能と機能分布	
第7回	中枢神経系②	大脳、脳幹、小脳の機能	
第8回	感覚器系	視聴覚、知覚と中枢神経	
第9回	血液と体液	体内液性成分の構成と機能	
第10回	心、循環器系	心臓神経伝達系、心運動、循環	
第11回	泌尿器系	尿生成、排尿機序	
第12回	呼吸器系	呼吸の仕組みと調節機構	
第13回	消化器系	食物の消化、吸収、排泄	
第14回	内分泌、生殖器系	ホルモンの種類と機能、生殖	
第15回	栄養、代謝、体温	糖、タンパク、脂質代謝	
テキスト	〈コアテキスト1〉 人体の構造と機能 （医学書院）		
参考書	〈系統看護学講座〉 解剖生理学 （医学書院）		
評価方法	試験（100％）		
オフィスアワー	月曜日 13：00～17：30 研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 教科書の図表を中心に予習しておく		＜復習＞ 問題プリントを中心に復習する

授業科目名	免疫と感染	担当教員名	永井 博式
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	近代免疫学の基礎および臨床、さらに免疫疾患の医学的意味についてのべる。		
到達目標	免疫学を理解するために最低限の知識として基本となる免疫細胞、免疫関連分子、自然免疫と獲得免疫の反応機序を知る。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	概論①	免疫の定義、種類	
第2回	概論②	免疫学の発展の歴史	
第3回	細菌に関する防衛反応	自然免疫について	
第4回	ウイルスに対する免疫反応	獲得（液性、細胞性）免疫について	
第5回	免疫にかかわる物質	抗体・抗原	
第6回	免疫にかかわる細胞	白血球、単球、マクロファージ	
第7回	リンパ球	T細胞、B細胞	
第8回	免疫細胞を制御するもの	サイトカイン、ケモカイン	
第9回	免疫と疾患・治療薬①	Ⅰ型アレルギー	
第10回	免疫と疾患・治療薬②	Ⅱ－Ⅳ型アレルギー	
第11回	免疫と疾患・治療薬③	自己免疫疾患	
第12回	免疫と疾患・治療薬④	ガンと免疫	
第13回	免疫と疾患・治療薬⑤	免疫不全	
第14回	免疫と疾患・治療薬⑥	免疫薬理学	
第15回	まとめ	看護学における免疫学	
テキスト	看系 専門基礎 薬理学 （医学書院）		
参考書	休み時間の免疫学 （講談社サイエンティフィック）		
評価方法	試験（100％）		
オフィスアワー	月曜日 13：00～17：30 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 教科書の図表を中心に予習しておく		<復習> 各回の問題プリントを中心に復習する

授業科目名	代謝と栄養	担当教員名	熊崎 貴仁
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	食べ物に含まれる栄養素の働き、消化・吸収、生体内での代謝を学習するとともに、健康な一生を送るための生活習慣病予防やライフステージ別の栄養管理を学ぶ。また、病院における栄養管理の概要や各疾患別の食事療法を学ぶ		
到達目標	1. 各栄養素の働きを理解する 2. 各栄養素の消化・吸収・代謝を理解する 3. 栄養アセスメントや評価方法を理解する 4. ライフステージ別の栄養管理を理解する 5. 疾患別の栄養管理を理解する 6. 栄養管理における看護婦の役割を理解する		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	臨床栄養学と看護について	栄養学の概要	
第2回	臨床栄養学の基礎知識①	栄養素の種類と働き	
第3回	臨床栄養学の基礎知識②	栄養素の種類と働き	
第4回	エネルギーについて	食品のもつエネルギーと生体におけるエネルギー消費について	
第5回	食事摂取基準	食事摂取基準の理解と活用方法について	
第6回	栄養アセスメント①	アセスメントと評価	
第7回	栄養アセスメント②	栄養計画を症例で学習	
第8回	日常生活と栄養①	食文化・運動と栄養	
第9回	日常生活と栄養②	ライフステージ別の栄養管理	
第10回	療養生活と栄養（臨床栄養①）	疾患別の栄養管理	
第11回	療養生活と栄養（臨床栄養②）	疾患別の栄養管理	
第12回	療養生活と栄養（臨床栄養③）	疾患別の栄養管理	
第13回	療養生活と栄養（臨床栄養④）	摂食嚥下障害疾患と経管栄養法	
第14回	療養生活と栄養（臨床栄養⑤）	NST症例で学習	
第15回	まとめ		
テキスト	臨床栄養学（メディカ出版）		
参考書	糖尿病食事療法のための食品交換表（日本糖尿病協会 文光堂）		
評価方法	筆記試験80％ 受講態度20％		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 教科書の講義内容部分を事前に読んでおくこと		<復習> 確認テストのための学習をすること

授業科目名	人間工学	担当教員名	浅井 佳士
学年	1年次	開講期	後期（集中）
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	看護技術の中で、人間の体の仕組みを基本にして使いやすく快適で疲労の少ない安全な環境、器具、作業を作り出すための考え方、手法、知識、看護行為をおこなうための考え方を学ぶ		
到達目標	看護技術が合理的に、安全に、効率的にできることを目指す		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	人間工学とは①	看護に人間工学を活かす理由	
第2回	人間工学とは②	看護ボディメカニクス	
第3回	人間工学とは③	看護の安全と人間工学	
第4回	看護の実際①	ベッド上での移動動作・体位変換	
第5回	看護の実際②	ベッドから車椅子への移動動作	
第6回	看護の実際③	車椅子の移動動作	
第7回	看護の実際④	ストレッチャーの移動動作	
第8回	まとめ	看護人間工学のまとめ	
テキスト	プリント配布		
参考書	必要に応じて紹介する		
評価方法	レポート（80％） 授業態度（20％）		
オフィスアワー	講義後 30分間 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 1.教科書に目を通し概要を把握する 2.事前課題がある時は自己学習して講義に望む		<復習> 1.配布資料を見直し疑問点を確認する 2.講義の内容で疑問点を確認する

授業科目名	病理学	担当教員名	川田 憲司
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	病理学とは、疾病と臓器の形態的变化を肉眼的、組織学的に検索し疾病の本態を明らかにする学問である。疾病が発生したときの生体構築の基礎となる細胞・組織・器官の形態的变化を経時的に観察し、疾病の機能的変化を推察する。医療従事者として正しい知識を身につけられるよう解説する。		
到達目標	1. 傷害因子に対する細胞・組織の基礎的病変を知る。 2. 疾病の成立、進行、終息を理解する。 3. 免疫の仕組み及び機能を知る。 4. 臨床における疾病予防を理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	病理学とは	病気の原因（内因と外因）、疾病の分類について	
第2回	代謝障害①	細胞の損傷（萎縮・肥大・化生・壊死）について	
第3回	代謝障害②	細胞の変性について	
第4回	代謝障害③	代謝障害（脂質・タンパク質・糖質）について	
第5回	循環不全①	局所の循環不全（充血・うっ血・虚血）について	
第6回	循環不全②	局所の循環不全（血栓・塞栓・出血・梗塞）について	
第7回	循環不全③	全身性の循環障害とリンパの循環障害について	
第8回	炎症と免疫①	炎症の原因と基本的な変化について、創傷治癒について	
第9回	炎症と免疫②	免疫の仕組みと免疫不全症について、アレルギーの解説	
第10回	炎症と免疫③	自己免疫病・膠原病、臓器移植と拒絶反応について	
第11回	感染症	感染の成立と宿主反応、感染源と感染経路について	
第12回	先天異常	先天異常の原因と分類、遺伝性疾患について	
第13回	腫瘍①	腫瘍の形態と発育、発生機序と発生原因について	
第14回	腫瘍②	腫瘍の進行度と転移、腫瘍の統計について	
第15回	老化	加齢に伴う諸臓器の変化について	
テキスト	大橋健一他：系統看護学講座 病理学 医学書院 2017年版		
参考書	標準病理学（医学書院）、病理学（中央医学社）、解明病理学（医歯薬出版）		
評価方法	受講態度20％、筆記試験80％		
オフィスアワー	授業後 30分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 関連分野の基礎科目の知識を確実なものとしておく。		<復習> 重要事項をまとめておき、毎回の確認用小試験に備える。

授業科目名	成人高齢者疾病治療論Ⅰ	担当教員名	智原 栄一、河田 美紀、河田 好泰
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	外科的疾患・外科治療に伴う麻酔法について学ぶ。疾患を臓器別・病因論に分類して症状や病態の機序を学び、疾患の予防法・診断・治療・予後について理解する。第1回～第4回（麻酔）担当教員は智原栄一、第5回～第12回は河田美紀が担当する。第13回～15回（運動器）担当教員は河田好泰が担当する。		
到達目標	麻酔法に関する知識を習得する。基本的な症候、診断学及び治療学を理解する。主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。疾病の予防、発症、治癒に関する知識を習得し理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	麻酔法について①	麻酔の種類、意識消失時の危険	
第2回	麻酔法について②	全身麻酔、生体モニター、麻酔関連薬剤	
第3回	麻酔法について③	脊髄クモ膜下麻酔と硬膜外麻酔の実際	
第4回	周術期のストレス	術前準備、ストレス反応	
第5回	肺・胸部の疾患①	肺癌・気胸・胸部外傷・肺移植	
第6回	肺・胸部の疾患②	乳腺の疾患（乳癌・乳腺症）	
第7回	心血管系の疾患①	虚血性心疾患・弁膜症・不整脈	
第8回	心血管系の疾患②	補助循環・心臓移植・動脈瘤	
第9回	消化器・腹部の疾患①	胃癌・大腸癌・急性腹症・肛門疾患	
第10回	消化器・腹部の疾患②	腹部外傷・肝臓癌・肝移植	
第11回	頭部の疾患	頭部外傷・脳腫瘍	
第12回	小児の外科疾患	先天性心疾患・食道閉鎖症・幽門狭窄症・鎖肛等	
第13回	運動器の疾患①	外傷性疾患（骨折・脱臼・捻挫・神経筋の損傷等）	
第14回	運動器の疾患②	先天性疾患、骨関節の炎症性疾患、腫瘍	
第15回	運動器の疾患③	代謝性骨疾患、筋・腱・神経・脊椎の疾患	
テキスト	系統看護学講座（医学書院）臨床外科看護総論（第1回～第4回講義）、臨床外科看護各論（第5回～第12回講義）、成人看護学10（第13回～第15回講義）		
参考書	周手術期看護イーエック、ヌーベルヒロカワ 臨床病態学1～3巻		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	講義終了後及び水・金曜日 12：30～17：00 研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 講義範囲の教科書を熟読し概略を捉えておくこと。		＜復習＞ 授業後は配付した資料や教科書、参考書にて要点をまとめ復習し理解を深める。

授業科目名	成人高齢者疾病治療論Ⅱ	担当教員名	河田 美紀、豊田雅孝
学年	2	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	成人高齢者の疾病について、主として内科的治療の立場から各疾患の原因、病態、検査、診断、予後について教授する。脳神経系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患、感染症、消化器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、腎・泌尿器疾患等の治療と予後について教授する。歯・口腔疾患担当は、豊田雅孝が担当とする。		
到達目標	臓器別、病因論に分類し症状や病態の機序を学び、予防法、治療法、予後について理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	脳・神経系疾患①	解剖・生理、脳血管疾患（脳出血・くも膜下出血）	
第2回	脳・神経系疾患②	脳血管疾患（脳梗塞）、脳ヘルニア、水頭症	
第3回	脳・神経系疾患③	末梢神経障害、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー	
第4回	脳・神経系疾患④	パーキンソン病、脳炎、髄膜炎、認知症	
第5回	呼吸器疾患①	解剖・生理、主な検査、肺炎、肺結核	
第6回	呼吸器疾患②	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	
第7回	呼吸器疾患③	呼吸不全、呼吸リハビリ	
第8回	呼吸器疾患④	肺癌、急性呼吸窮迫症候群	
第9回	循環器疾患①	解剖・生理、虚血性心疾患（狭心症）	
第10回	循環器疾患②	虚血性心疾患（心筋梗塞）、心不全	
第11回	循環器疾患③	高血圧症、不整脈	
第12回	循環器疾患④	弁膜症、心筋症	
第13回	血液・造血器疾患①	解剖・生理、貧血疾患（鉄欠乏性、巨赤芽球性、再生不良性）	
第14回	血液・造血器疾患②	白血病、出血性疾患（血友病、播種性血管内凝固症候群）	
第15回	消化器疾患①	解剖・生理、食道疾患（食道癌） 胃疾患（胃潰瘍・胃癌）	
第16回	消化器疾患②	小腸・大腸疾患（腸閉塞、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌）	
第17回	消化器疾患③	肝疾患（ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌）	
第18回	消化器疾患④	胆のう疾患（胆石症）、膵疾患（急性膵炎、膵臓癌）	
第19回	内分泌疾患①	解剖・生理、下垂体腫瘍 甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病）	
第20回	内分泌疾患②	副甲状腺・副腎疾患（クッシング病）	
第21回	代謝性疾患①	糖尿病（病型・症状・診断・治療）	
第22回	代謝性疾患②	脂質異常症・尿酸代謝異常症・メタボリック症候群	
第23回	腎・泌尿器疾患①	解剖・生理、腎不全、透析、腎移植	
第24回	腎・泌尿器疾患②	ネフローゼ症候群・尿管結石・前立腺肥大、尿路腫瘍	
第25回	膠原病	膠原病（関節リウマチ・SLE・強皮症・ベーチェット病）	
第26回	感染症	病原体、感染経路・食中毒・麻疹・風疹・水痘・HIV感染症	
第27回	耳鼻咽喉科疾患	解剖・生理、鼻アレルギー、中耳炎、メニエール病等	
第28回	眼科疾患	解剖・生理、白内障、緑内障、網膜疾患	
第29回	皮膚科疾患	解剖・生理、じんま疹、熱傷、皮膚癌、褥瘡、白癬症	
第30回	歯・口腔疾患	解剖・生理、齲蝕、歯科疾患	
テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 13, 14, 15（医学書院）		
参考書	ヌーベルヒロカワ 臨床病態学1～3巻		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	水・金曜日 12：30～17：00 研究室		
準備学習（予習、復習）	<予習> 講義範囲の教科書を熟読し概略を捉えておくこと。 <復習> 授業後は配付した資料や教科書、参考書にて要点をまとめ復習し理解を深める。		

授業科目名	母性小児疾病治療論	担当教員名	母性分野：尾藤 長雄 小児分野：磯貝 光治
学年	2	開講期	通年
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	子どもを産み育てるということは人間生活の自然な営みであり、人は健全な子どもを産み育てたいと願っている。本授業では産科医と小児科医の立場から妊娠・出産にまつわる諸問題について、小児期各期の主な疾病の原因に、病態、検査、診断、治療と予後について、および、女性特有の疾患についての病態、検査、診断、治療と予後についても教授する。		
到達目標	各疾患の原因、病態、検査、診断、治療と予後について理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	子どもを産み育てるということ	遺伝相談、不妊治療、出生前診断	
第2回	妊娠期の異常①	ハイリスク妊娠	
第3回	妊娠期の異常②	異常妊娠	
第4回	分娩期の異常	産道娩出力胎児および附属物の異常	
第5回	産褥期の異常	子宮復古不全、産褥熱	
第6回	新生児期の異常	呼吸・循環の体外適応障害	
第7回	女性生殖器疾患①	性感染症、人工妊娠中絶	
第8回	女性生殖器疾患②	子宮癌、子宮筋腫、卵巣のう腫など	
第9回	代謝性疾患、内分泌疾患	先天性代謝異常症、糖尿病、低身長、甲状腺疾患など	
第10回	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患・感染症・呼吸器疾患	気管支喘息、食物アレルギー、若年性突発性関節炎、ウイルス性疾患、細菌性疾患、肺炎、気管支炎など	
第11回	神経疾患・運動器疾患	けいれん、脳性麻痺、水頭症、先天性股関節脱臼、骨折など	
第12回	皮膚疾患・精神疾患	湿疹、皮膚炎、アトピー性皮膚炎、発達障害、神経性障害など	
第13回	循環器疾患	川崎病、フォアロー四徴症など	
第14回	消化器疾患	胃腸炎、腸重積など	
第15回	血液・造血器疾患、悪性新生物腎、泌尿器、生殖器疾患	貧血、血友病、白血病、神経芽細胞腫、腎炎、ネフローゼ症候群など	
テキスト	系統看護学講座 専門分野：女性生殖器—成人看護学〈9〉、小児臨床看護各論 小児看護学〈2〉		
参考書	随時紹介		
評価方法	筆記テスト90%、授業態度10%		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 (予習、復習)	＜予習＞ 女性生殖器講義サブノート、母性看護講義サブノートを予習しておくこと。		＜復習＞ 問題集を使って復習すること。

授業科目名	精神疾病治療論	担当教員名	井上 真人
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	精神疾患に関する知識を学習することにより、保健医療福祉の各側面に配慮しつつ、QOL（Quality of Life）を考慮に入れた総合的な管理計画（リハビリテーション，社会参加，在宅医療，介護を含む）に資する精神看護の課題について理解する。		
到達目標	①精神保健福祉医療サービス利用者・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、全人的に対応できるようになる。 ②援助チームの構成員としての役割を理解し、精神保健医療福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調できるようになる。 ③援助従事者のメンタルヘルス対策の重要性について理解できるようになる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	総論①	精神症状と生活機能	
第2回	総論②	精神疾患の分類	
第3回	各論①統合失調症①	統合失調症スペクトラムとは	
第4回	各論②統合失調症②	統合失調症の治療	
第5回	各論③統合失調症③	心理教育的アプローチによる援助過程	
第6回	各論④気分障害①	抑うつ障害群の診断・治療	
第7回	各論⑤気分障害②	双極性障害群の診断・治療	
第8回	各論⑥神経症性障害①	不安障害／不安症群の診断・治療	
第9回	各論⑦神経症性障害②	強迫性障害／強迫症および関連障害／関連症群の診断・治療	
第10回	各論⑧ストレス関連障害，等	心的外傷およびストレス因関連障害群の診断・治療	
第11回	各論⑨生理的障害，等	摂食障害群，睡眠・覚醒障害群等の診断・治療	
第12回	各論⑩器質性精神障害	神経認知障害群の診断・治療	
第13回	各論⑪知的障害，発達障害	神経発達症群／神経発達障害群の診断・治療	
第14回	各論⑫物質関連障害，パーソナリティ障害	物質関連障害群の診断・治療，パーソナリティ障害への援助	
第15回	精神保健福祉概要	精神保健福祉法，精神保健福祉援助，援助者のメンタルヘルス	
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第5版 医学書院 2017年1月		
参考書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② ・系統看護学講座 別巻 精神保健福祉		
評価方法	試験（50%），受講課題に関する提出物（50%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞1年時に修得した、発達看護・臨床看護学・成人看護学・高齢者看護学・小児看護学の各概論における、精神的健康に援助を必要とする人々の回復（リカバリー）を目標とした看護過程に関する課題の復習。		＜復習＞精神的健康に援助を必要とする人々の回復（リカバリー）を目標とした看護過程の展開において、看護診断と共同問題を伴う精神医学的問題に対して、看護職が担う役割と看護目標を理解する。

授業科目名	放射線治療論	担当教員名	河田 美紀
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	放射線の基礎知識を習得した上に、臨床放射線医学として、X線診断学、核医学検査、放射線治療について系統的に理解する。また、看護師として画像装置や、検査手技・治療法、必要とする薬剤・材料と関連した知識を身につけられるよう解説する。		
到達目標	1. 放射線に関する基礎的な知識を理解する。 2. 各種検査の基本手技を理解し、画像装置の原理を知る。 3. 放射線治療の適応と有害反応を理解する。 4. 放射線防護を理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	放射線医学とは	医療における放射線の役割と放射線医学の歴史	
第2回	画像診断と看護	画像診断における看護師の役割と安全性の確保	
第3回	X線診断	基本原理とX線診断	
第4回	CT検査	基本原理・CT診断と造影剤使用における注意点	
第5回	MRI検査	MRI診断と造影剤使用における注意点	
第6回	超音波検査	基本原理と超音波検査の実際	
第7回	核医学検査	基本原理と診断	
第8回	血管造影検査	基本原理と血管造影検査の実際	
第9回	放射線治療総論①	放射線治療の原理・感受性・特徴	
第10回	放射線治療総論②	放射線治療の種類と有害反応	
第11回	放射線治療各論①	脳腫瘍及び頭頸部・胸部の悪性腫瘍の治療	
第12回	放射線治療各論②	腹部・婦人科・泌尿器科領域の悪性腫瘍の治療	
第13回	放射線治療各論③	骨軟部腫瘍・小児悪性腫瘍の治療、緩和目的照射（骨転移）	
第14回	放射線防護①	放射線の身体への影響、遺伝的影響、発癌への影響	
第15回	放射線防護②	日常診療における放射線防護と健康管理	
テキスト	福田国彦著：系統看護学講座 臨床放射線医学 医学書院		
参考書	西谷 弘著：標準放射線医学（医学書院）		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	水・金曜日 12：30～17：00 研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 講義範囲の教科書を熟読し概略を捉えておくこと。		＜復習＞ 授業後は配付した資料や教科書、参考書にて要点をまとめ復習し理解を深める。

授業科目名	薬剤治療論	担当教員名	永井 博式
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	薬理学および薬物治療学の基礎と臨床応用の知識について講義する。薬物は各種臓器別に使用される医薬品の薬理作用とその機序について述べる。		
到達目標	疾患治療に使用される薬物の基本作用と機序を理解し、代表的医薬品については説明できるようにする。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	総論①	用量反応曲線、細胞内情報伝達、受容体	
第2回	総論②	薬物相互作用、薬効発現の要因	
第3回	抗感染症薬	抗生物質、抗菌薬	
第4回	抗がん剤	ガン治療薬	
第5回	免疫、アレルギー、炎症治療薬	免疫疾患治療薬、抗炎症薬	
第6回	末梢神経系①	概論、自律神経薬	
第7回	末梢神経系②	体性神経系薬	
第8回	中枢神経系①	全身麻酔薬、催眠薬、鎮痛薬	
第9回	中枢神経系②	パーキンソン薬、向精神薬	
第10回	心・循環器系薬	抗高血圧薬、心疾患治療薬	
第11回	呼吸系	喘息治療薬、呼吸器系疾患治療薬	
第12回	消化器系薬	消化器病薬	
第13回	泌尿器系薬	利尿薬	
第14回	ホルモン・生殖器系	ホルモン、物質代謝	
第15回	皮膚、眼、漢方薬	皮膚疾患治療薬	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎Ⅰ 解剖生理学 人体の構造と機能Ⅰ 医学書院		
参考書	最新基礎薬理学 (廣川書店)		
評価方法	試験 (100%)		
オフィスアワー	月曜日 13:00~17:30 研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 教科書の図表を中心に予習する		<復習> 各回の問題プリントを中心に復習する

授業科目名	感染防止論	担当教員名	野田 みや子
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	感染防止実践の基礎となる微生物学・免疫学の理解を深め、わが国における感染症の発症の要因・流行と治療法について学習し、感染防止に関する理解を深める。		
到達目標	1. 感染防止に必要な「微生物学」「免疫学」の基礎を理解する。 2. 地域および病院において発症する多様な感染の問題についての基礎的理解を深める。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	微生物学 総論	微生物とはどのような生物か	
第2回	免疫①	異物に対する生体の反応①	
第3回	免疫②	異物に対する生体の反応②	
第4回	感染	微生物と生体のかかわり	
第5回	感染症の診断法	微生物の分離・同定 遺伝学的診断法 免疫学的診断法	
第6回	感染症の予防とコントロール	病原体のコントロール 感染症のコントロール	
第7回	細菌学 各論①	主な病原細菌と細菌感染症①	
第8回	細菌学 各論②	主な病原細菌と細菌感染症②	
第9回	細菌学 各論③	主な病原細菌と細菌感染症③	
第10回	ウイルス学 各論①	主なウイルスとウイルス感染症①	
第11回	ウイルス学 各論②	主なウイルスとウイルス感染症②	
第12回	真菌学 各論	主な病原真菌と真菌症	
第13回	原虫学 各論	主な原虫と原虫疾患	
第14回	ベッドサイドにおける微生物学	院内感染と院内感染を起こしやすい微生物	
第15回	感染防止論のまとめ	感染防止論の重点についての復讐	
テキスト	水口康雄、中山宏明、南嶋洋一著 「ナースのための微生物学」 南山堂		
参考書	随時講義の中で紹介する。		
評価方法	試験(80%)、 レポート(20%)		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習(予習、復習)	予習；授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう		復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう

授業科目名	東洋医学概論	担当教員名	星 慎一郎
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	東洋医学の成り立ちや理論、人がなぜ病気になるのかを学習する。		
到達目標	病ではなく患う者を診るという視点を身に付け、積極的に手を差し伸べることのできる医療従事者となる。 また、自身の生活習慣を見つめ直すことにより自己管理のできる社会人を目指す。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	東洋医学の概要 経絡経穴概論	東洋医学の概要と統合医療について学ぶ。 経絡経穴を学び、ツボを押してみる。	
第2回	あん摩マッサージ指圧理論	あん摩マッサージ指圧の理論を学び、実際に行ってみる。	
第3回	はりきゅう理論	鍼と灸の理論を学ぶ。	
第4回	東洋医学の歴史	国内と海外での東洋医学の成り立ちと違いを学ぶ。	
第5回	視覚障害者の東洋医学	視覚障害者の生活や職業について学ぶ。	
第6回	東洋医学の理論	陰陽論と五行論、臓腑について学ぶ。	
第7回	漢方理論	漢方薬の理論と処方について学ぶ。	
第8回	東洋医学の科学的研究	東洋医学で行われている研究について学ぶ。	
テキスト	なし。プリントを配布する。		
参考書	兵頭明 徹底図解 東洋医学のしくみ 新星出版社 2009年8月		
評価方法	筆記試験 70%、平常点30%（レポート、出席状況、授業態度）		
オフィスアワー	6号館1階教務室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 特に必要なし。		<復習> 各回の授業に臨むにあたり、前回授業で学んだ内容を確認しておくこと。

授業科目名	リハビリテーション論	担当教員名	小島 誠
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	1. リハビリテーションの言葉の由来、歴史、目標について学習する。 2. リハビリテーション医療は医師、看護師、理学療法士、作業療法士など多くの専門職の協働によって成り立つことを理解する。 3. リハビリテーションに看護が確立した経緯、リハビリテーション医療における看護の機能、障がいを持つ人々に共通する問題とそれらに対する看護の方法論について学習する。 4. 各障がいに対するリハビリテーションの手法を理解する。		
到達目標	リハビリテーションの由来や歴史を理解し、臨床場面や一般社会におけるリハビリテーションについて考えることを目標とする。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	はじめに	リハビリテーション概論	
第2回	リハビリテーションと看護①	リハビリテーション看護の確立、看護の機能、障がいに対する態度など	
第3回	リハビリテーションと看護②	リハビリテーション看護方法論	
第4回	障がいとリハビリテーション	脳や身体の機能、脳血管障害整形外科疾患の病態	
第5回	脳血管障害とリハビリテーション	具体的介入方法（物理療法を含む）	
第6回	摂食・嚥下障害とリハビリテーション	具体的介入方法（STの領域を含む）	
第7回	ADLとリハビリテーション	具体的介入方法（OTの領域を含む）	
第8回	まとめ	まとめ	
テキスト	プリント配布		
参考書	武田宣子他 系統看護学講座別巻3リハビリテーション看護 医学書院		
評価方法	受講態度（20％）、レポート成績（80％）		
オフィスアワー	講義終了後10分と月曜16：20～17：30 7号館5F研究室23		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 教科書の図表を中心に予習する		<復習> 各回の問題プリントを中心に復習する

授業科目名	カウンセリング論	担当教員名	林 知義
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	医療サービスの提供において医療スタッフに期待されるのは、患者に接する適切な態度の習得である。すなわち、カウンセリングにおける接遇技術を習得し、これを業務の中で活かすことで、より快適な環境を患者に提供することである。そのスキルを学ぶ。		
到達目標	1. 相手に安心感を与えることが患者に対する接遇の基本である。その技術を習得する。 2. 共感的理解にもとづく接遇の技術を習得する。 3. 患者に対してだけでなく、医療スタッフどうしのコミュニケーションにもカウンセリングの技術が必要であることを知る。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	看護とカウンセリング	看護とカウンセリングの違い、共通点、関わり	
第2回	カウンセリングの原則①	感情、気持ちの受容と共感	
第3回	カウンセリングの技法①	相づち、うなづき、繰り返し、明確化	
第4回	カウンセリングの原則②	相手の状況の理解と解釈	
第5回	カウンセリングの技法②	閉じた質問、開いた質問、積極的傾聴	
第6回	面談ロールプレイ①	相手からの質問に対してどう返事をすればよいか	
第7回	面談ロールプレイ②	フィードバック技法の習得	
第8回	面談ロールプレイ③	スタッフ（仲間）との協調性の重要性を理解する	
テキスト	適宜プリントを配布します		
参考書	カウンセリングの技法 著・國分康孝 誠信書房		
評価方法	筆記試験（70%）、授業態度（30%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	<予習>日常生活の中から、対人コミュニケーションについての問題点を考え、課題をもって講義にのぞむ。		<復習>講義で学んだことを、日常生活の中に生かしながら、次の課題を見つけていく。

授業科目名	生涯人間発達学	担当教員名	稲葉 政徳
学年	1年	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	発達とは変化の過程をいう。年齢を重ねる中で刻々と変化を経る道程を指す。その発達の諸段階に応じた対象者（患者）の身体的・精神的状態を障害を含めて理解することを目的とする。		
到達目標	1. 病態だけでなく、発達の視点を踏まえて対象者を理解する必要があることを学ぶ。 2. 新生児から老年期における身体的特徴、精神的特徴、社会的役割を発達課題とともに理解する。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	総論	オリエンテーション、発達学総論	
第2回	胎児期の発達	胎児循環、原始反射	
第3回	乳児期の発達	運動、認知、社会性発達、姿勢反射	
第4回	幼児期前期の発達	運動、認知、社会性発達、ピアジェ	
第5回	原始反射、姿勢反射	立ち直り反応、平衡反応、傾斜反応など	
第6回	発達検査法	デンバー発達判定法、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	
第7回	学童期の発達	知覚の脱中心化(ピアジェ)	
第8回	青年期前期(思春期)の発達	二次性徴、アイデンティティの形成(エリクソン)	
第9回	青年期後期の発達	アイデンティティの確立、進路選択	
第10回	成人期前期の発達	就職、結婚、出産	
第11回	成人期中期の発達	生活習慣病、仕事などでのストレス管理	
第12回	成人期後期の発達	空の巣症候群、更年期障害	
第13回	老年期の段階（18～22歳）	統合(エリクソン)、生きがい	
第14回	発達のつまずき（脳性麻痺）	定年と新しい自己の発見と挑戦	
第15回	発達のつまずき（ダウン症候群）	生理的老化、独居高齢者と孤独死、死の受容	
テキスト	第4版 著・舟島なをみ 看護のための人間発達学 2014年2月		
参考書	生涯人間発達学 上田礼子 三輪書店		
評価方法	筆記試験（90％）、授業態度（10％）		
オフィスアワー	火、木、金曜 16時20分～17時30分		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞テキストにて、次回の章にひととおり目を通しておくこと。シラバスに基づく。		＜復習＞毎回講義後に指定した重要箇所を復習していただく。

授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	田中 耕
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	人間の健康を集団でとらえ、人間の行動や周囲の環境が健康と深く関連していることを理解するとともに、公衆衛生の実践に必要な知識と技術について学ぶ。		
到達目標	公衆衛生の考え方を理解するとともに、環境や行動が人の健康に深く関わっていることを理解する。さらに、公衆衛生行政のしくみや、健康の保持・増進に必要な知識と技術を身につける。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	公衆衛生を学ぶにあたって	オリエンテーション、健康の定義、みんなの健康	
第2回	公衆衛生のエッセンス	公衆衛生とは、世界の公衆衛生の歴史、日本の公衆衛生の歴史	
第3回	公衆衛生の活動対象	公衆衛生活動の対象、社会集団をとらえる視座	
第4回	公衆衛生のしくみ	政策展開、国と自治体の役割、専門職のはたらき	
第5回	環境と健康①	地球規模の環境と健康	
第6回	環境と健康②	身のまわりの環境と健康	
第7回	国際保健	世界との出会い、健康格差、国際保健と日本	
第8回	集団の健康をとらえるための手法	疫学とは、疫学的手法、曝露の評価、疫学的因果関係	
第9回	地域保健①	母子保健、成人保健、生活習慣病	
第10回	地域保健②	高齢者保健、精神保健	
第11回	地域保健③	歯科保健、難病支援・障害支援	
第12回	地域保健④	感染症対策	
第13回	学校保健	学校保健のしくみ、学校保健の展開	
第14回	職場と健康	看護をめぐる公衆衛生の動き、これからの保健・医療・福祉	
第15回	健康危機管理・災害保健	健康危機管理体制、災害時の対応、まとめ	
テキスト	神馬征峰著者代表「系統看護学講座 公衆衛生」（医学書院）2016年2月		
参考書	厚生労働統計協会「厚生指標増刊 国民衛生の動向2016/2017」		
評価方法	定期試験（70％）を基本として、小テスト（20％）、授業態度（10％）を合わせて総合的に評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習 （予習、復習）	予習：授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう		復習：資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう

授業科目名	健康と法律	担当教員名	浅井 佳士
学年	1年次	開講期	前期
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	看護をはじめ医療の仕事は、人間の生命に直接関係するだけに、そこに携わる人々の資格や業務内容が法律で厳格に規定されている。看護師として国民の健康を守り、与えられた職責を果たしていくためには、看護関係法令の理解が不可欠である。まずは、看護師の規定である「保健師助産師看護師法」について解説し、更に医事や保健衛生法などの関係法令についての理解を深める。		
到達目標	1. 法の基礎的知識を理解できる。 2. 保健師助産師看護師法の目的と規定内容を理解できる。 3. 主な医事法規の基礎的知識を理解できる。 4. 労働関係法規の基礎的知識を理解できる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	法の概念	法の概念と衛生法について学ぶ	
第2回	看護法①	保健師助産師看護師法について学ぶ	
第3回	看護法②	看護師等の人材確保の促進に関する法律について学ぶ	
第4回	医事法	医療法、医療関係資格法について学ぶ	
第5回	保健衛生法①	保健法について学ぶ	
第6回	保健衛生法②	感染症に関する法について学ぶ	
第7回	薬務法	薬事一般に関する法について学ぶ	
第8回	環境法、環境衛生法	公害防止の法、環境保全の基本法について学ぶ	
第9回	社会保険法①	健康保険、年金、手当について学ぶ	
第10回	社会保険法②	介護保険法について学ぶ	
第11回	福祉法①	社会福祉法、生活保護法について学ぶ	
第12回	福祉法②	児童福祉法、老人福祉法、障害福祉法について学ぶ	
第13回	労働法と社会基盤整備	労働法と社会基盤整備について学ぶ	
第14回	まとめ①	関係法規についてのまとめ	
第15回	まとめ②	関係法規についてのまとめ	
テキスト	森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④看護関係法令」医学書院		
参考書	看護行政研究会「看護六法」新日本法規出版会		
評価方法	筆記試験（80％） レポート及び授業態度（20％）		
オフィスアワー	水曜日□16:10～17:00□研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 1. 教科書に目を通し概要を把握する 2. 事前課題がある時は自己学習して講義に望む		＜復習＞ 1. 配布資料を見直し疑問点を確認する 2. 講義の内容で疑問点を確認する

授業科目名	社会福祉概論	担当教員	水木 幸子
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修／選択	必修
授業の概要	わが国の社会保障と福祉制度について歴史的変遷を学び、「人間の尊厳」を守るということについて考える。現在の社会福祉・保障制度によって人々の生活はどのように守られているのか、もし生活困窮に陥ったとき、どうしたらよいのか法律や制度と関連づけて理解できるよう教授する。		
到達目標	1 わが国の社会保障の理念および社会福祉制度の歴史的変遷を知ることができる。 2 わが国の現在の社会保障および社会福祉制度の理解をすることができる。 3 病気をもつ患者に対する社会保障および福祉制度の実際が理解できる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	社会福祉とは何か	社会福祉の体系	
第2回	社会保障と社会福祉 ①	社会保障および社会福祉の歴史的変遷と近年の動向	
第3回	社会保障と社会福祉 ②	現代社会の変化と福祉の動向	
第4回	医療保障	健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度	
第5回	介護保障 ①	介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史	
第6回	介護保障 ②	介護保険制度の概要	
第7回	所得保障	所得保障制度のしくみ、年金・労働保険制度	
第8回	公的扶助	低所得者の現状、生活保護制度の目的と概要	
第9回	障害者（児）福祉	障害者（児）の概要、障害者を取り巻く法制度と支援	
第10回	高齢者福祉	高齢者福祉の現状、高齢者を取り巻く法制度と支援	
第11回	児童福祉	児童福祉の現状、児童を取り巻く法制度と支援	
第12回	社会福祉行政	地域福祉について	
第13回	社会福祉への民間活動	民間ボランティア、NPO、共同募金	
第14回	社会福祉援助	援助技術、事例検討	
第15回	まとめ	まとめ	
テキスト	系統別看護学講座 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院		
参考書	随時紹介する		
評価方法	筆記試験（80％）、レポートおよび受講態度（20％）		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習	＜予習＞講義予定の内容を熟読して授業に臨む		＜復習＞その日の授業内容をプリントで確認する

授業科目名	保健医療福祉統計概説	担当教員名	野田 みや子 他各分野の担当教員
学年	3	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業概要	これまで学んできた各領域の看護の理論と援助論とふまえながら、わが国における保健衛生福祉に関する統計的数値の意味を学び、地域住民の健康水準が評価できること。		
到達目標	1. 主要な統計数値は算出法と共に正確に覚えること。、 2. 今迄学んできた理論と実際の援助論について、把握し理解できること。		
授業計画			
	講義テーマ	授業内容	
第1回	基礎看護学に関する看護技術と援助法	看護理論・歴史・法律等に関連する内容解説	
第2回	〃	〃	
第3回	母性看護学領域と関連する法律	母性看護に関する統計・施策についての内容説明	
第4回	〃	〃	
第5回	小児看護学領域と関連する法律	小児看護に関する統計・施策についての内容説明	
第6回	〃	〃	
第7回	成人看護学領域と関連する法律	成人看護に関する統計・施策についての解説	
第8回	〃	〃	
第9回	精神看護学領域と関連する法律	精神看護学に関する統計・施策についての解説	
第10回	〃	〃	
第11回	地域・在宅看護学領域と関連する法律	地域・在宅看護学に関連する統計・施策の解説	
第12回	〃	〃	
第13回	高齢者看護学領域に関する法律	高齢者看護学に関する統計・施策の解説	
第14回	〃	〃	
第15回	公衆衛生学に関する法律・保健統計概説	〃	
テキスト	プリントを配布する		
参考書	国民衛生の動向/厚生統計協会、国民の福祉と介護の動向（最新版） わかりやすい公衆衛生学第3版/清水忠彦他 ニューヴェルヒロカワ（最新版）		
評価方法	卒業試験としてあつかわれるので、その様に承知すること。 筆記試験1（100％）		
オフィスアワー	授業後 30分間教室又は研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう		復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう

授業科目名	国際医療活動論	担当教員名	山本澄子
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	グローバル化の進展に伴うわが国の国際化について考えることのできる能力を身につける。		
到達目標	①医療職としての国際的視野をもつ意義が理解できる。 ②国際医療のグローバル化を調べることができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	国際看護とは	グローバリゼーション、看護の国際化	
第2回	国際看護活動	国際看護と国際保健	
第3回	国際医療活動の実際の調査	インターネット等調べる。	
第4回	国際医療活動の実際の調査	インターネット等で調べる。	
第5回	医療の国際化について①	ODAとJICAの取り組み	
第6回	医療の国際化について②	ODAとJICAの取り組み	
第7回	医療の国際化について③	ODAとJICAの取り組み	
第8回	まとめ	課題レポート作成・提出	
テキスト	浦田喜久子・小原真理子編：系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学，医学書院		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	課題レポート、受講態度を総合的に評価する。		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習 (予習、復習)	＜予習＞ 世界の国際医療活動に日頃から興味をもって臨む。		＜復習＞ 新聞やテレビのニュース、インターネット等で情報収集を深める。

授業科目名	医療経済論	担当教員名	野田 みや子
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修／選択	選択
授業の概要	医療とは医学の社会的適応にある。この「社会の中の医療」という認識が講義のテーマである。具体的には、医療の特性を考え、日本の診療報酬制度が抱える諸問題を概観したあとで、岐阜県下の病院の経営計数を見て、医療も一般産業と同様に経済活動の中にあることを理解する。		
到達目標	医療が経済的側面だけでなく、アメリカやブータンの病院事例をみて医療の本質を考え、自分がどのように医療業界で働くべきか、自らの視点で考えることができる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	医療とは何か	ヒポクラテス、フローレンス、ナイチンゲール、21世紀医師憲章などを概観し、医療の本質を理解する。	
第2回	医療の質とは	病院機能評価、ISO9000, MB賞、医療の質奨励賞など	
第3回	医療安全の本質を理解する	医療安全とナースの労働環境の変革	
第4回	医療と経済基礎知識	日本の平均寿命から医師不足、看護師不足まで	
第5回	日本の医療	診療報酬制度が抱える諸問題と我々の課題	
第6回	病院経営の経済性①	経営の経済性を評価するための会計学の基礎と病院経営の評価方法	
第7回	病院経営の経済性②	経営計数公式による岐阜県下の病院の経営診断（演習）	
第8回	諸外国の医療	アメリカとブータンの病院事例検討	
テキスト	なし		
参考書	PFドラッカー、GJスターン 「非営利組織の成果重視マネジメント」 ダイヤモンド社 出版2000年12月		
評価方法	レポート（80％） 受講態度（20％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 講師控室		
準備学習(予習、復習)	予習；日本の医療の現状に関する資料を読んでおきましょう		復習；資料をもとに振り返りとまとめをしておきましょう

授業科目名	看護学概論	担当教員名	野田 みや子
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	看護を学ぶための基本的知識・考え方や諸理論に関する知識を獲得し、自らの看護観を確かなものにする土台を形成する。		
到達目標	1.看護行為の本質、看護倫理、看護の歴史や教育制度などを知り、看護の役割、機能について考察する。 2.看護の提供のしくみ、地域・社会と看護の活動などを知り、今後を展望した活動について考える。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	看護とは	看護の変遷、看護の歴史、看護の定義	
第2回	看護の役割とケア	看護ケア、看護の役割と機能	
第3回	看護倫理①	倫理とは、看護者の倫理綱領	
第4回	看護倫理②	看護実践における倫理問題	
第5回	おもな理論家と看護理論	現在看護の礎となる看護論	
第6回	ナイチンゲールの看護①	看護覚書、看護の定義	
第7回	ナイチンゲールの看護②	看護のなすべきこと、観察の重要性	
第8回	ナイチンゲールの看護③	ナイチンゲール方式の発展の経緯	
第9回	バージニア・ヘンダーソン①	看護の基本となるもの	
第10回	バージニア・ヘンダーソン②	基本的ニーズと基本的看護の構成要素	
第11回	ヘンダーソン理論の活用①	アセスメントから問題へ	
第12回	ヘンダーソン理論の活用②	事例	
第13回	看護の対象の理解①	ストレス学説、コーピング理論、マズローの欲求段階説、危機理論	
第14回	看護の対象の理解②	発達段階・発達課題、対象の理解・家族・集団・地域	
第15回	健康と看護①	WHOの健康の定義、健康の関連要因	
第16回	健康と看護②	社会の変遷と健康管の変化	
第17回	健康と看護③	健康に関する統計	
第18回	看護の確立①	看護職の成立と発展	
第19回	看護の確立②	看護の専門分化	
第20回	看護教育①	養成制度、看護基礎教育	
第21回	看護教育②	教育とキャリア開発、継続教育	
第22回	保健医療システムと看護①	プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション	
第23回	保健医療システムと看護②	医療・保健・福祉の連携	
第24回	保健医療システムと看護③	保健・医療・福祉の動向	
第25回	看護提供のしくみ①	サービスとしての看護	
第26回	看護提供のしくみ②	看護をめぐる制度と政策①	
第27回	看護提供のしくみ③	看護をめぐる制度と政策②	
第28回	看護サービスの管理①	看護管理システム、組織	
第29回	看護サービスの管理②	医療安全と医療の質保証	
第30回	まとめ	まとめ	
テキスト	系統看護学講座 看護学概論-基礎看護学〈1〉医学書院		
参考書	湯横ます監修：ナイチンゲール著作集、現在社 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯横ますほか訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 秋葉公子他共著：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際、ヌーヴェルヒロカワ		
評価方法	受講態度10%、レポート30%、筆記試験60%		
オフィスアワー	火曜日 16：00～17：00 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習：授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう	復習：資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう	

授業科目名	生命と倫理	担当教員名	石田 美知
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	倫理は人として良く生きるために、人として良い/良くない行為、よい/良くないあり方を検討する。看護の実践には深い洞察力が求められ、看護倫理は日々の実践の中に求められる。倫理的な判断のための基本的な知識と看護職としての姿勢・態度について考え学ぶ。		
到達目標	1. 倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶ必要があるのかを理解する。 2. 看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための考え方・態度について理解する。 3. 看護ケアを行う中で倫理的問題やジレンマの解決にどのように取り組むべきか考える。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	倫理とは何か①	倫理とは、生命倫理の歴史、倫理について学ぶ意義	
第2回	倫理とは何か②	医療倫理及び看護倫理の歴史的変遷、倫理原則、倫理綱領	
第3回	倫理とは何か③	看護実践上の倫理的概念、アドボカシー、責務、協力、ケアリング	
第4回	倫理とは何か④	インフォームドコンセント、守秘義務、個人情報保護	
第5回	倫理的問題へのアプローチ	倫理的意思決定のプロセス	
第6回	現代医療におけるさまざまな倫理的問題①	人の誕生に関わる倫理的問題（優生思想と障害）	
第7回	現代医療におけるさまざまな倫理的問題②	人の誕生に関わる倫理的問題（生殖補助技術と代理母）	
第8回	現代医療におけるさまざまな倫理的問題③	人の死に関わる倫理的問題（終末期ケア）	
第9回	現代医療におけるさまざまな倫理的問題④	人の死に関わる倫理的問題（脳死と臓器移植）	
第10回	現代医療におけるさまざまな倫理的問題⑤	人の死に関わる倫理的問題（臓器提供における医療配分について）	
第11回	臨床でおきている倫理問題についてグループワークを行う①	事例をもとに討議	
第12回	臨床でおきている倫理問題についてグループワークを行う①	事例をもとに討議・発表	
第13回	臨床でおきている倫理問題についてグループワークを行う②	事例をもとに討議	
第14回	臨床でおきている倫理問題についてグループワークを行う②	事例をもとに討議・発表	
第15回	臨床でおきている倫理問題についてグループワークを行う②／まとめ	事例をもとに討議・発表／まとめのレポート	
テキスト	系統看護学講座別巻 看護倫理 医学書院		
参考書	授業時紹介する		
評価方法	授業態度30％、レポート10％、試験60％		
オフィスアワー	月曜日 16：10～17：00 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習；授業内容をもとに教科書を読んでおきます		復習；資料、教科書等で振り返りを行っていきます

授業科目名	看護技術論	担当教員名	山本澄子
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	看護の対象となる人の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント技術の基礎を身につける。		
到達目標	①フィジカルアセスメントの必要性が理解できる。 ②測定部位のフィジカルアセスメントに不可欠な人体の構造と機能を説明することができる。 ③バイタルサインの測定を正確に行うことができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントとは何か。フィジカルアセスメントの意義と必要性	
第2回	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメントとは何か。ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとの関係、フィジカルアセスメント実施の環境調整について	
第3回	フィジカルアセスメント実施にあたって	看護師の準備とアセスメントの進め方、フィジカルアセスメントの必要物品	
第4回	フィジカルアセスメントの基礎知識	基本情報の聞き取り、一般状態の観察、基本技法と系統別診査 等	
第5回	基本技法について	問診、視診、触診、打診、聴診の技術とは、聴診器の取り扱い方	
第6回	フィジカルアセスメント①	呼吸器系のアセスメント	
第7回	フィジカルアセスメント②	呼吸器系のアセスメント	
第8回	フィジカルアセスメント③	循環器系のアセスメント	
第9回	フィジカルアセスメント④	循環器系のアセスメント	
第10回	フィジカルアセスメント⑤	消化器系のアセスメント	
第11回	フィジカルアセスメント⑥	消化器系のアセスメント	
第12回	フィジカルアセスメント⑦	脳・神経系のアセスメント	
第13回	フィジカルアセスメント⑧	脳・神経系のアセスメント	
第14回	フィジカルアセスメント⑨	筋・骨格系のアセスメント	
第15回	フィジカルアセスメント⑩	筋・骨格系のアセスメント	
第16回	バイタルサイン測定①	体温とは、（腋窩温、口腔温、鼓膜温、直腸温）	
第17回	バイタルサイン測定②	脈拍とは、脈拍測定可能部位	
第18回	バイタルサイン測定③	呼吸とは、呼吸不全とパルスオキシメーター	
第19回	バイタルサイン測定④	血圧とは、血圧計の取り扱い方、触診法と聴診法	
第20回	看護技術①	フィジカルアセスメントの実際、バイタルサイン測定法	
第21回	看護技術②	フィジカルアセスメントの実際、バイタルサイン測定法	
第22回	看護技術③	フィジカルアセスメントの実際、バイタルサイン測定法	
第23回	看護技術④	フィジカルアセスメントの実際、バイタルサイン測定法	
第24回	看護技術⑤	フィジカルアセスメントの実際、バイタルサイン測定法	
第25回	看護技術⑥	フィジカルアセスメントの実際、バイタルサイン測定法	
第26回	看護技術⑦	技術チェック①	
第27回	看護技術⑧	技術チェック②	
第28回	看護技術⑨	術チェック③	
第29回	看護技術⑩	術チェック④	
第30回	看護技術⑪	まとめ	
テキスト	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント、メディカ出版、 看護技術講義・演習ノート上巻、サイオ出版		
参考書	フィジカルアセスメントがみえる、メディックメディア		
評価方法	筆記試験50％、技術到達状況40％、受講態度10％		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 講義予定の内容の部分を熟読して授業に臨む。		<復習> その日の授業内容をテキスト、プリントで確認する。

授業科目名	看護過程論	担当教員名	山本澄子
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	対象の健康に関わる問題を明らかにし、その問題を解決していく過程が看護過程である。問題解決の追究および対象を理解していく過程を身につける。		
到達目標	①看護過程の意義と目標が理解できる。 ②看護過程の各段階について理解できる。 ③情報収集から情報の分析・判断を説明できる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	看護過程とは	看護過程とは、看護過程の位置づけ	
第2回	看護過程と看護の本質①	看護過程と看護の本質との関係、看護過程と看護理論、看護過程と看護診断	
第3回	看護過程と看護の本質②	看護過程と看護の本質との関係、看護過程と看護理論、看護過程と看護診断	
第4回	代表的な看護理論家①	フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソン 他	
第5回	代表的な看護理論家②	環境、人間関係の発展段階、看護介入、対象者のニーズ 等	
第6回	看護過程の展開について①	看護過程の構成＜情報収集、アセスメント、看護問題の明確化（看護診断）、計画立案、実施、評価＞	
第7回	看護過程の展開について②	看護過程の構成＜情報収集、アセスメント、看護問題の明確化（看護診断）、計画立案、実施、評価＞	
第8回	看護過程の展開法①	事例を用いてヘンダーソンによる看護過程の展開、看護過程法と記録用紙の関係について、情報収集と分析、アセスメント	
第9回	看護過程の展開法②	事例を用いてヘンダーソンによる看護過程の展開、看護過程法と記録用紙の関係について、情報収集と分析、アセスメント	
第10回	看護過程の展開法③	事例を用いてヘンダーソンによる看護過程の展開、全体像	
第11回	看護過程の展開法④	事例を用いてヘンダーソンによる看護過程の展開、看護問題の明確化	
第12回	看護過程の展開法⑤	事例を用いてヘンダーソンによる看護過程の展開、看護計画立案	
第13回	看護過程の展開法⑥	事例を用いてヘンダーソンによる看護過程の展開、実施（看護援助）と評価について	
第14回	事例による看護過程の展開の整理	記録用紙作成と整理	
第15回	まとめ	事例による看護過程の展開の考え方とポイント	
テキスト	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際、ヒロカワ、看護技術講義・演習ノート上巻、サイオ出版		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	筆記試験50％、事例展開記録40％、受講態度10％		
オフィスアワー	講義終了後、研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 講義予定の内容の部分を熟読して授業に臨む。		＜復習＞ その日の授業内容を確認し、授業の進度に遅れないように記録の作成、整理を行う。

授業科目名	生活行動援助技術論	担当教員名	山本澄子、水木幸子
学年	1	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	看護実践を支える「看護基本技術」の①環境調整技術、②食事援助技術、③排泄援助技術、④活動・休息援助技術、⑤清潔・衣生活援助技術について、看護の視点をもった援助方法を身につける。		
到達目標	①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	生活行動援助技術論とは	生活行動援助技術の意義と必要性、看護技術の位置づけ、本授業科目の講義と演習の進め方	
第2回	環境調整技術①	環境とは、環境アセスメント、病床環境の調整、対象者の生活の場の必要条件	
第3回	環境調整技術②	環境を整える技術、テリトリーと個人空間、病院・病棟の構造設備	
第4回	感染防御	感染防御に必要な基礎知識、感染症に関する法規、感染防御アセスメント	
第5回	基礎看護学演習	演習の進め方、実習室の設備と物品管理、看護ユニフォーム着用による服装と身だしなみ	
第6回	活動・休息援助技術①	作業域、体位の安定性、良肢位、関節可動域	
第7回	活動・休息援助技術②	体位変換の原理・法則、移乗と移送、杖歩行	
第8回	活動・休息援助技術③	休息と睡眠への援助	
第9回	食事援助技術①	人間にとっての栄養、食欲と空腹感、食行動、栄養状態の評価	
第10回	食事援助技術②	食物援助の基本、消化と吸収	
第11回	食事援助技術③	食事の形態、非経口的栄養法	
第12回	排泄援助技術①	排泄の意義、排尿の生理、排尿異常	
第13回	排泄援助技術②	排便の生理、排便異常、導尿・浣腸・摘便、排泄援助の基本	
第14回	清潔援助技術①	身体清潔の意義と目的、皮膚の生理的作用、清潔の利点	
第15回	清潔援助技術②	清潔方法(入浴・シャワー浴・清拭・洗髪・足浴)	
演習計画			
第1～2回	衛生的な手洗い法	標準予防策、ディスポーザブルエプロンの着脱法、手袋の着脱法	
第3～4回	環境調整援助技術①	リネン類のたたみ方、ベッドメイキング(オープンベッド、クローズドベッド)	
第5～6回	環境調整援助技術②	ベッドメイキング(オープンベッド、クローズドベッド)	
第7～8回	環境調整援助技術③	ベッドメイキング(オープンベッド、クローズドベッド)	
第9～10回	活動・休息援助技術①	体位変換、移乗と移送、杖歩行	
第11～12回	活動・休息援助技術②	体位変換、移乗と移送、杖歩行	
第13～14回	環境調整援助技術④	リネン交換	
第15～16回	環境調整援助技術⑤	リネン交換	
第17～18回	食事援助技術	食事の援助、口腔ケア	
第19～20回	排泄援助技術	便器・尿器の当て方、オムツ着用法	
第21～22回	清潔援助技術①	清拭、寝衣交換、足浴	
第23～24回	清潔援助技術②	洗髪	
第25回	まとめ	手技の確認	
テキスト	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版、看護技術講義・演習ノート上巻・下巻、サイオ出版		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	筆記試験50%、技術到達状況40%、受講態度10%		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 講義・演習予定の内容の部分を熟読して授業に臨む。		<復習> その日の授業内容をテキスト、プリントで確認する。

授業科目名	回復促進援助技術論	担当教員名	山本澄子、水木幸子
学年	1	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	看護基本技術から診療の補助に係る技術 ①無菌操作 ②導尿・洗腸 ③採血 ④与薬 ⑤注射 ⑥包帯の援助技術法について、看護の視点をもった援助技術を身につける。		
到達目標	①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	回復促進援助技術論とは	回復促進援助技術の意義と必要性、診療に伴う援助技術について、本授業科目の講義と演習の進め方	
第2回	感染防御について①	感染と感染防止について	
第3回	感染防御について②	洗浄・消毒・滅菌、滅菌物の取り扱い(無菌操作)	
第4回	診察と看護、検査と看護	診療における基礎知識と看護師の役割、検査における基礎知識と看護師の役割	
第5回	安楽を促す援助技術	電法による有効な援助法について	
第6回	創傷保護に関する技術	包帯法の基礎知識	
第7回	与薬と看護①	薬物療法の基礎知識	
第8回	与薬と看護②	薬物療法と看護師の役割	
第9回	与薬と看護③	注射法の基礎知識	
第10回	与薬と看護④	注射の種類と適応	
第11回	与薬と看護⑤	薬物療法時の援助法	
第12回	呼吸を整えるための看護	酸素吸入、吸引の必要性	
第13回	排泄への援助①	排泄に関するアセスメント	
第14回	排泄への援助②	導尿と洗腸について	
第15回	まとめ	講義内容の確認	
演習計画			
第1～2回	感染防御の技術①	演習の進め方と諸注意、滅菌手袋の装着	
第3～4回	感染防御の技術②	ガウンテクニック、滅菌物の取り扱い、創傷処置	
第5～6回	フィジカルアセスメント、生命の徴候を観察する技術	復習(視診、触診、聴診、打診、身体計測、聴診器の取り扱い方、バイタルサインの測定)	
第7～8回	電法	温電法、冷電法	
第9～10回	創傷保護に関する技術	包帯の種類、包帯法	
第11～12回	検査と検体の取り扱い	注射針の種類、採血法、血糖測定	
第13～14回	与薬の技術①	注射法(皮内注射、皮下注射、筋肉内注射)	
第15～16回	与薬の技術②	注射法(静脈内注射、点滴静脈内注射)	
第17～18回	酸素療法、吸引法	フェイスマスク、鼻カニューレ、吸引	
第19～20回	排泄を促す技術①	導尿法、滅菌手技	
第21～22回	排泄を促す技術②	洗腸法	
第23～24回	技術チェック	技術の確認	
第25回	技術チェック	技術の確認	
テキスト	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版、看護技術講義・演習ノート上巻・下巻 サイオ出版		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	筆記試験50%、技術到達状況40%、受講態度10%		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 講義・演習予定の内容の部分を熟読して授業に臨む。		<復習> その日の授業内容をテキスト、プリントで確認する。

授業科目名	発達看護概論	担当教員名	森口 信子
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	看護の対象である「人間」は受精から死に至るまで成長・発達する存在である。また、生物・身体的、心理・精神的、社会的側面を持つ統合的存在であり、人間と人間、人間と環境の中で存在している。看護はこの人間の誕生から死に至るあらゆるライフサイクルにおける「人」を対象とする。ここでは、各ライフサイクルにおける成長と発達、人間関係や社会的課題を持つ「人」の姿について理解を深め、各期の健康上の課題に応じた看護の視点を学ぶ。		
到達目標	各ライフサイクルにおける成長と発達について理解できるようになる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	発達看護論とは	オリエンテーション、発達看護を学ぶ目的	
第2回	胎児期～新生児期	新生児期の発達と看護	
第3回	乳児期	乳児期の発達と看護	
第4回	幼児期	小児期の発達と看護	
第5回	学童期	学童期の発達と看護	
第6回	思春期・青年期	思春期・青年期の発達と看護	
第7回	思春期・青年期までの発達過程①	自分のルーツを知る（演習）	
第8回	思春期・青年期までの発達過程②	自分のルーツを知る（グループワーク）	
第9回	成人期前期①	成人期前期の発達と看護①	
第10回	成人期前期②	成人期前期の発達と看護②	
第11回	成人期後期①	成人期後期の発達と看護①	
第12回	成人期後期②	成人期後期の発達と看護②	
第13回	老年期前期	老年期前期の発達と看護	
第14回	老年期後期	老年期後期の発達と看護	
第15回	まとめ	発達看護学から人を見る	
テキスト	生涯人間発達論 第2版 著・服部洋子 医学書院、各看護学の概論の教科書		
参考書	随時紹介する		
評価方法	レポート（70％）、授業態度（30％）		
オフィスアワー	講義終了後 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう。		<復習> 資料、テキストをもとに振り返りまとめをしておきましょう。

授業科目名	家族看護概論	担当教員名	則竹 翔
学年	1	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	家族内で健康や療育に関する諸問題が起きた時、その支援に必要となる家族看護の基本理論を学習する。		
到達目標	1. 家族の「いえ」制度から、多様化する現代家族について考察する。 2. 家族看護学の基本に基づき、家族が健康的に生活できるような適切な援助を考えられる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	家族看護学の概念	家族の定義と家族をめぐる基本概念について	
第2回	わが国における家族の変貌	「いえ」制度、家族の多様化、個人化する家族	
第3回	夫と妻のパートナーシップ（夫婦関係論）	配偶者選択、恋愛関係の形成と発展	
第4回	々	恋愛関係の進展と崩壊	
第5回	親密性と性愛の心理	性意識と性行動、パートナーシップにおける性的親密	
第6回	夫と妻の役割と常識	ジェンダーとは何か、常識という制度	
第7回	夫と妻の葛藤と離婚	葛藤から離婚へ、離婚の原因、離婚者の境遇	
第8回	親と子と孫の絆（親子関係論）	ペアレンティングとは（子育ての史的展望）	
第9回	母性論（母性神話をこえて）	母性とは、育児文化に影響を与えた心理学的知見	
第10回	父性論（父性の活性化のために）	父性とは、父性としての行動、父性不在、活性化	
第11回	祖父母の役割	祖父母の役割、孫との関係	
第12回	家族と社会	多様化する家族像、個人化する家族、家族問題	
第13回	地域と家族（地域ネットワーク）	家族と外部を取り結ぶインターフェース	
第14回	職場と家族	長時間労働と遠距離通勤、単身赴任、共働き家族	
第15回	高齢化社会と少子化	高齢化社会とは、高齢期の不安、要介護高齢者	
テキスト	家族論・家族関係論 医学書院		
参考書			
評価方法	定期試験100%		
オフィスアワー	担当教員在室時随時		
事前学習	＜予習＞教科書の該当する範囲を熟読してくること。		＜復習＞教科書の該当する範囲を熟読してくること。出された課題の内容に取り組むだけでなく、課題の内容から範囲を広げて自分で調べ学習すること。

授業科目名	臨床看護概論	担当教員名	椎名 祐樹
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	看護の対象を健康レベルの側面から急性期、慢性期、回復期、終末期とし、その各々の看護援助の特徴を学ぶ。 主な治療・処置や症状別の看護を理解する。		
到達目標	1. 急性期・回復期・慢性期・終末期の各期にある対象と看護援助の特徴を理解する。 2. 主な治療・処置及び症状別看護援助の方法を理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	健康の経過に応じた看護援助①	オリエンテーション、急性期の特徴と看護援助	
第2回	健康の経過に応じた看護援助②	コピングに関連する症状を示す対象者への看護	
第3回	健康の経過に応じた看護援助③	回復期の特徴と看護援助、慢性期の特徴と看護援助	
第4回	健康の経過に応じた看護援助④	終末期の特徴と看護援助	
第5回	主な症状と看護援助①	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護	
第6回	主な症状と看護援助②	循環に関連する症状を示す対象者への看護	
第7回	主な症状と看護援助③	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護	
第8回	主な症状と看護援助④	排泄に関連する症状を示す対象者への看護	
第9回	主な症状と看護援助⑤	活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護	
第10回	主な症状と看護援助⑥	安楽に関連する症状を示す対象者への看護	
第11回	主な医学的治療と看護援助①	輸液療法を受ける対象者への看護	
第12回	呼吸障害患者への援助技術	ネブライザー吸入、吸引（講義）	
第13回	呼吸障害患者への援助技術	ネブライザー吸入、吸引（演習）	
第14回	主な医学的治療と看護援助①	創傷処置／創傷ケアを受ける対象者への看護	
第15回	呼吸障害患者への援助	酸素吸入	
テキスト	・ 岩井郁子・他：系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 ・ 高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第4版 学研 ・ 坂井達夫他：系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 ・ 山口瑞穂子：看護技術講義・演習ノート下巻 医学芸術社 ・ ヘルスアセスメント メディカ出版		
参考書	授業時随時紹介する		
評価方法	筆記試験 (100%)		
オフィスアワー	水曜日16：00～17：00 研究室		
備考	＜予習＞教科書の該当する範囲を熟読してくること。		＜復習＞教科書の該当する範囲を熟読してくること。出された課題の内容に取り組むだけでなく、課題の内容から範囲を広げて自分で調べ学習すること。

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ	担当教員	山本 澄子他、看護学科看護教員全員
学年	1	開講期	前期
単位数・時間	1単位・45時間	必修/選択	必修
実習の概要	入院生活を送る対象者を受け持ち、対象がどのような療養環境の中で、どのような日常生活を送っているのかを把握し、行われている治療や看護の必要性を理解する。療養生活を送っている人々とのコミュニケーションや観察を通して、対象の日常生活に関する課題を把握し、必要な看護援助を考える。		
到達目標	①対象とコミュニケーションができる。 ②対象の療養環境について、生活者の視点から理解できる。 ③観察や患者との関わり、看護師からの説明により、受け持ち患者の日常生活に関する課題を把握できる。 ④援助計画の立案、実施、評価をすることの必要性がわかり、立案した計画に基づき日常生活援助を看護師と共に実施できる。 ⑤コミュニケーションや日常生活援助をとらして看護の役割を理解できる。 ⑥看護を実践する者として倫理的な実習態度を身につけることができる。		
実習計画			
実習方法			
1. 実習期間は1週間（月～木は病院、金は学内） 2. 受け持ち患者1名を担当する。 3. 実習施設は岐阜県内の病院 詳細については実習要項参照のこと			
テキスト	基礎看護学領域の授業科目で使用した書籍すべて		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	実習内容、実習評価表、実習記録、受講態度を総合して評価する。		
オフィスアワー	随時、研究室		
準備学習 （予習、復習）	予習	復習	
	自身が実習に行く実習施設の概要、交通機関、所要時間、環境調整、コミュニケーションについて特に確認しておくこと。	到達目標における到達状況を振り返り、不足している部分の学習を深めること。	

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当教員	山本 澄子他、看護学科看護教員全員
学年	2	開講期	前期
単位数・時間	2単位・90時間	必修/選択	必修
実習の概要	入院生活を送る対象者を受け持ち、対象者のニーズに沿った看護過程の展開の基礎を身につける。また、看護過程の展開から必要な看護援助法を考える。		
到達目標	①患者と援助関係を築くことができる。 ②基本的ニーズの充足状態をアセスメントし、看護上の問題を明確にすることができる。 ③看護問題に対応した個別的、具体的な日常生活援助を実施することができる。 ④患者の個別性を踏まえた日常生活援助を実施できる。 ⑤実施した援助を評価し、次の援助行動に活用できる。 ⑥看護援助活動を通して、看護職者としての態度を身につけることができる。		
実習計画			
実習方法			
1. 実習期間は2週間（1週目は月～水・金は病院 木は学内、2週目は月～木は病院、金は学内）			
2. 受け持ち患者1名を担当する。			
3. 実習施設は岐阜県内の病院			
詳細については実習要項参照のこと			
テキスト	基礎看護学領域の授業科目で使用した書籍すべて		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	実習内容、実習評価表、実習記録、受講態度を総合して評価する。		
オフィスアワー	随時、研究室		
準備学習 （予習、復習）	予習	復習	
	自身が実習に行く実習施設の概要、交通機関、所要時間、環境調整、コミュニケーションについて特に確認しておくこと。	到達目標における到達状況を振り返り、不足している部分の学習を深めること。	

授業科目名	看護研究	担当教員名	野田みや子、山本澄子他看護学科看護教員
学年	2～3	開講期	2年後期～3年前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	看護実践における研究の意義を理解し、研究の基礎を身につける。		
到達目標	①看護研究の概要が理解できる。 ②文献検索ができる。 ③テーマに沿って数編の文献を読み、その内容を簡潔にまとめて述べることができる。 ④看護研究のプロセスに沿って論文作成ができ、提示することができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	看護研究とは	研究とは、看護領域の研究、看護研究における倫理	
第2回	看護研究の方法論	研究方法の種類、研究データの収集法	
第3回	研究論文の構成要素	論文の種類、学術論文の構成	
第4回	文献検索①	文献の種類、文献検索法	
第5回	文献検索②	文献検索法	
第6回	研究テーマの決定	指導分野の希望調査	
第7回	文献検索およびレポート作成	指導教員ごとにセミナー形式で進める。	
第8回	文献検索およびレポート作成	指導教員ごとにセミナー形式で進める。	
第9回	文献検索およびレポート作成	指導教員ごとにセミナー形式で進める。	
第10回	文献検索およびレポート作成	指導教員ごとにセミナー形式で進める。	
第11回	文献検索およびレポート作成	指導教員ごとにセミナー形式で進める。	
第12回	文献検索およびレポート作成	指導教員からの個別指導	
第13回	文献検索およびレポート作成	指導教員からの個別指導	
第14回	文献検索およびレポート作成	指導教員からの個別指導	
第15回	文献検索およびレポート作成	レポート提出	
テキスト	李 節子：看護研究ころえ帳－研究の基本からプレゼンテーションまで－，医歯薬出版		
参考書	黒田裕子：黒田裕子の看護研究step by step, Gakken		
評価方法	看護研究レポート100%		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 予定している講義内容部分をテキストで確認する。		<復習> その日の授業内容をテキスト、プリントで確認する。

授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	高木繁子、加藤睦美
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	成人期にある人々の特徴を理解し、ライフサイクルからみた成人の健康問題を生活習慣と関連づけて理解できる。成人看護に必要な基本となる主要概念や理論を応用できる看護を学ぶことができる。		
到達目標	1. ライフサイクルにおける成人期の特徴が理解できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題について成人保健をふまえて理解ができる。 3. 健康問題をもつ成人を援助するために必要な看護の理論や主要概念が理解できる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	成人看護学概念と構成	成人看護学の意義および成人期にある人の理解	
第2回	成人期の成長発達の特徴	成人期にある人の成長・発達と発達課題	
第3回	成人期に生じやすい健康問題①	成人保健の動向	
第4回	成人期に生じやすい健康問題②	成人期における生活様式の変化と健康問題	
第5回	成人期に生じやすい健康問題③	成人期の健康破綻と生活習慣病	
第6回	成人にとっての健康の意味と保健行動	飲酒と健康　喫煙と健康グループワーク①	
第7回	成人にとっての健康の意味と保健行動	飲酒と健康　喫煙と健康グループワーク②	
第8回	成人にとっての健康の意味と保健行動	飲酒と健康　喫煙と健康グループワーク③・発表	
第9回	身体機能の特徴と看護①	身体機能の安定性と変化	
第10回	身体機能の特徴と看護②	身体機能に合わせた看護	
第11回	身体機能の特徴と看護③	個人の身体機能を理解する方法	
第12回	学習の特徴と看護	おとなの学びの特徴と成人教育の目標	
第13回	成人看護に使用される理論・モデル	病みの軌跡/セルフケア理論	
第14回		ストレス理論/危機理論	
第15回		自己効力理論	
テキスト	・安酸史子・成人看護学(1)：成人看護学概論　第3版　メディカ出版 ・厚生統計協会「厚生指針　増刊　国民衛生の動向」		
参考書	・授業の中で紹介する。		
評価方法	小テスト（20％）、レポート（20％）及び筆記試験（60％）を基本として総合的に評価する。		
オフィスアワー	水曜日　16：20～18：30　研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 予定している講義内容部分をテキストで確認する。		<復習> 人間関係論や生涯人間発達学などの人の理解について復習しておくこと。

授業科目名	成人看護学援助論Ⅰ	担当教員名	高木繁子、加藤睦美
学年	2	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	急激な健康破綻および手術による身体への侵襲に臨んだ周手術期にある患者を全人的にとらえ、患者ニーズに沿った急性期看護を学ぶ。		
到達目標	1. 急性期看護および周手術期看護の概念について理解する。 2. 急性期にある人とその家族の健康状態の特徴と看護を理解する。 3. 各系統における主要な疾患に対する看護が理解できる。 4. 周手術期にある人とその家族を理解し手術侵襲からの回復のために必要な看護援助の方法を理解する。 5. 周手術期にある人とその家族に対する看護過程の展開を理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	急性期看護とは	急性期にある患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解	
第2回	急性期看護①	急性期にある患者・家族の特徴	
第3回	急性期看護②	看護援助に必要な看護の基本	
第4回	周手術期看護①	術前・術中の看護① 術前アセスメントのポイント 高齢者のアセスメントのポイント	
第5回	周手術期看護②	術前・術中の看護② 手術中の患者状態と看護 患者の状態急変について	
第6回	周手術期看護③	術後の看護①集中治療と看護 侵襲と生体反応 呼吸器系、消化器系への影響と看護	
第7回	周手術期看護④	術後の看護② 創傷治癒の過程と看護 急性疼痛と看護 術後せん妄と看護 早期離床 急性期の心理的反応	
第8回	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護①	食道・胃切除術後の看護	
第9回	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護②	大腸切除術患者の看護	
第10回	看護過程の展開①	事例患者の情報整理	
第11回	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護③	肝疾患、胆石症患者の看護 内視鏡下・腹腔鏡下術を受ける患者の看護	
第12回	循環器疾患をもつ患者の看護①	心臓血管外科について① 循環器の解剖生理 心不全の理解	
第13回	循環器疾患をもつ患者の看護②	心臓血管外科について① 心疾患の理解と心臓血管外科領域の管理	
第14回	看護過程の展開②	事例患者のアセスメント①	
第15回	呼吸機能障害をもつ患者の看護①	肺切除術患者の看護 胸腔ドレナージと管理	
第16回	呼吸機能障害をもつ患者の看護②	人工呼吸器装着患者の看護	
第17回	看護過程の展開③	事例患者のアセスメント②	
第18回	性・生殖機能障害患者の看護	乳がん患者の看護	
第19回	排泄機能障害患者の看護	膀胱がん患者の看護	
第20回	放射線治療を受ける患者の看護	放射線治療について 術前後の照射を受ける患者の看護	
第21回	看護過程の展開④	事例患者の看護診断の抽出と優先順位の決定①	
第22回	看護過程の展開⑤	事例患者の看護診断の抽出と優先順位の決定②	
第23回	運動機能障害をもつ患者の看護	大腿骨頸部骨折患者の看護	
第24回	脳・神経機能障害をもつ患者の看護①	脳梗塞・脳出血の患者の看護	
第25回	看護過程の展開⑥	手術前・手術中・手術後の看護過程の展開	
第26回	看護過程の展開⑦	事例患者の看護計画①	
第27回	看護過程の展開⑧	事例患者の看護計画②	
第28回	技術演習①	心電図12誘導 輸液ポンプ	
第29回	看護過程の展開⑨	事例患者の発表	
第30回	看護過程の展開⑩	事例患者の発表	
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [2]呼吸器 [3]循環器 [5]消化器 [7]脳・神経 [8]腎・泌尿器 [9]女性生殖器 [10]運動器 T.ヘザー・ハードマン編集、日本看護学会監訳：NANDA-I看護診断 定義と分類2012-2014 医学書院 桑野タイ子監集、佐藤栄子編集：シリーズ ナーシング・ロードマップ 疾患別成人看護 中央法規		
参考書	NANDA-I NIC-NOKの基本を理解する 医学書院		
評価方法	定期試験 80 %、課題レポート 20 %		
オフィスアワー	水曜日 16：20～17：00 研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> 予定している講義内容部分をテキストで確認する。		<復習> 人間関係論や生涯人間発達学などの人の理解について復習しておくこと。

授業科目名	成人看護学援助論Ⅱ	担当教員名	高木繁子、加藤睦美
学年	2	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	成人期の人々の健康問題を理解し、患者が一生病気と付き合いながら自らの力で、その人らしい生活を送れるように援助する看護の実践方法を学ぶ。		
到達目標	1. 各系統における主要な慢性の疾患に対する看護が理解できる。 2. 看護診断の過程が理解できる。 3. 患者のセルフケア能力を高める方法を理解できる。		
授業計画			
回数(日付)	講義テーマ	授業内容	
第1回	慢性期疾患のある患者・家族への看護、看護診断①	授業内容の解説、NANDA-Iの分類システム	
第2回	看護診断②	看護診断の構造および種類	
第3回	看護診断③、慢性の健康障害をもつ患者の看護①呼吸器-1	看護診断過程、慢性の呼吸機能障害をもつ人に関する基礎知識	
第4回	慢性の健康障害をもつ患者の看護①呼吸器-2	慢性の呼吸機能障害をもつ人に関する基礎知識、COPD患者の看護	
第5回	慢性の健康障害をもつ患者の看護①呼吸器-3	COPD患者の看護	
第6回	慢性の健康障害をもつ患者の看護②循環器-1	慢性の循環器障害をもつ人に関する基礎知識	
第7回	慢性の健康障害をもつ患者の看護②循環器-2	慢性の循環器障害をもつ人に関する基礎知識、心不全患者の看護	
第8回	慢性の健康障害をもつ患者の看護②循環器-3	心不全患者の看護	
第9回	看護過程の展開①	アセスメント：活動／休息	
第10回	慢性の健康障害をもつ患者の看護③脳神経-1	脳・神経系の障害をもつ人に関する基礎知識	
第11回	慢性の健康障害をもつ患者の看護③脳神経-2	脳・神経系の障害をもつ人に関する基礎知識、脳梗塞患者の看護	
第12回	慢性の健康障害をもつ患者の看護③脳神経-3	脳梗塞患者の看護	
第13回	看護過程の展開②	アセスメント：栄養、排泄と交換	
第14回	慢性の健康障害をもつ患者の看護④造血器-1	白血病とその治療の理解	
第15回	慢性の健康障害をもつ患者の看護④造血器-2	白血病患者の看護	
第16回	看護過程の展開③	アセスメント：安全／防衛、ヘルスプロモーション	
第17回	看護過程の展開④	アセスメント：知覚／認知、自己知覚、役割関係等	
第18回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑤消化器-1	慢性肝炎・肝硬変とその治療の理解	
第19回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑤消化器-2	慢性肝炎・肝硬変患者の看護	
第20回	看護過程の展開⑤	関連図作成	
第21回	看護過程の展開⑥	看護診断の表現と優先順位の決定、看護計画	
第22回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑥代謝-1	代謝機能障害をもつ人に関する基礎知識	
第23回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑥代謝-2	代謝機能障害をもつ人に関する基礎知識、糖尿病患者の看護	
第24回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑥代謝-3	糖尿病患者の看護	
第25回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑥代謝-4	生活指導：パンフレット作成	
第26回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑥代謝-5	インスリン療法	
第27回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑦腎臓-1	腎機能障害をもつ人に関する基礎知識	
第28回	慢性の健康障害をもつ患者の看護⑦腎臓-2	慢性腎不全患者の看護	
第29回	看護過程の展開⑦技術演習②-1	看護計画実施・評価	
第30回	看護過程の展開⑦技術演習②-2	看護計画実施・評価	
テキスト	・T.ヘザー・ハードマン編集、日本看護診断学会監訳「NANDA-I看護診断 定義と分類2012-2014」医学書院 ・鈴木志津枝・他「成人看護学 慢性期看護論 第2版」ヌーベルヒロカワ ・系統看護学講座成人看護学②呼吸器、③循環器、④血液・造血器、消化器⑤、⑥内分泌・代謝、⑦脳・神経、⑧腎・泌尿器 ・岩井郁子・他：系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院・関連図の書き方をマスターしよう事例を展開しながら学ぶ「本当に役立つ図」を書くためのポイント(NCブックス)医学芸術社		
参考書	・古橋 洋子 著、編集：NE実践！看護診断を導く情報収集・アセスメント第4版 学研 ・ドナルド・ファルヴォ著 津田司監訳「上手な患者教育の方法」医学書院 ・ヘルスアセスメント メディカ出版 ・高木永子監修「看護過程に沿った対症看護 第4版」学研 ・岩井郁子・他：系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 ・西崎統監修「看護師のための早引き検査値の読み方事典」ナツメ社・症状別看護過程 照林社		
評価方法	定期試験(100%)		
オフィスアワー	水曜日16:00～17:00 研究室		
準備学習(予習、復習)	<予習> 予定している講義内容部分をテキストで確認する。 <復習> 人間関係論や生涯人間発達学などの人の理解について復習しておくこと。		

授業科目名	緩和ケア論	担当教員名	高木繁子、水木幸子
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修／選択	必修
授業の概要	病気の時期にかかわらず患者の抱える苦痛を全人的苦痛として捉え、看護師の役割を考える。患者の生活を支え、「患者の尊厳」を守る看護の重要性を学ぶ。		
到達目標	1. 自分の死生観を明らかにし、緩和ケアにおける倫理的課題が理解できる。 2. 全人的苦痛およびそれらに対する緩和の方法が理解できる。 3. 患者・家族の心理的過程とケアが理解できる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	緩和ケア概論	緩和ケアとは何か、がん患者が抱える苦痛とQOL	
第2回	緩和ケアの歴史と現状	緩和ケアの歴史と現状	
第3回	チームアプローチ	チームアプローチの必要性	
第4回	意思決定とコミュニケーション	看護師の役割	
第5回	精神的ケア	がんに対する心の反応	
第6回	身体的ケア ①	症状マネジメントモデル、がん性疼痛	
第7回	身体的ケア ②	倦怠感、食思不振、悪心・嘔吐	
第8回	身体的ケア ③	腹水、呼吸困難、胸水、浮腫	
第9回	身体的ケア ④	がん治療に伴う苦痛の緩和	
第10回	身体的ケア ⑤	がん治療に伴う苦痛の緩和	
第11回	社会的ケア	社会的苦痛とアプローチ	
第12回	スピリチュアルケア	スピリチュアルペインとは	
第13回	生命倫理	生命倫理、看護倫理、インフォームドコンセント	
第14回	在宅ケア、終末期ケア	在宅緩和ケア、家族支援	
第15回	まとめ	事例検討、まとめ	
テキスト	宮下光令「ナーシング・グラフィカ成人看護学⑥ 緩和ケア」 メディカ出版		
参考書	恒藤暁・他「系統看護学講座別巻 緩和ケア」 医学書院		
評価方法	課題レポート（10％）、筆記試験（90％）を合わせて総合的に評価する		
オフィスアワー	授業終了後、研究室		
準備学習	<予習>講義予定の内容を熟読して授業に臨む		<復習>その日の授業内容をプリントで確認する

授業科目名	高齢者看護学概論	担当教員名	野田 みや子
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修／選択	必修
授業の概要	高齢者をめぐる政策や行政制度の進行などの社会的背景を踏まえながら、対象である高齢者とはどのような存在かを理解するための視点について学習する。		
到達目標	1高齢者看護学及び高齢者看護について理解する。 2高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 3高齢者は人生が終わるまで発達することを理解する。 4高齢者のQOLとその個別性について理解する。 5高齢者を取り巻く社会問題とその対応について理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	老いを学ぶ入り口	高齢者看護の位置づけ自己の高齢者観を振り返る	
第2回	老いのイメージ	時代とともに変わる高齢者	
第3回	老いるということ／老いを生きること	高齢者とはどのような存在か	
第4回	高齢社会と社会保障	高齢社会の統計的輪郭	
第5回		高齢社会における保健医療福祉の動向高齢社会における権利擁護	
第6回	老年看護の成り立ち	老年看護の目指すものについて	
第7回	高齢者のアセスメント（身体に加齢変化）	高齢者を「全人的」ととらえるとは感覚器器における加齢変化	
第8回		循環器・呼吸器・消化器への加齢変化	
第9回		内分泌・泌尿器・運動器への加齢変化	
第10回	高齢者のアセスメント（よくみられる身体症状）	摂食・嚥下障害	
第11回		栄養障害（低栄養・脱水・浮腫）	
第12回			
第13回		排泄障害（尿失禁・排尿困難・便秘・下痢）	
第14回	高齢者看護における倫理的課題	高齢者虐待の実際と求められる看護	
第15回	高齢者を支える職種と活動の多様性	高齢者を取り巻く職種の多様化と役割の拡大	
テキスト	北川 公子他 「老年看護学(第7版)」 (医学書院)		
参考書	随時プリント配布		
評価方法	受講態度10%、レポート30%、筆記試験60%		
オフィスアワー	水曜5限 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう		復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう

授業科目名	高齢者看護学援助論	担当教員名	野田 みや子
学年	2	開講期	前期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	1 年次前期に学習した高齢者の特徴の理解をベースに、高齢者の特徴をふまえた看護の実践のための具体的な方法論を学習する。		
到達目標	1. 高齢者の特徴を踏まえたケアのポイントを理解する。 2. 高齢者における主な疾患と看護を理解する。 3. 高齢者への生活援助及びその家族の支援を理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	日常生活を支える基本動作と看護ケア	生活機能の観点から考える看護展開の方法	
第2回	活動①	基本動作と環境のアセスメント	
第3回	活動②	転倒予防に対する援助	
第4回	活動③	廃用症候群に対する援助	
第5回	食事①	食事のアセスメント	
第6回	食事②	摂食・嚥下障害に対する援助	
第7回	排泄①	排泄のアセスメント	
第8回	排泄②	排尿障害・排便障害に対する援助	
第9回	清潔①	清潔のアセスメント	
第10回	清潔②	高齢者特有の変調に対する援助	
第11回	睡眠①	睡眠のアセスメント	
第12回	睡眠②	高齢者特有の睡眠の変調に対する援助	
第13回	コミュニケーション①	コミュニケーションのアセスメント	
第14回	コミュニケーション②	コミュニケーション障害に対する援助	
第15回	健康逸脱からの回復を支える看護ケア①	検査治療を受ける高齢者への看護ケア	
第16回	健康逸脱からの回復を支える看護ケア②	手術療法を受ける高齢者への看護ケア	
第17回	健康逸脱からの回復を支える看護ケア③	疾患を持つ高齢者への看護ケア（脳血管疾患）	
第18回	健康逸脱からの回復を支える看護ケア④	疾患を持つ高齢者への看護ケア（循環器疾患）	
第19回	健康逸脱からの回復を支える看護ケア⑤	疾患を持つ高齢者への看護ケア（呼吸器疾患）	
第20回	健康逸脱からの回復を支える看護ケア⑥	疾患を持つ高齢者への看護ケア（運動器疾患）	
第21回	認知機能の障害を持つ高齢者の特徴①	うつ・せん妄の概念および看護ケア	
第22回	認知機能の障害を持つ高齢者の特徴②	認知症の基本構造	
第23回	認知機能の障害を持つ高齢者の特徴③	認知症の中核症状および行動心理症状への対応	
第24回	認知機能の障害を持つ高齢者の特徴④	看護ケアの実際	
第25回	終末期における看護ケア①	高齢者の死をめぐる課題	
第26回	終末期における看護ケア②	終末期における看護の実際	
第27回	保健医療福祉施設における看護①	介護保険施設における高齢者看護	
第28回	保健医療福祉施設における看護②	介護家族への看護	
第29回	高齢者のリスクマネジメント	高齢者と災害看護	
第30回	まとめ	高齢者看護の現状と課題	
テキスト	北川公子 他 「老年看護学(第7版)」 医学書院		
参考書	山田律子編集 「生活機能からみた老年看護過程」 医学書院		
評価方法	定期試験(90%)、課題レポート(10%)を基本として、受講態度を合わせて総合的に評価する		
オフィスアワー	1月曜日14.00-15.00 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習：授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう 復習：資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう		

授業科目名	小児看護学概論	担当教員名	浅井佳士
学年	1	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	胎児から新生児、乳幼児、学童、思春期に至る成長発達について学び、その成長発達が健やかであることを願い看護師としての役割と看護師の支援のあり方について学ぶ。		
到達目標	1. 小児期各期の特徴が理解できる 2. 小児を取り巻く環境の理解ができる 3. 小児のフィジカルアセスメントの理解ができる		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	小児看護とは①	小児とはなにか、小児の保健統計	
第2回	小児看護とは② 小児の発達と成長①	小児医療、小児看護の変遷、成長・発達の原則と発達論	
第3回	小児の発達と成長②	形態的・機能的発達、心理社会的発達、発育・発達の評価	
第4回	小児の栄養	離乳食について、小児期各期の栄養について、食育について	
第5回	乳児期	乳児期の特徴と看護活動	
第6回	幼児期	幼児期の特徴と看護活動	
第7回	学童期	学童期の特徴と看護援助	
第8回	思春期・青年期	思春期・青年期の特徴と看護援助	
第9回	小児を取り巻く社会	小児を取り巻く各種法律、予防接種	
第10回	乳幼児の世話	抱っこ オムツ換え VS の実施の演習	
第11回	乳幼児の世話	遊びの演習	
第12回	まとめ	小児期各期のまとめ、乳幼児の世話について	
第13回	小児看護学実習Ⅰオリエンテーション①	保育所と幼稚園の1日 ビデオ学習	
第14回	小児看護学実習Ⅰオリエンテーション②	事前学習	
第15回	小児看護学実習Ⅰオリエンテーション③	実習概要の説明	
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護技術 メディカ出版		
参考書			
評価方法	筆記試験（80％）、レポート・授業参加状況（20％）		
オフィスアワー	火曜日 16：20～17：00 研究室		
準備学習 （予習、復習）	＜予習＞ 授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう。また身近にいる子どもには関心を持って見ておきましょう。		＜復習＞ 資料、テキストをもとに振り返りまとめをしておきましょう。特に発達段階についてはノートに提出して覚えるようにしましょう。

授業科目名	小児看護学援助論	担当教員名	浅井 佳士
学年	2年次	開講期	前期
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康障害を持つ小児とその家族には、身体的・心理的・社会的な諸問題が発生している。本講義では、健康障害を持つ小児と家族の問題の理解と対処方法を考え、次年度の臨地実習に活かせることを目的としている。		
到達目標	1) 病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護について理解する。 2) 小児期に特有の健康障害を病期別にとらえ、各病期にある子どもとその家族への看護の特徴について理解する。 3) 健康障害をもつ子どもとその家族に対して紙上で看護過程を展開し、看護を行うときの考え方・手順を理解するとともに、クリティカル・シンキングの能力を育む。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響	
第2回	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	入院・外来・在宅療養中の子どもと家族の看護	
第3回	子どもにおける疾病の経過と看護①	慢性期、急性期にある子どもと家族の看護	
第4回	子どもにおける疾病の経過と看護①	周手術期、終末期にある子どもと家族の看護	
第5回	子どものアセスメント①	アセスメントに必要な技術	
第6回	子どものアセスメント②	身体的アセスメント	
第7回	症状を示す子どもの看護①	痛み、呼吸困難、ショック、意識障害、痙攣	
第8回	症状を示す子どもの看護②	発熱、嘔吐、下痢、脱水、出血、貧血、発疹	
第9回	検査・処置を受ける子どもの看護①	与薬、輸液管理、抑制、検体採取、電法	
第10回	検査・処置を受ける子どもの看護②	清潔、経管栄養、排泄、呼吸緩和、救命処置	
第11回	障害のある子どもと家族の看護	障害の捉え方、障害のある子どもと家族の特徴	
第12回	子どもの虐待と看護	子どもの虐待とは、求められる看護	
第13回	染色体異常・先天異常と看護	常染色体、生染色体異常の看護	
第14回	新生児の看護・代謝性疾患	低出生体重児、1型糖尿病の看護、	
第15回	免疫・アレルギー・リュウマチ疾患と看護	アレルギー性疾、リュウマチ性疾患の看護	
第16回	感染症と看護①	ウイルス感染症、細菌感染症の看護	
第17回	感染症と看護①	感染症をもつ子どもの看護	
第18回	呼吸器疾患・循環器疾患と看護	気管支炎、先天・後天性心疾患、川崎病の看護	
第19回	消化器疾患と看護	胃・十二指腸、小腸・大腸の疾患の看護	
第20回	血液疾患・悪性新生物と看護	出血性疾患、白血病の看護	
第21回	腎泌尿器・神経疾患と看護	腎不全、二分脊椎、水頭症、脳性麻痺の看護	
第22回	運動器・皮膚・耳鼻咽喉疾患と看護	骨折・脱臼、アトピー性皮膚炎、中耳炎の看護	
第23回	精神疾患・事故外傷と看護	発達障害、子どもの事故と外傷の看護	
第24回	看護過程	情報整理・アセスメント	
第25回	看護過程	アセスメント・問題点の抽出	
第26回	看護過程	関連図	
第27回	看護過程	目標設定	
第28回	看護過程	事例発表	
第29回	まとめ①	小児看護学援助論についてのまとめ①	
第30回	まとめ②	小児看護学援助論についてのまとめ②	
テキスト	奈良間美保他著『系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論』医学書院 奈良間美保他著『系統看護学講座 小児臨床看護各論』医学書院		
参考書	必要に応じ、講義中に紹介する		
評価方法	筆記試験（80％） レポート及び授業態度（20％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 1.教科書に目を通し概要を把握する 2.事前課題がある時は自己学習して講義に望む <復習> 1.配布資料を見直し疑問点を確認する 2.講義の内容で疑問点を確認する		

授業科目名	母性看護学概論	担当教員名	石田 美知
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	母性看護の対象の特徴を理解し、女性のライフサイクルにおける健康問題とその看護について学ぶ。母性看護に関わる倫理的問題や保健統計、現代社会で起きている母性に関わる問題を理解することで、母性看護の課題や役割を考える。		
到達目標	1. 母性看護の対象の身体的・心理社会的特徴を理解する。 2. 女性のライフサイクルにおける健康問題とその看護について理解する。 3. 母性看護と関係が深い生殖に関する倫理問題について考える。 4. 母性保護に関する法律や母子保健統計についての動向を理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	母性の概念	対象の理解、リプロダクティブヘルス／ライツ、ヘルスプロモーション	
第2回	性と生殖	性と生殖（セクシュアリティ、性分化のメカニズム）	
第3回	生命倫理と看護倫理①	母性看護における倫理的課題と役割行動①	
第4回	生命倫理と看護倫理②	母性看護における倫理的課題と役割行動②	
第5回	社会の変遷と動向、母性に関する社会組織と法律①	歴史的変遷、保健統計から見た動向、健康増進のための支援、看護者の法的役割①	
第6回	社会の変遷と動向、母性に関する社会組織と法律②	歴史的変遷、保健統計から見た動向、健康増進のための支援、看護者の法的役割②	
第7回	母性看護に必要な看護技術①	看護過程の理解、対象理解、アセスメント、看護実践①	
第8回	母性看護に必要な看護技術②	看護過程の理解、対象理解、アセスメント、看護実践②	
第9回	思春期の特徴と看護	思春期の特徴と健康問題、看護	
第10回	成熟期の特徴と看護	成熟期の特徴と健康問題、看護	
第11回	更年期の特徴と看護	更年期の特徴と健康問題、看護	
第12回	老年期の特徴と看護	老年期の特徴と健康問題、看護	
第13回	リプロダクティブヘルス／ライツ	性感染症、人工妊娠中絶、喫煙に関する問題と看護等	
第14回	まとめ①	母性観についてのグループワーク	
第15回	まとめ②	発表、レポート	
テキスト	母性看護学概論 母性看護学 1（医学書院）		
参考書	随時紹介		
評価方法	筆記試験70％、GW参加態度20％、レポート10％		
オフィスアワー	月曜日16：10～17：00 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習；授業内容をもとに教科書をよんでおきます		復習；資料、教科書をもとに振り返りを行います

授業科目名	母性看護学援助論	担当教員名	石田 美知
学年	2	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	母性機能が最も発揮される妊娠・分娩・産褥期にある女性とその女性を取り巻く新生児および家族に対し、身体的、心理的、社会的な立場から、対象に必要な看護について理解する。		
到達目標	1. 対象のマタニティサイクル各期における特徴が理解できる 2. 分娩の経過を理解し、産婦・胎児および家族に対する看護について考えることができる 3. 産褥期に起こる女性の身体的、心理的、社会的変化を理解し、必要な看護について考えることができる 4. 新生児のヘルスアセスメントの方法を理解し、新生児看護の意義について考えることができる		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	母性の発揮を促す看護① 第1章A/B	出生前診断	
第2回	母性の発揮を促す看護① 第1章C	不妊治療と看護	
第3回	妊娠期の看護① 第2章A/B	妊婦の身体的・心理的・社会的特性	
第4回	妊娠期の看護② 第2章C	妊婦と胎児のアセスメント	
第5回	妊娠期の看護③ 第2章D	妊婦と家族の看護	
第6回	妊娠期の看護過程	妊婦の事例による看護過程の展開	
第7回	分娩期の看護① 第3章A/B	分娩の要素と経過	
第8回	分娩期の看護② 第3章C/D	産婦・胎児・家族のアセスメントと看護	
第9回	分娩期の看護③ 第3章E	分娩期の看護	
第10回	産褥期の看護① 第5章A	産褥経過について	
第11回	産褥期の看護② 第5章B	褥婦のアセスメント	
第12回	産褥期の看護③ 第5章C/D	褥婦と家族の看護	
第13回	産褥期の看護過程	褥婦の事例による看護過程の展開	
第14回	妊娠期/産褥期の小テスト	小テスト後、解答および解説	
第15回	新生児の看護① 第4章A	新生児の生理	
第16回	新生児の看護② 第4章B	新生児のアセスメント	
第17回	新生児の看護③ 第4章C	新生児の看護	
第18回	新生児期の看護過程	新生児の事例による看護過程の展開	
第19回	妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常の看護① 第6章A	妊娠および分娩の異常と看護	
第20回	妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常の看護② 第6章B	妊娠および分娩の異常と看護	
第21回	妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常の看護③ 第6章C	産褥および新生児期の異常の看護	
第22回	妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常の看護④ 第6章D	産褥および新生児期の異常の看護	
第23回	新生児期/異常の看護の小テスト	小テスト後、解答および解説	
第24回	沐浴デモンストレーション	児の安全・安楽に留意した沐浴の方法を見学する	
第25回	沐浴練習/演習課題	児の安全・安楽に留意した沐浴方法で演習を行う	
第26回	沐浴練習/演習課題	児の安全・安楽に留意した沐浴方法で演習を行う	
第27回	妊婦・褥婦・新生児の観察および援助技術の演習	レオボルド触診法、腹囲・子宮底の計測、授乳方法、新生児の身体計測およびバイタルサインの観察	
第28回	妊婦・褥婦・新生児の観察および援助技術の演習	レオボルド触診法、腹囲・子宮底の計測、授乳方法、新生児の身体計測およびバイタルサインの観察	
第29回	妊婦・褥婦・新生児の観察および援助技術の演習	レオボルド触診法、腹囲・子宮底の計測、授乳方法、新生児の身体計測およびバイタルサインの観察	
第30回	妊婦・褥婦・新生児の観察および援助技術の演習	レオボルド触診法、腹囲・子宮底の計測、授乳方法、新生児の身体計測およびバイタルサインの観察	
テキスト	母性看護各論 母性看護学2（医学書院）		
参考書	母性看護技術（メディカ出版） 写真でわかる母性看護技術（インターメディカ）		
評価方法	定期試験、提出物		
オフィスアワー	月曜日 16～17時 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習：開講までにマタニティー向けの本を読んでおくことと学習および実習の助けになると考えます。 授業内容をもとに教科書を読んでおきます。		
	復習：資料、教科書をもとに振り返りを行います。		

授業科目名	精神看護学概論	担当教員名	清水 きよ子
学年	2年次	開講期	前期
単位数	1単位	必修/選択	必須
授業の概要	精神看護の基本的な概念・理論、精神保健・医療・福祉の概念や精神保健福祉の歴史や法制度について学び、こころの健康に障害をもつ人を総合的に理解する。		
到達目標	1. こころの健康概念について説明することができる。 2. 精神看護における人権擁護と倫理について述べるすることができる。 3. 精神保健福祉の歴史や法制度を通し、精神看護における現状と課題を説明することができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	精神看護の考え方	精神看護学とは 精神看護学における看護師の役割	
第2回	こころのとらえ方①	こころの健康とは 発達と心の健康	
第3回	こころのとらえ方②	精神力動理論 防衛機制	
第4回	発達理論	発達理論 精神の発達と疾患	
第5回	ストレスと危機理論	ストレスとは 危機理論	
第6回	ストレスと健康の危機	ライフイベントとストレス ストレスと生活に及ぼす影響	
第7回	現在社会とこころ	自殺 ひきこもり 不登校 自傷行為	
第8回	家族について	家族の役割 家族のストレス	
第9回	薬物療法と看護	精神科における薬物療法と看護	
第10回	精神障害と法律①	世界と日本の精神障害の歴史	
第11回	精神障害と法律②	精神障害と法制度	
第12回	精神症状論と状態像①	精神症状	
第13回	精神症状論と状態像②	精神症状	
第14回	精神症状論と状態像③	精神症状	
第15回	精神療法	個人療法 集団精神療法	
テキスト	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①」医学書院		
参考書	「精神看護学Ⅰ 精神保健学」NOUVELLE HIROKAWA		
評価方法	レポート (30%) 定期試験 (70%)		
オフィスアワー	授業終了後30分 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習：講義で習熟状況の確認あるいは小テストを実施するため、教科書あるいは講義資料を予習する		復習：講義で習熟状況の確認あるいは小テストを実施するため、教科書あるいは講義資料を復習する。

授業科目名	精神看護学援助論	担当教員名	清水 きよ子
学年	2年次	開講期	後期
単位数	2単位	必修/選択	必須
授業の概要	こころの健康に障害を持つ人々が自立していくための看護援助において用いる看護理論・方法論について学習する。		
到達目標	1. 精神疾患を持つ対象者への基本的な看護の実際を知ることができる。 2. 精神疾患を持ちながら生活する人とその家族への理解を深め、必要な援助を考えることができる。		
授業計画			
講義テーマ			
第1回	ケアの人間関係①	患者理解と自己理解（相手を知ることと自分を知ること）	
第2回	ケアの人間関係②	ケアの方法（寄り添う看護とコミュニケーションの技法）	
第3回	プロセスレコード①	関係をアセスメントする・プロセスレコードとは	
第4回	プロセスレコード②	プロセスレコードの書き方・考察の視点	
第5回	患者－看護師関係①	患者－看護師関係でおこること（共感・拒絶・攻撃）	
第6回	患者－看護師関係②	患者－看護師間で生じる感情（転移と逆転移）	
第7回	チームのダイナミクス	グループダイナミクスとカンファレンスの活用	
第8回	入院治療と看護①（岐阜病院講師）	患者にとっての入院治療の意味と目的	
第9回	入院治療と看護②（岐阜病院講師）	精神科病棟の特徴と治療的環境	
第10回	入院治療と看護③（岐阜病院講師）	患者の安全を守ることと行動制限	
第11回	入院治療と看護④（岐阜病院講師）	緊急事態への対処方法（自殺、暴力、無断離院）	
第12回	精神科における身体のケア	こころと身体の関係	
第13回	抗精神病薬の有害反応と看護	錐体外路症状、悪性症候群、麻痺性イレウス、水中毒	
第14回	身体合併症とその看護	肥満、糖尿病、肺炎、骨折、窒息	
第15回	睡眠障害とその看護	睡眠障害の分類とアセスメント	
第16回	心的外傷	心的外傷について、その回復過程	
第17回	地域における精神看護	地域で生活するために必要な準備と心得	
第18回	回復の過程と退院支援	回復のビジョンと社会復帰	
第19回	地域で精神障害者を支援する方法①	医療（ACT、デイケア、訪問看護）と生活支援	
第20回	地域で精神障害者を支援する方法②	セルフヘルプグループ、家族会、クラブハウス、一般就労	
第21回	精神科におけるリハビリテーション	リハビリテーション（作業療法、生活技能訓練SST等）	
第22回	精神科以外での精神看護	身体疾患と精神看護	
第23回	看護カウンセリング	終末期の患者と家族を支えるケア	
第24回	プロセスレコード③	プロセスレコードの書き方・考察の視点	
第25回	患者のアセスメント①（外部講師）	アセスメントの内容と目的	
第26回	患者のアセスメント②（外部講師）	オレム・アンダーウッドセルフケア理論、アセスメント事例紹介	
第27回	患者のアセスメント③（外部講師）	精神科アセスメントの実施	
第28回	患者のアセスメント④（外部講師）	生活状況アセスメントの実施	
第29回	リエゾン精神看護	コンサルテーションとは、リエゾナースの活動	
第30回	看護師のメンタルヘルス	看護師の不安と防衛、看護師の感情ワーク	
テキスト	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②」医学書院		
参考書	「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」NOUVELLE HIROKAWA		
評価方法	レポート(30%) 定期試験(70%)		
オフィスアワー	授業終了後30分 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習：講義で習熟状況の確認あるいは小テストを実施するため、教科書あるいは講義資料を予習する 復習：講義で習熟状況の確認あるいは小テストを実施するため、教科書あるいは講義資料を復習する。		

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ	担当教員名	高木 繁子他看護学科全教員
学年	3	開講期	通年
単位数	3	必修/選択	必修
実習の概要	疾病の急性期にある対象とその家族を理解し、より健康な状態へと回復していくために必要な看護実践能力を修得する。		
到達目標	1. 急性期にある対象の特性とその家族を理解する。 2. 急性期の侵襲的な治療を理解し、看護の役割を理解できる。 3. 急性期の状況変化を捉え、対象の生命維持、健康回復、日常生活への復帰などについて、その家族の支援を踏まえた看護を実践する。 4. 急性期における継続看護とチーム医療の実際について説明できる。 5. 看護者としてふさわしい態度で実習でき、自己を成長させるための課題を見いだす。		
実習計画			
方法	1. 病態変化が速い周手術期の対象を受け持ち、既習の実践方法と技術を用いて、看護過程を展開する。 2. 対象の個別な情報を共有し看護の必要性を判断し、対象の状況に合わせて看護を実施する。 3. 自己の看護実践を記録し、評価する。 4. グループカンファレンスで、各々の看護実践を共有する。 5. 実習目標及び自己の課題の達成状況を自己評価する。 6. 自己評価と教員・指導者の評価とつきあわせて、次の学習課題を明らかにする。		
実習内容	臨地実習「成人看護学実習ⅠⅡ 実習要項」に示す		
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論・臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 呼吸器、循環器、消化器、脳・神経、腎・泌尿器 運動器、医学書院		
参考書	ヘルスアセスメント、メディカ出版 NANDA-I 看護診断、医学書院		
評価方法	実習出席時間数、実習記録、実習態度、カンファレンス等の参加状況、事前学習について評価表に基づき、実習の達成度を評価する。		
オフィスアワー	水曜日14：00～15：00 各研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；成人看護学概論の授業の振り返りと、課題学習のまとめをしておきましょう	復習；自己の学習強化を図る内容を重点的に振り返り、文章にまとめておきましょう	

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員名	高木 繁子他看護学科全教員
学年	3	開講期	通年
単位数	3	必修/選択	必修
実習の概要	ライフサイクルにおける成人期を生きる対象者とその家族の特徴を理解し、人々の健康維持・健康回復、安らかな死への援助に必要な看護実践能力を修得する。		
到達目標	1. 慢性疾患をもつ対象者とその家族を把握する。 2. 慢性疾患の治療の特徴を理解し、看護の役割を知る。 3. 慢性期疾患を病む対象者の状況変化を捉え、専門知識と技術を活用できる。 4. 慢性期（回復期・終末期）における継続看護とチーム医療の実践について記述できる。 5. 看護者としてのふさわしい態度で実習ができる。		
実習計画			
方法	1. 慢性期、回復期、ターミナル期にある対象を受け持ち、学習した看護理論・援助方法を用いて、看護過程の展開を行う。 2. 対象の個別な情報を共有し看護の必要性を判断し、対象の状況に合わせて看護を実施する。 3. 自己の看護実践を記録し、評価する。 4. グループカンファレンスで、各々の看護実践を共有する。 5. 実習目標及び自己の課題の達成状況を自己評価する。 6. 自己評価と教員・指導者の評価とつきあわせて、次の学習課題を明らかにする。		
実習内容	臨地実習「成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に示す。		
テキスト	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ、緩和ケアで使用したテキスト・資料を活用する。		
参考書	NANDA-1 看護診断 医学書院 ヘルスアセスメント メディカ出版		
評価方法	実習出席時間数、実習内容、実習記録、実習レポート、実習態度、オリエンテーション・カンファレンス等への参加状況、事前学習その他実習に関わる全般を基に成人看護学実習Ⅱ評価表に照らして総合的に評価する。		
オフィスアワー	水曜日14：00～15：00 各研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；成人看護学概論の授業の振り返りと、課題学習のまとめをしておきましょう	復習；自己の学習強化を図る内容を重点的に振り返り、文章にまとめておきましょう	

授業科目名	高齢者看護学実習Ⅰ	担当教員名	野田 みや子、久保田 里奈、 他看護学科教員
学年	1	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	必修
実習の概要	高齢者の老化の特徴および個性を知り、高齢者にとっての望ましい療養環境について考えるための実習である。2年次の講義である「高齢者看護学援助論」に対する動機づけのための実習としても位置付けられている。		
到達目標	1. 高齢者の老化の特徴について理解できる。 2. 高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションについて考えることができる。 3. 高齢者にとって望ましい療養環境について考えることができる。		
実習計画			
実習内容	実習時間：9：00～16：00 1週目（月曜日～金曜日）学内実習 ・高齢者体験 ・日常生活援助技術に関する技術練習 ・コミュニケーション演習 ・レクリエーションの企画・運営に関する演習 2週目（月曜日～木曜日）施設実習 ・高齢者看護学実習Ⅰの実施水準に基づき、施設利用者への日常生活援助を行う 2週目（金曜日） ・合同カンファレンスおよび課題レポートの作成		
テキスト	系統看護学講座「老年看護学」医学書院		
参考書	亀井智子編「根拠と事故防止からみた老年看護技術」医学書院		
評価方法	評価表に基づき、実習内容、実習記録などについて、全般的に評価。		
オフィスアワー	月曜日14：00～15：00 各研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；高齢者看護学概論の授業の振り返りと、課題学習のまとめをしておきましょう	復習；自己の学習強化を図る内容を重点的に振り返り、文章にまとめておきましょう	

授業科目名	高齢者看護学実習Ⅱ	担当教員名	野田 みや子、久保田 里奈
学年	3	開講期	通年
単位数	2	必修/選択	必修
実習の概要	高齢者を疾病や障害を有している生活者として幅広くとらえ、生活機能の視点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶための実習である。		
到達目標	1. 疾病や障害を有している生活者としての高齢者を理解する。 2. 疾病や障害が高齢者の生活に及ぼす影響について考えることができる。 3. 高齢者のもてる力を活用しながら、生活を整えるための援助を実施できる。		
実習計画			
実習方法	帰校日：1週目水曜日、2週目金曜日 実習時間：9：00～16：00		
実習内容	・患者受け持ち制：原則として患者一名を受け持ち、看護過程を展開する ・対象理解の方法として、生活行動モデル、ヘンダーソンの看護理論に基づいた看護過程、NANDAの中からアセスメントツールを選び、日常生活に関連した項目について、看護過程の展開を行う。 ・アセスメントに基づき、看護問題の抽出、目標の設定、援助計画の立案し、実施した看護援助に対する実施・評価を行う。 ・1週目金曜日に、受け持ち患者に対する援助計画の発表を行う。 ・2週目金曜日（最終日）には合同カンファレンスおよび課題レポートの作成を行う。		
テキスト	系統看護学講座「老年看護学」医学書院		
参考書	山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」医学書院		
評価方法	評価表に基づき、実習内容、実習記録などについて、全般的に評価。		
オフィスアワー	月曜日14：00～15：00 各研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；高齢者看護学概論・援助論の授業の振り返りと、課題学習のまとめをしておきましょう	復習；自己の学習強化を図る内容を重点的に振り返り、文章にまとめておきましょう	

実習科目名	小児看護学実習Ⅰ	担当教員名	浅井 佳士、則竹 翔
学年	1	開講期	後期（集中）
単位数	1	必修/選択	必修
実習の概要	小児の健全な成長発達及び人格形成をめざす保育所・保育園・幼稚園における実習を通して、各年齢・発達段階における子どもの理解を深める。		
到達目標	1. 乳幼児の身体的・心理的・社会的な成長・発達の状況にあわせた保育が行われていることを体験する。 2. 子どもとの有効なコミュニケーションを工夫し、子どもと楽しむことを体験する。 3. 乳幼児との関係を通して自己を啓発し人間や生活に対する感受性を磨く。		
実習方法	実習期間は1週間。岐阜市内の保育所、保育園、幼稚園においてクラスに入り、クラス担当の保育士、教諭の指導のもと乳幼児期の成長発達について学習する。 2日目から4日目 施設実習にて実施。実施クラスは、施設によって異なり、3日間同じクラスまたは、日替わりで行う。 木曜日には、各施設において反省会を行う。 1日目 学内にて、事前学習 5日目学内にて実習のまとめおよび発表会を行う。		
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院		
参考書			
評価方法	実習内容、実習時間数、実習記録、実習態度、オリエンテーション及びカンファレンスへの参加態度など総合的に評価表をもとに評価する		
オフィスアワー	月曜日14：00～15：00 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> テキストをもとに、小児の発達、乳幼児期の日常生活の援助、起こりやすい事故、幼稚園・保育園の役割、教諭・保母さんの役割を理解しておきましょう。 <復習> 資料、テキストをもとに学んだ事・今後の課題を振り返りまとめをしておきましょう。		

実習科目名	小児看護学実習Ⅱ	担当教員名	浅井 佳士、則竹 翔
学年	3	開講期	通年
単位数	1	必修/選択	必修
実習の概要	病児とその家族に生じやすい問題について理解し、問題を解決するために看護の実際を理解する。		
到達目標	1. 受け持ち事例の疾患・発達・生活面を中心に全体像を把握し、病児及び家族に応じた看護過程の展開ができる。 2. 受け持ち患児および外来受診児に対する適切な小児看護技術を理解し、必要な看護援助の実施ができる。 3. 児及び家族への有効な接近方法を選択あるいは発見し、適切な人間関係を展開する。 4. 効率的な学習態度を身につけ、自己成長を意識する。		
実習方法	実習期間は1週間。揖斐厚生病院および一宮西病院の小児病棟・外来にて実施。実習期間中1～2名の病児を受け持ち、指導者および教員の指導のもと、病児とその家族への看護援助を行いながら小児看護を学ぶ。 実習モデル例 1日目 病棟オリエンテーション、受け持ち患児の決定、 2～5日目 受け持ち患児の看護計画の立案・実施・評価 最終日 指導者および教員と反省会		
評価方法	実習内容、実習出席時間数、実習記録、実習態度、オリエンテーション及びカンファレンスへの参加態度など総合的に評価表をもとに評価する		
オフィスアワー	月曜日14：00～15：00 研究室		
準備学習 (予習、復習)	<予習> テキストをもとに、小児の発達、小児看護技術、コミュニケーション、小児期に起こりやすい疾病の成り立ち・必要な看護、入院が小児とその家族に与える影響についてなど、事前学習をしておきましょう。	<復習> 資料、テキストをもとに学んだ事・今後の課題を振り返りまとめをしておきましょう。	

授業科目名	母性看護学実習	担当教員名	石田 美知、森 ゆか子
学年	3	開講期	通年
単位数	2	必修/選択	必修
実習の概要	産科施設において妊産褥婦および新生児を受け持ち、看護過程の展開を通して対象とその家族に対する理解を深めるとともにセルフケア能力を維持増進する看護援助を習得する。		
到達目標	1. 妊産褥婦および新生児の身体・心理・社会面における変化と特徴を理解し、看護の必要性について考えることができる。 2. 妊娠期に行われる保健教育の重要性について述べるができる。 3. 妊婦健康診査の実際を理解し、必要な援助を述べるができる。 4. 産婦の心理状態や苦痛に共感し、その援助に参加することができる。 5. 母子・父子の早期接触の重要性を理解し、必要な援助について考えることができる。		
実習計画			
(1) 妊娠期 受け持ち妊婦を選定し、看護計画を立案する。妊婦健診、医師の診察および助産師による保健指導を見学する。			
(2) 分娩期 ①受け持ち産婦の分娩経過の把握、分娩監視装置による胎児の状態の把握を行う。 ②受け持ち産婦に対し、助産師とともに分娩を促進し、産痛を緩和する援助を提供する。			
(3) 産褥期 ①受け持ち褥婦に対してバイタルサイン測定、進行性変化、退行性変化の観察を行う。 ②上記観察から褥婦の健康を保持、増進するために必要と考えられる看護を計画しその援助を実施する。 ③各種指導（母児同室指導、沐浴指導、退院指導）および授乳見学を通して母児への援助について学ぶ。 ④授乳指導を見学し、母児の愛着形成を促す援助と乳房ケアについて学ぶ。			
(4) 新生児期 ①受け持ち新生児のバイタルサイン測定、沐浴、更衣、おむつ交換を実施し、新生児への援助を実践する。 ②新生児健診、各種検査（血清ビリルビン、聴力、先天代謝異常検査）を見学し新生児への援助について学ぶ。			
＊詳細は実習要項を参照してください。			
テキスト	母性看護学各論（医学書院）、配布資料		
参考書	周産期ナースング（ヌーヴェルヒロカワ）、写真でわかる母性看護技術（インターメディカ）		
評価方法	学内実習および病院実習の実習態度、実習記録の内容を評価表に基づき総合評価する		
オフィスアワー	月曜日 16～17時 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習；援助論の授業の振り返りを行いましょう	復習；自己の学習強化を図る内容を重点的に振り返りを行います	

授業科目名	精神看護学実習	担当教員名	安田 仁代
学年	3年次	開講期	通年
単位数・時間数	2単位	必修/選択	必須
実習の概要	こころに健康障害をもつ人を総合的に理解し、障害によって阻害されている日常生活の自立を促進・維持するための援助を通して看護の役割について学習し、精神看護の基礎的実践力を養う。		
到達目標	1. こころに健康障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病院（病棟）の構造と特徴について理解できる。 2. セルフケア看護理論を活用し、看護過程の展開について学ぶ。 3. 精神医学的症候に対する治療、看護について学ぶ。 4. こころの健康回復への援助を通して、自己洞察する能力を養う。 5. 社会復帰への援助の必要性を知り、病院における社会復帰の取り組みについて理解できる。		
実習計画			
1. オリエンテーション ①所定日に実施する学内オリエンテーションに参加する。 ②所定日に実施する病院オリエンテーションに参加する。			
2. 学内実習 ①知識確認テストを行う。 ②到達目標を達成するために事前学習を活用しながら実習目標を設定する。			
3. 病棟実習 ①患者1名を受け持ち、看護過程の展開を行う。ただし、症状の変化（悪化）や、外泊等で患者の受け持ちができない時は、指導者と調整する。 ②プロセスレコードを活用し、自己洞察をするとともに、コミュニケーションについて指導を受ける。 ③精神科リハビリテーションについて、SSTやOTから話を聞く。 ④到達目標を達成するために事前学習を活用しながら実習目標を設定する。 ⑤毎日、行動目標・計画を発表する。担当教員・指導者から助言をもらう。 ⑥受け持ち患者だけでなく、入院患者とのかかわりを通して、精神看護について学習する。			
4. カンファレンスおよび反省会 ①ショートカンファレンス 原則として、実習終了時にその日の実習を振り返り、翌日の実習にむけて自己の課題を明確にする。 ②ケースカンファレンス 受け持ち患者の看護過程を展開し、自己の実践を評価する。 ③反省会 精神疾患患者の治療・看護、患者をとりまく環境などを通して、精神看護学実習における学びを振り返る。			
5. 学内実習 ①「精神看護学実習で学んだこと」、「受持ち患者に、どのような退院支援をしたら退院できるか」についてレポートを作成する。			
テキスト	系統看護学講座「精神看護学の基礎」「精神看護の展開」医学書院		
参考書	長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード：日総研		
評価方法	評価表に基づき、実習態度、実習内容、実習記録などについて全般的に評価		
オフィスアワー	精神看護学実習帰校日9時から16時 研究室		
準備学習（予習、復習）	予習；事例の看護過程の展開およびプロセスレコードを通して自己理解を深める	復習；事例の看護過程の展開およびプロセスレコードを通して自己理解を深める	

授業科目名	地域看護学概論		担当教員名	椎名 祐輝
学年	2		開講期	前期
単位数	1		必修/選択	必修
授業の概要	地域看護活動の概要と、活動方法や実際を知ることにより、在宅ケアに繋げる。			
到達目標	保健・医療・福祉の中で、看護の果たす役割についての理解を深める。			
授業計画				
講義テーマ			授業内容	
第1回	地域看護活動を促す理念		人権の尊重と権利、ノーマライゼーション、地域看護の倫理、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション	
第2回	地域看護の歴史		訪問看護、公衆衛生看護、基礎教育の中に在宅看護論	
第3回	地域の人々の健康と保健活動		生活環境、少子・高齢化・家族形態の変化と健康問題	
第4回	地域の保健・医療・福祉と法律		すべての基になる憲法と法律の意義	
第5回	地域看護を取巻く保健・医療・福祉施策		健康づくり・母子・生活習慣病・高齢者対策・介護保険制度等	
第6回	さまざまな機関、職種との連携と調整		保健所、保健センター、訪問看護ステーション、福祉サービス機関	
第7回	家族関係調整・看護制度等・地域看護管理		家族支援、看護に関連する行政組織、地域看護管理の実際	
第8回	地域看護活動の目的		公衆衛生看護・在宅看護・継続看護活動、看護職間の連携	
第9回	地域看護活動の対象と場		すべての発達段階、健康レベル、個人と家族、集団、地域住民全体と場	
第10回	地域看護活動の方法①	レポート	地域診断（コミュニティ・アセスメント）、計画・実施・評価	
第11回	地域看護活動の方法②		住民個人・集団への援助方法	
第12回	地域看護活動の実際①		都道府県・市町村における地域看護活動	
第13回	地域看護活動の実際②		病院における地域看護活動「退院支援」	
第14回	地域看護活動の実際③		職域・学校における地域看護活動	
第15回	地域看護活動の実際④	レポート	地域の看護活動（地域包括支援センター・訪問看護ステーション）	
テキスト	看護学生スタディガイド2019 照林社 2018年3月			
参考書	これで完璧！看護国試過去問完全攻略集2018 さわ研究所			
評価方法	筆記試験100%			
オフィスアワー	随時 研究室			
準備学習 （予習、復習）	<予習> テキストの熟読玩味。			<復習> 講義した内容の国家試験問題を学習する。

授業科目名	地域看護学援助論 I	担当教員名	椎名 祐輝、則竹 翔
学年	2	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	必修
授業の概要	在宅看護の歴史や社会的背景を踏まえ、在宅看護の理念や療養者とその家族を含めた援助の視点を演習を含めて理解することを目的とする。		
到達目標	次の1～6を理解する。 1. 在宅看護の理念・歴史 2. 在宅看護の特徴 3. 在宅看護の展開 4. 在宅看護の実際 5. 症状・状態別の看護 6. 在宅ターミナルケアの理解		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	地域ケア・在宅ケアにおける在宅看護の位置づけ	公衆衛生看護・地域看護・在宅看護の理念と位置づけ	
第2回	在宅看護にかかわる現状、在宅療養者の権利保障	我が国の高齢社会、家族等の問題、高齢者福祉、権利保障	
第3回	在宅における看護活動	1 訪問看護をする場 2 訪問看護師の役割と心構え・対象 3 訪問の内容	
第4回	在宅看護の特徴	医療施設看護との比較、在宅看護成立の条件	
第5回	訪問看護の実践①	訪問看護実施前の準備、訪問の準備、実施時実施後を図式化	
第6回	訪問看護の実践②	訪問看護の服装、訪問カバンの内容とチェック	
第7回	訪問看護の実践③ 事例	訪問看護の実践まとめ、評価	
第8回	家庭における看護技術① グループワーク	1 手づくりケリーパットを作成	
第9回	家庭における看護技術② グループワーク	2 手づくりケリーパッドを使った洗髪を演習	
第10回	家庭における看護技術③レポート	展示・発表、評価	
第11回	在宅療養者と家族	家族とは・家族の機能、現代の日本の家族	
第12回	家族機能アセスメントレポート	在宅における家族機能をアセスメントの実際を理解。事例をレポートにまとめる。	
第13回	在宅看護の展開	在宅療養の場を理解し、療養者・家族を支援する視点を理解する。 （看護診断・セルフケア能力）	
第14回	在宅看護と看護過程	在宅における情報収集・看護計画立案、実践、評価までの過程を理解する。	
第15回	関係職種と社会資源	地域で療養する人々を支える主な職種とその役割、技術、経済的側面を理解する。	
第16回	在宅看護の実際① ロールプレイング	在宅看護援助の基本：面接技術・コミュニケーション技術について理解する。	
第17回	在宅看護の実際②	在宅看護における環境（住居）・食生活・嚥下困難について理解する。	
第18回	在宅看護の実際③	在宅看護における排泄・尿失禁・清潔について理解する。	
第19回	在宅看護の実際④	在宅看護における移動と活動・転倒防止・服薬管理について理解する。	
第20回	在宅看護の実際⑤	在宅看護におけるリハビリテーションの意義について理解する。	
第21回	在宅看護の実際⑥	在宅リハビリテーションの生活基本動作演習から、技術を習得する。	
第22回	在宅看護の実際⑦	在宅で使う介助用品をカタログで調べ、事例について検討する。	
第23回	在宅看護の実際⑧介護用品調査書 レポート	必要な介護用品導入の提案を検討し、まとめる。	
第24回	症状、状態別の看護①	脳血管疾患患者在宅看護について理解する。	
第25回	症状、状態別の看護②	難病患者（ALS）の在宅看護の援助について、人工呼吸器を含め理解する。	
第26回	症状、状態別の看護③	認知症、感染症、精神障害患者等の在宅看護について理解する。	
第27回	症状、状態別の看護④	ターミナルケアにおける療養者、家族への援助、疼痛コントロールについて理解する。	
第28回	特殊な技術をとまなう在宅看護①	在宅酸素療法（HOT）、吸引、気管切開の管理について理解する。	
第29回	特殊な技術をとまなう在宅看護②	褥創ケア・経管栄養法、について理解する。	
第30回	これからの在宅看護について	在宅看護の課題、在宅看護の将来像についての考えをレポートにまとめる。	
テキスト	在宅看護論－実践をこばに－：NOBELLE/HIROKAWA（第5版） ・在宅看護体験学習ノート：医歯薬出版k.k（副読本）		
参考書	看護過程を使ったヘンダーソン看護の実践 ・これで完璧！看護師国試過去問完全攻略2018 さわ研究所		
評価方法	筆記試験100%		
オフィスアワー	随時 研究室		
備考	第22回には、在宅介護用品について各自で事前に情報収集し、リストを持参すること（カタログ）		
事前学習	該当範囲の教科書を熟読しておくこと	復習	該当範囲に関連する国家試験の過去問に取り組み、講義内容の理解を深めること

授業科目名	地域看護学援助論Ⅱ	担当教員名	椎名 祐輝、則竹 翔
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	演習を通して、在宅における療養者及び家族への援助技術、看護過程について学ぶ		
到達目標	1 演習により、在宅に必要な看護技術の習得ができる 2 事例展開により、療養者・家族に必要な看護計画を立案することができる		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	在宅看護技術の基本	在宅看護の基本を振り返り、初回訪問の重要性を理解する。	
第2回	在宅看護過程の展開①	事例の情報から「訪問記録 1・2」	
第3回	在宅看護過程の展開②	事例の情報から「アセスメント」	
第4回	在宅看護過程の展開③	事例の情報から「利用者の全体像 1」	
第5回	在宅看護過程の展開④	事例の情報から「利用者の全体像 2」	
第6回	アセスメント演習	実習で使用する所定の様式に」もとづいて看護展開する。	
第7回	アセスメント演習	実習で使用する所定の様式に」もとづいて看護展開する。	
第8回	事例①まとめ	事例①看護展開まとめ	
第9回	アセスメント演習	実習で使用する所定の様式に」もとづいて看護展開する。	
第10回	アセスメント演習	実習で使用する所定の様式に」もとづいて看護展開する。	
第11回	事例②まとめ	事例②看護展開まとめ	
第12回	アセスメント演習	実習で使用する所定の様式に」もとづいて看護展開する。	
第13回	アセスメント演習	実習で使用する所定の様式に」もとづいて看護展開する。	
第14回	事例③まとめ	事例3 看護展開まとめ	
第15回	まとめ	まとめ	
テキスト	・在宅看護論－実践をこばに－：NOBELLE/HIROKAWA（第5版） ・在宅看護体験学習ノート：医歯薬出版K.K（副読本）		
参考書	看護過程を使ったヘンダーソン看護の実践		
評価方法	レポート30％、筆記試験70％		
オフィスアワー	随時 研究室		
事前学習	<予習>教科書の該当する範囲を熟読してくること。		<復習>教科書の該当する範囲を熟読してくること。出された課題の内容に取り組むだけでなく、課題の内容から範囲を広げて自分で調べ学習すること。

授業科目名	看護管理論	担当教員名	加藤睦美
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	看護管理の基礎を学び、患者ケア・サービス提供のマネジメントの方法をび統合実習に活かす		
到達目標	1、看護管理とは何かを学ぶ 2、チームの一員としてマネジメントの基本を学ぶ 3、医療安全管理について学ぶ 4、専門職としてキャリアアップについて考える		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	看護管理とは・マネジメントとは	看護とマネジメントの基礎	
第2回	看護ケアのマネジメント①	看護ケアのマネジメントと看護職の機能・患者の権利の尊重	
第3回	看護ケアのマネジメント②	安全管理と他職種との協働	
第4回	看護ケアのマネジメント③	チーム医療と看護業務の実践	
第5回	看護サービスのマネジメント①	組織の管理・運営のためのマネジメント・看護サービス提供	
第6回	看護サービスのマネジメント②	人材・施設・設備環境・物品・情報のマネジメント・災害対策	
第7回	看護職のキャリア開発	看護職の法的責任と新人教育と生涯教育	
第8回	マネジメントに必要な知識と技術	医療の中の協働・リーダーシップとストレスマネジメント	
テキスト	上泉和子ほか著 系統看護学講座 統合分野 看護管理看護の統合と実践① 医学書院		
参考書	随時紹介		
評価方法	筆記試験70% 課題レポート30%		
オフィスアワー	水曜日 16:20-18:20 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；各領域の授業内容をもとに、テキスト・授業の資料を読んでおきましょう	復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう	

授業科目名	災害看護論	担当教員名	森口 信子
学年	2	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	災害を理解し、被害を受けた人々に寄り添い、ナースが役割を発揮できるための知識と方法を学ぶ		
到達目標	1. 災害の特徴、被災者の特徴が解る。 2. 災害看護の基礎知識を理解する。 3. 災害サイクルと災害サイクルに応じた活動を理解する。 4. 被災者のこころのケアを理解する。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	災害看護学をまなぶにあたって	災害の定義、災害の種類、身体的、心理的、社会的被害を考える	
第2回	災害医療の基礎知識	災害サイクルと災害医療、災害情報、災害対応と連携、災害と法	
第3回	災害看護の基礎知識	災害看護の定義、役割、被災者の特徴、災害時要援護者	
第4回	活動現場・災害サイクル別の看護①	急性期・亜急性期の看護活動	
第5回	活動現場・災害サイクル別の看護②	災害と感染防御、トリアージ	
第6回	活動現場・災害サイクル別の看護③	被災者の心のケア、救援者の心のケア	
第7回	急性期・亜急性期の看護活動の実践①	救護所におけるトリアージ演習	
第8回	急性期・亜急性期の看護活動の実践②	救護所におけるトリアージ演習	レポート
テキスト	災害看護・国際看護学（第1版）：医学書院		
参考書	随時紹介		
評価方法	レポート50％、筆記試験50％		
オフィスアワー	講義終了後30分 研究室		
準備学習 (予習、復習)	＜予習＞ 授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう。また災害のニュースなどには関心を持って、見ておきましょう。		＜復習＞ 資料、テキストをもとに振り返りまとめをしておきましょう。

授業科目名	臨床看護実践の実際	担当教員名	野田 みや子他全教員
学年	3	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	必修
授業の概要	実際の臨床場面を想定し、患者のケア計画立案・実施を行う。バイタル測定、計測を行い、優先順位および具体的対応の判断、計画立案が必要となる場면을提示し、アセスメントツールを自己にて選択し、限られた時間内でのケア計画の立案、実施上の時間配分を行う。その後の患者のケア計画の修正について演習を行い、臨床看護への理解を深める。臨地実習における自己洞察をする。		
到達目標	1. 病棟における多重課題を考える。 2. 看護過程の展開ができる。 3. 臨地実習における日常生活の援助技術を計画し実践できる。 4. 臨地実習に必要な態度・マナーが実践できる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	小児看護学	小児に対する看護援助とは、事例紹介	
第2回	小児看護学	看護援助計画	
第3回	成人看護学Ⅰ	急性期 患者のアセスメント 事例と自己学習	
第4回	成人看護学Ⅰ	急性期 患者の事例展開 ヘルスアセスメントの演習	
第5回	成人看護学Ⅱ	慢性期 患者の情報収集とフィジカルアセスメント、ロールプレイング	
第6回	成人看護学Ⅱ	慢性期 看護過程の展開	
第7回	高齢者看護学	高齢者の「生活」の視点からの事例展開（アセスメント）	
第8回	高齢者看護学	高齢者の「生活」の視点からの事例展開（計画立案）	
第9回	母性看護学	褥婦・新生児の観察とアセスメント	
第10回	母性看護学	事例展開・援助技術	
第11回	精神看護学	事例を基にしたアセスメントの展開と援助計画	
第12回	精神看護学	プロセスコードと自己洞察について	
第13回	地域看護学	寝たきり患者の日常生活援助 移乗 入浴介助、車いす移動	
第14回	地域看護学	高齢患者の日常生活援助	
第15回	領域 発表会	領域 事例 発表	
テキスト	随時資料配布		
参考書	随時紹介します。		
評価方法	筆記試験100%（各領域毎に出題し、600点満点とする。この試験に合格していることが臨地実習の水準となる。		
オフィスアワー	講義終了後30分 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；各領域の授業内容をもとに、テキスト・授業の資料を読んでおきましょう	復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう	

授業科目名	安全管理論（演習）		担当教員名	高木 繁子、岩田しずか
学年	3		開講期	前期
単位数	1		必修/選択	必修
授業の概要	本講義では、医療安全、医療事故防止の基礎知識と基本技術・態度の修得を目指すものである。そのため、臨床で起こりやすい医療事故に関して、講義・KYT演習を行った後「患者の安全確保技術（転落・転倒・外傷等）」、「安全正確な与薬・注射に関わる技術」について臨床場面をアセスメントし、シュミレーション演習を行う。			
到達目標	1. 医療安全、医療事故防止の基礎知識が理解できる。 2. 医療安全、医療事故防止の基本技術・態度の修得ができる。			
授業計画				
講義テーマ			授業内容	
第1回	医療安全概論		医療安全と看護の理念 国の医療安全への取り組み	
第2回	医療安全への取り組みと医療の質の評価		医療事故の報告・医療の質の評価 事例をとおして、患者への影響レベルを考える	
第3回	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント		事故発生のメカニズム・事故分析・事故対策 KYT・RCA分析手法の特徴	
第4回	患者・家族との共同と安全文化の醸成 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策		患者・家族との共同 事例から5S活動を考える（グループワーク） 感染に対する標準予防策	
第5回	看護における医療事故と安全対策①		医療事故の分析と対策 （誤薬・誤認・誤嚥）	
第6回	看護における医療事故と安全対策②		医療事故の分析と対策 （転倒・転落 ・皮膚障害 ）	
第7回	看護における医療事故と安全対策③		医療事故の分析と対策	
第8回	在宅看護における医療事故と対策		在宅看護における医療事故とその対応 在宅看護におけるリスク管理の現状と課題	
第9回	医療事故の対応 グループワーク ①		医療事故発生時の初期対応の考え方と方法 発表準備	
第10回	グループワーク ②		発表準備	
第11回	グループワーク ③		発表準備 （演習室使用）	
第12回	グループワーク ④		発表準備 （演習室使用）	
第13回	発表		KYT シュミレーション発表	
第14回	発表		KYT シュミレーション発表	
第15回	看護学生の実習と安全		看護の安全と法的責任・レポート作成	
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践（2）医療安全 メディカ出版			
参考書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院			
評価方法	演習評価 30% 筆記試験70%			
オフィスアワー	水曜日 16:20～18:30 研究室			
準備学習（予習、復習）	予習；各領域の授業内容をもとに、テキスト・授業の資料を読んでおきましょう		復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう	

授業科目名	在宅看護論実習	担当教員名	則竹 翔、五島 敬子
学年	3	開講期	通年
単位数	2	必修/選択	必修
実習の概要	実習施設は「訪問看護ステーション」とし、訪問看護活動の実際を、実習を通して学ぶ。		
到達目標	1. 地域で疾病や障害を持って生活をしている個人とその家族を理解する。 2. 地域で疾病や障害を持って生活をしている個人とその家族への看護援助の実際を理解する。 3. 訪問看護ステーションの機能と役割を理解する。 4. 在宅療養支援における社会資源の活用の実際と連携の必要性を理解する。		
実習計画			
1 事前学習をレポートにまとめ提出するとともに、既習の関連科目を複数して実習に備える			
2 実習のすすめかた			
1) 訪問看護ステーションで1週間実習する。ただし、原則として水曜日は帰校日とする（祝祭日の週は無）			
2) 学内実習：受持対象者とその家族の「利用者の全体像」等の課題について作成し、在宅看護の理解を深める。			
テキスト	地域看護学概説・在宅看護論：NOUVELLE、在宅看護体験学習ノート：医歯薬出版株機器会社		
参考書	訪問看護アセスメント・プロトコル：山内豊明 中央法規、国民衛生の動向：厚生労働統計協会他		
評価方法	受講態度及び学内実習の結果について、「在宅看護論実習評価表」による評価		
オフィスアワー	随時 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；各領域の授業内容をもとに、テキスト・授業の資料を読んでおきましょう	復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう	

授業科目名	統合実習	担当教員名	高木 繁子・則竹 翔 他看護学科全教員
学年	3	開講期	後期
単位数	2	必修/選択	必修
実習の概要	健康問題をもつ複数の対象者への援助を通して、看護がチーム医療の中でどのように展開され、継続していくかを理解する。また、実践場面の分析をもとに、看護管理の視点に基づき、看護者に期待される役割を理解し、自己の知識・技術・態度について、今後の学習課題を明確にする。		
到達目標	1) 看護ケアのマネジメントを学ぶために、複数患者受け持ちを行い、優先順位・時間管理・安全を考慮した援助を実践する。 2) 看護サービスのマネジメントを学ぶために、管理者（看護師長、看護部長など）の説明や、業務内容の実際から組織としての目的を達成するための看護サービスについて知ることができる。		
実習計画			
実習時間：病院の勤務時間にあわせて設定 実習内容 1週目（月曜日～金曜日）2週目学内実習（月曜日～金曜日） 1) 看護サービスマネジメント実習 管理者より、説明、見学実習 2) 複数受け持ち実習の方法 ① 受け持ち患者は、同じチームの患者2名として複数受け持ち実習開始から4日間同じチームで行う。 ② 受け持ち患者の選定は、病態、ケア度、健康段階の異なる患者を組み合わせることが望ましい。 例：セルフケア指導が中心の患者+手術前後の患者 ③ 受け持ち患者の看護計画は、病棟での計画を行う。ただし、メンバーナースの業務の観察やその計画の必要性について事前に収集した情報より、アセスメントし計画の必要性を理解する。 （振り返りで学内実習で、看護過程をおこなう） ④ 予定されている検査 処置、看護計画の実施時間の調整方法についてナースに助言を受けながら計画する。 ⑤ 急変や、治療の変更、などで、スケジュールの調整方法についても修正方法を知り調整することができる。 ⑥ 受け持ち患者の実施後は、看護技術優先順位・時間管理・安全管理、看護計画の到達目標の達成度の視点で評価する。 3) 統合実習全体の構造 本日実習においては、ポートフォリオ形式にて行う。 事前学習 ① 過去の実習を振り返り、どのような患者を受け持ち、どのような学びができたかを領域ごとにまとめる。 ② 看護ケアマネージマネジメント実習、看護サービスマネジメント実習の個人目標をたてる。 ③ 事前に統合実習に行く病棟の看護方式や、患者の特徴などをリサーチ（教員より聞く）し、看護管理の学習をする。 ④ 看護技術の体験していないことについて事前学習を行う。 病棟実習 ① 複数受け持ち実習 ② 管理実習 学内実習 ① 病棟実習でのまとめとして、受け持ち患者の病期にあわせた病態、重症度を中心に考えた看護過程（患者紹介、アセスメント、全体像の把握（関連図）、看護計画、実施評価）のケースまとめを行う。 ② 設定した目標の評価と看護観についてまとめる。			
テキスト	系統看護学講座「老年看護学」医学書院、系統看護学講座「成人看護学」医学書院		
参考書	亀井智子編「根拠と事故防止からみた老年看護技術」医学書院		
評価方法	評価表に基づき、実習内容、実習記録などについて、全般的に評価。		
オフィスアワー	月曜日14：00～15：00 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；各領域の授業内容をもとに、テキスト・授業の資料を読んでおきましょう	復習；資料、テキストをもとに振り返りとまとめをしておきましょう	

授業科目名	ヘルスアセスメント論演習	担当教員名	森口 信子
学年	3	開講期	前期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	看護の対象への個別的看護を提供するためには、的確なアセスメントの視点とテクニックが必要である。本講義では、臨地実習で行った事例展開の見直しをすることで、自己の振り返りやグループ学習をすることで現時点での自己のレベルや問題点を明確にし、レベルアップのために学習法を身につけ卒業後の就業を円滑にする。		
到達目標	1. 自己のレベルを知り、問題を明確にできる 2. 臨地実習で展開した事例に対する新たな展開を導くことができる		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の説明、事例の提示（3事例）、看護過程の復習	
第2回	事例のまとめ（1）	患者紹介から病態説明	
第3回	事例のまとめ（2）	問題点から看護計画	
第4回	事例のまとめ（3）	実施から評価	
第5回	グループワーク	それぞれの問題点と課題の抽出	
第6回	事例のまとめ（1）	患者紹介から病態説明	
第7回	事例のまとめ（2）	問題点から看護計画	
第8回	事例のまとめ（3）	実施から評価	
第9回	グループワーク	それぞれの問題点と課題の抽出	
第10回	事例のまとめ（1）	患者紹介から病態説明	
第11回	事例のまとめ（2）	問題点から看護計画	
第12回	事例のまとめ（3）	実施から評価	
第13回	グループワーク	それぞれの問題点と課題の抽出	
第14回	まとめ（1）	まとめた3事例について抽出された問題点と課題に対する修正および、自己の課題についてのレポート作成	
第15回	まとめ（2）		
テキスト	なし、資料を配布する		
参考書	随時紹介する		
評価方法	授業態度10%、レポート90%		
オフィスアワー	講義終了後 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 授業内容をもとに、資料をを読んでおきましょう。		<復習> 資料をもとに振り返りまとめをしておきましょう。わからない所は質問をして理解しておきましょう。

授業科目名	ケアマネジメント論	担当教員名	森口 信子
学年	2	開講期	後期
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	介護保険におけるケアマネジメントとは、地域で生活する要援護者を社会資源につなぎ、サービス利用者が住み慣れた地域社会での生活を可能にすることを目指すものである。本講義では、ケアマネジメントの理念や目的を初め、ケアマネジメントの機能、現状等について学ぶ。		
到達目標	1. 介護保険制度下のケアマネジメントの理念と基礎知識について理解する。 2. ケアマネジメントに必要な保健・医療・福祉職間の連携の在り方について考える。 3. ケアマネジメントにおけるサービス計画を展開することができる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	ケアマネジメントとは何か	ケアマネジメントの理念・目的 ケアマネジメントに関連する概念	
第2回	ケアマネジメントのプロセス①	利用者の状態の把握とは	
第3回	ケアマネジメントのプロセス②	サービス計画の作成とは	
第4回	ケアマネジメント事例演習①	事例を用いたグループワーク（情報の収集および整理）	
第5回	ケアマネジメント事例演習②	事例を用いたグループワーク（アセスメント）	
第6回	ケアマネジメント事例演習③	事例を用いたグループワーク（サービス計画の作成）	
第7回	ケアマネジメント事例演習④	事例を用いたグループワーク（サービス担当者会議）	
第8回	まとめ	ケアマネジメントの現状と課題	
テキスト	北川公子 他 「老年看護学(第7版)」 医学書院 ユーキャン ケアマネジャーワークシート KKユーキャン自由国民社		
参考書	随時紹介		
評価方法	課題レポート（80％）、質問・発言など授業への参加態度（20％）		
オフィスアワー	月曜日14：00～15：00 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう。		<復習> 資料、テキストをもとに振り返りまとめをしておきましょう。わからない所は質問をして理解しておきましょう。

授業科目名	認知症老人ケア論	担当教員名	野田 みや子、水木 幸子
学年	3	開講期	前期（集中）
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	老人の認知症について理解を深め、参考事例をもとに患者を援助するために必要な看護師としての態度、主な行動障害への対応について学ぶ		
到達目標	1. 認知症が高齢者の生活行動に及ぼす影響について理解する 2. 認知症高齢者への基本的対応と生活場面での具体的支援のあり方について、実践を通し学ぶ。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	認知症の理解①	統計的概観、（現状・認知症日常生活自立度・有病率・平均寿命等）	
第2回	認知症の理解②	認知症の定義・認知症の構造（中枢神経性疾患・血管性認知症）症状認知症の症状（徘徊・幻覚・妄想等）・疾患および経過	
第3回	認知症の理解③	認知症のケア（排泄・食事・コミュニケーション等）	
第4回	グループ活動①	高齢化社会において、問題点を出し、追求しレポートとしてまとめる。	
第5回	グループ活動②	々	
第6回	グループ活動③	々	
第7回	グループ活動④	々	
第8回	まとめ	最終日レポート提出	
テキスト	老年看護学 北川君子 医学書院、 国民衛生の動向、 国民の福祉と介護の動向 各領域教科書		
参考書	適時 紹介する。		
評価方法	受講態度20%、レポート80%		
オフィスアワー	講義後 30分間 研究室		
準備学習(予習、復習)	予習；授業内容をもとに、テキストを読んでおきましょう		復習；資料、テキストをもとに認知症看護の課題と対策のまとめを進めていきましょう

授業科目名	救急医療看護論	担当教員名	森口 信子、浅井 佳士、則竹 翔
学年	3	開講期	前期（集中）
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	心停止から1分ごとに救命率は7～10％低下するといわれている。その間にできることは何かを理解する必要がある。医療従事者として、救急場면을想定しながら、マラソンの救護を通して救急看護を学ぶとともに、他職種との救急の連携について学ぶ。		
到達目標	心肺蘇生法について理解し、技術を習得する。 看護師として救急医療のありかたについて考えることができる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	救急蘇生とは	救急蘇生についての概要	
第2回	救急蘇生の実際	A E Dの使い方と心肺蘇生	
第3回	清流マラソン救護ボランティア①	マラソンボランティア参加①	
第4回	清流マラソン救護ボランティア②	マラソンボランティア参加②	
第5回	清流マラソン救護ボランティア③	マラソンボランティア参加③	
第6回	清流マラソン救護ボランティア④	マラソンボランティア参加④	
第7回	清流マラソン救護ボランティア⑤	マラソンボランティア参加⑤	
第8回	まとめ	マラソンの救護の実際を通して救急（看護）医療について考えたことを発表する。	
テキスト	配布資料		
参考書	なし		
評価方法	ボランティア参加状況70%、レポート30%		
オフィスアワー	授業時間終了日16時～17時 研究室		
準備学習 （予習、復習）	<予習> 授業内容をもとに、資料を読んでおきましょう。		<復習> 資料をもとに振り返りまとめをしておきましょう。わからない所は質問をして理解しておきましょう。

授業科目名	代替医療論	担当教員名	野田みや子、石田美知
学年	3	開講期	前期（集中）
単位数	1	必修/選択	選択
授業の概要	近年、音楽療法・アロマテラピーをはじめとする代替医療について論じられることが多くなった。本講義では、主な代替医療についての知識・方法を理解し、ヨガ・リフレクソロジーの演習を通して代替医療の実践を学習する。		
到達目標	1. 現在医療現場で行われている代替医療について理解できる。 2. マタニティヨガについての理解および実践ができる。 3. アロマテラピー・リフレクソロジーについての理解および実践ができる。		
授業計画			
講義テーマ		授業内容	
第1回	代替医療とは	代替医療の歴史的背景、代替医療の種類	
第2回	アロマテラピー	アロマテラピーの効果、禁忌事項、アロマテラピーを用いたマッサージ体験（服装はジャージで、バスタオル1枚、ハンドタオル1枚を用意してください。）	
第3回	アロマテラピー	アロマテラピーの効果、禁忌事項、アロマテラピーを用いたマッサージ体験	
第4回	リフレクソロジー	歴史、反射区、禁忌事項、リフレクソロジーの演習	
第5回	マタニティヨガ	マタニティヨガとは、産前ヨガとは （演習をしますので、動きやすい服装で臨んでください）	
第6回	マタニティヨガ	ヨガ、産前ヨガ（演習） （演習をしますので、動きやすい服装で臨んでください）	
第7回	マタニティヨガ	産後ヨガとは （演習をしますので、動きやすい服装で臨んでください）	
第8回	マタニティヨガ	ヨガ、産後ヨガ（演習） （演習をしますので、動きやすい服装で臨んでください）	
テキスト	なし、配布プリント		
参考書	随時紹介する		
評価方法	受講態度20%、レポート80%		
オフィスアワー			
準備学習（予習、復習）	予習；授業内容をもとに、学びたいことをまとめておきましょう	復習；資料をもとに振り返りとまとめをしておきましょう	